

SYLLABUS

令和7年度(2025年度)

滋賀県立信楽高等学校

シラバス2025 科目表

教科	科目	単位数	学習年次			共通	選択	セラミック	デザイン	普通	自由選択
			1年	2年	3年						
国語	現代の国語	2	○			○					
	言語文化	2	○			○					
	国語表現	3		○						○	
	文学国語	3		○		○					
	基礎国語	2		○							○
	論理国語	4			○	○					
	教養国語	2			○						○
	古典探究	3			○					○	
地理歴史	地理総合	2		○		○					
	歴史総合	2			○	○					
	歴史演習	4			○						○
公民	公 共	2	○			○					
	時事問題	2			○						○
数学	数学Ⅰ	3	○			○					
	数学Ⅱ	3		○						○	
	数学A	2		○		○					
	実用数学	4			○						○
	数学B	2			○						○
	数学演習	2			○						○
理科	科学と人間生活	2	○			○					
	生物基礎	2		○		○					
	地学基礎	2			○					○	
	物理基礎	2			○						○
	理科一般	4			○						○
保健体育	体 育	7	○	○	○	○					
	保 健	2	○	○		○					
	生涯スポーツ	2			○						○
芸術	音楽Ⅰ	2	○				○				
	美術Ⅰ	2	○				○				
	視覚表現研究	4			○						○
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	○			○					
	英語コミュニケーションⅡ	4		○						○	
	論理・表現Ⅰ	2		○		○					
	英語コミュニケーションⅢ	4			○					○	
	実用英語	3			○	○					
	カルトイングリッシュ	2			○						○
家庭	家庭基礎	2		○		○					
情報	情報Ⅰ	2	○			○					
	情報処理基礎	2			○						○
産業社会と人間	産業社会と人間	2	○			○					
(専)美術	素 描	4			○						○
日本語	実用日本語Ⅰ	2		○							○
	実用日本語Ⅱ	2			○						○
工業共通	製図	2		○				○	○		
	課題研究	3			○			○	○		
工業セラミック	セラミック基礎実習	2	○					○			
	実習	12		○	○			○			
	セラミック工業	2		○				○			
	セラミックアーツ	2		○							○
	セラミック技術	2			○						○
	セラミック化学	2			○						○
工業デザイン	デザイン基礎実習	2	○						○		
	実習	14		○	○				○		
	デザイン概論	2		○							○
	デザイン工芸	2			○						○
総合的な探究の時間		3	○	○	○	○					

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
現代の国語	2	総合学科	1	T Tまたは分割

1. 学習の目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養う。

2. 使用教材

使用教科書	「新 現代の国語」 (三省堂)
副教材	「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」 (大修館書店) 「常用漢字ダブルクリア 四訂版」 (尚文出版)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、プレゼンテーション等）、レポート、振り返りシートで評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとするとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
	4	漢字	基礎的な知識・技能を獲得する。	小テスト 定期考査		
1	5	『わかり合う』とは何かを考える。筆者の主張を的確に捉え、要旨や要点を把握できるようにする。 「届く言葉、届かない言葉」 (読む2時間 書く3時間)	・自分の言葉をいかに相手に届かせるかという課題に対して筆者の考えを捉え、情報を要約する。	中間考査	中間考査	振り返りシート
	6	「わかりあえないことから」 (読む2時間 書く3時間)	・「コミュニケーション」という共通するテーマからわかり合うこと・聞くこと・話すことを筆者の主張から読み取り、情報を関連づけてまとめる。	中間考査	中間考査 レポート	振り返りシート
	6	「聞く力」 (読む2時間 書く3時間)		期末考査	期末考査	振り返りシート
	7	情報の信頼性自体を問い直すことを理解し、情報と適切に付き合う方法について考えられるようにする。 「情報はつくられる」 (話す・聞く4時間) 「ひとまず、信じない」 (読む2時間 話す・聞く3時間) 「情報を編集し、的確に発表する ―パブリックスピーチ―」 (読む2時間 話す・聞く4時間)	・自分が目にした情報以外はすべて誰かによってつくられたものであるという観点を通して、「情報はどこまで信じられるか」という点について関心を持ち、情報と適切につきあうことについて考える。 ・情報を適切に編集し、自分の考えを発表する。	期末考査	期末考査	振り返りシート
2	9	比較して述べることにどのような効果があるかがわかるようになる。 「読むことのレッスン」 (話す・聞く3時間)	・比較して述べるときに、有効性や比較相手の必要性を考え、筆者の説明の方法を理解する。	中間考査	中間考査	振り返りシート
	10	「水の東西」 (読む2時間) 事例と主張の関係に着目して筆者の考えを読み取る。 「コインは円形か」	・比較して述べられている文章を通して、「文化」や「社会」の違いを見つめなおし、身近な問題について考える。 ・さまざまな視点から情報を捉えることを理解し、	中間考査 期末考査	中間考査 期末考査 レポート	振り返りシート 振り返りシート

2	11	(読む2時間) 説得力を高めるために、引用の目的や説明の仕方について理解する。 「折々のことば」 (書く4時間) 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」 (読む2時間 書く3時間)	レトリックの積極的な意義について考えを深める。 ・具体例が筆者の主張とどうつながるかを理解する。	期末考查 期末考查	レポート 期末考查 期末考查	振り返りシート 振り返りシート
	12	「情報を整理して推薦するーブックトーク原稿」 (書く3時間 話す・聞く3時間)	・引用を用いた文章を読み、引用の効果について習得する。 ・読み手に説得してもらうための方法として、筆者の語り口や表現の工夫、説明の仕方を考える。 ・読み手の理解が得られるよう構成や展開を工夫し、自分のおすすめの本についてプレゼンテーションをする。		パフォーマンス課題 (プレゼンテーション)	
3	1	世界の見え方の違いには「ことば」が見え方を規定していることを理解し、自分が書いたことを推敲、進化させていけるようにする。 「ありのままの世界は見えない」 (読む2時間・書く4時間)	・具体例と筆者の主張の関係を整理する。	学年末考查	学年末考查	振り返りシート
	2	「ものとことば」 (読む2時間・書く3時間)	・「ありのままの世界は見えない」と読み比べ、共通しているテーマを見つける。 ・「ことば」を使うことによって「ことば」が新たな世界の見方を導くことを理解する。	学年末考查	学年末考查 レポート	振り返りシート
	3	自分が感じたことをどのように伝えるのか、それが相手にどう伝わるのかを実践できるようにする。 「世界を言葉で広げる」 (書く4時間 話す・聞く3時間)	・イラストを見て、感じたことや考えたことについて意見交流し、言葉のもつ働きについて考える。		レポート	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

定期考查、授業態度、提出物、出席状況などから総合的に判断する。
「人の話を聞く」「自分の考えを表現する」ことを意識すること。

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
言語文化	2	総合学科	1	T Tまたは分割

1. 学習の目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、我が国の言語文化を理解しようとする態度を養う。

2. 使用教材

使用教科書	「新 言語文化」 （三省堂）
副教材	「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」 （大修館書店）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、課題考査、小テスト、パフォーマンス課題（音読、課題作文等）、レポート、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させようとしている。我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
通年		読書	読書習慣をつけ、本に親しむ。			
1	4	言語文化の現代的な価値を考える・千年の時間が与えてくれる安堵（読むこと5時間）	・文章を読み、概要を把握し、題名が持つ意味について考える。	課題考査		振り返りシート
	5	文章に表れたものの見方・考え方を捉える・枕草子（読むこと6時間、書くこと3時間）	・言語文化の現代的な価値を考える。 ・歴史的仮名遣いにふれる。 ・音読し傍訳を参考にしながら大意を捉える。	中間考査	レポート 音読	振り返りシート
	6	レポートの構成や描写を工夫して書く・春を切り抜く（書くこと5時間）	・身のまわりの物事から「をかし」「ありがたし」と感じることを探し、文章にまとめる。		レポート	振り返りシート
	7	慣用的な表現を捉える・虎の威を借りる狐（読むこと6時間） 読書の意義について考える・背表紙がキラリと光って見えるんです（読むこと4時間）	・春に関する言葉や風物詩、伝統行事などについて調べレポートに構成や描写を工夫して表す。 ・音読し傍訳を参考にしながら大意を捉える。また、どのような意味をしているか考え、まとめる。 ・二編の故事から生まれた成語の用法について話し合う。 ・読書の意義について考える。	期末考査	レポート 期末考査	振り返りシート 振り返りシート
2	9	物語の全体構成を捉える・説苑（読むこと6時間） 物語の展開を把握し、登場人物の心情を捉える・羅生門（読むこと10時間・書くこと3時間）	・訓読の基本を確認する。 ・物語の全体構成を捉え、人物の言動について整理し紹介しあう。	課題考査	レポート 音読	振り返りシート
	10		・文章を通読し、概要と場面設定を確認する。	中間考査	レポート 課題作文 中間考査	振り返りシート
	11		・「老婆」の発言を確認する。 ・「下人」の心情の変化を確認し、そのきっかけになったできごとについて考える。また、「下人」のその後を考えて、文章に表す。			
	12	作品についてその世界観を豊かに想像する・和歌十首、短歌七首（書くこと4時間）	・和歌・短歌を音読し、表現された内容を自分の言葉でまとめる。 ・歌が詠まれた背景や心情を想像しながら、物語を書く。	期末考査	課題作文 期末考査	振り返りシート
3	1	心情表現の多様さを捉える・オムライス（読むこと7時間・書くこと3時間）	・心情表現を的確につかむ。 ・別の語り手を設定して、物語を作る。	課題考査	課題作文	振り返りシート
	2	作品の背景を想像する・漢詩四編（読むこと4時間）	・音読し、それぞれの詩の心情を時代や作者の背景をふまえて捉える。 ・漢詩の形式にふれる。		レポート	振り返りシート
	3	読み手に与える表現効果を考えて表現する・冬を切り抜く（書くこと4時間）	・自分の体験や見聞から、詠み手に伝わる文章を書く。	学年末考査	学年末考査 随筆文	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

定期考査、授業態度、提出物、出席状況などから総合的に判断する。
「人の話を聞く」「自分の考えを表現する」ことを意識すること。

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
国語表現	3	総合学科	2	一斉

1. 学習の目標

- ・国語で適切かつ効果的に表現する能力を育て、伝え合う力を高めるとともに、考える力や想像する力を伸ばす。
- ・基礎的事項の繰り返し学習を重視し、言語活動を通して実践的に学習することで、進んで表現する姿勢を身に付け、国語力を向上させる。

2. 使用教材

教科書	大修館書店「国語表現」
副教材	大修館書店「国語表現 基礎練習ノート」 「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、課題、提出物、授業態度、出席状況、振り返り内容などから総合的に判断する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解し、話し言葉と書き言葉の特徴や役割、目的や場面や手段に応じた適切な言葉や表記の大切さを理解している。 ・自分の思いや考えを表現するために、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	・自分の考えや思いを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするために、表現を工夫している。 ・「書くこと」において、読み手に対して自分の考えや思いが効果的に伝わるように、吟味し全体を整えている。 ・「書くこと」での原稿をもとに他者にわかりやすく伝えることができるように「話す」、さらにそれらを「聞くこと」によって、自己と他者の意見の比較に努めている。	・相手や場面に応じた正しい表記や語彙、表現を使い、わかりやすい内容になるように積極的に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	〈言葉と出会う〉 ○言葉と表記 (書くこと)	・表記の決まりを意識し、正しく書けるようにする。慣用表現を知る。 ・係り受けを整える。 ・常体か敬体かを考え、文末表現を統一した文を書く。 ・和語・漢語・外来語にどのような言葉があり、どのような場面や文脈で使われるかを理解する。 ・文法的に誤った表現や略語など改まった場面では使えない表現を理解する。 ・敬語の正しい知識をもち、使いわけを理解する。 ・長すぎる文を短文にする、読点を効果的に使える、などわかりやすい文になる工夫ができるようになる。	小テスト 中間考査 小テスト 中間考査	中間考査 中間考査	観察 振り返り 観察 振り返り 観察 振り返り
	5	○整った文を書く (書くこと)		小テスト 中間考査	中間考査	観察 振り返り 観察 振り返り
	6	○和語・漢語・外来語 (書くこと)		小テスト 中間考査	中間考査	観察 振り返り 観察 振り返り
	7	○話し言葉と書き言葉 (書くこと)		小テスト 中間考査	中間考査	観察 振り返り 観察 振り返り
	7	○敬語 (書くこと) ○わかりやすい文を書く (書くこと)		小テスト 期末考査 小テスト 期末考査	期末考査 期末考査	観察 振り返り 観察 振り返り
2	9	○文のつなぎ方 (書くこと)	・接続表現、指示語等を用いて文脈から文を適切につなげられるようにする。 ・原稿用紙の使い方を確認しながらこれまで学んできたことを定着させる。 ・絵や写真を見て文章を書き、相手に伝えたいことが伝わるにはどのような工夫が必要かを理解する。 ・自己の伝えたいニュースを原稿に書けるようにする。 ・5W1Hを意識して、原稿のもととなることを詳しく考えられるようにする。 ・小論文の基本的な書き方を理解し、意見を筋道立てて書く。 ・反論を想定し、構成を考え、説得力のある意見を筋道立てて書く。 ・文章を読み取って、要旨を正確につかみ、自分の意見を書く。 ・統計資料を読み取り、それをふまえて自分の意見を書く。	小テスト 中間考査	中間考査	観察 振り返り
	10	〈伝える、伝え合う〉 ○絵や写真を見て書く (書くこと) (話すこと・聞くこと) ○マイニュース記事を書く (書くこと) (話すこと・聞くこと)		中間考査 中間考査	原稿内容 発表 中間考査 原稿内容 発表 中間考査	観察 振り返り 観察 振り返り
	11	〈小論文・レポート入門〉 ○小論文を書く (書くこと)		期末考査	原稿内容 期末考査	観察 振り返り
	12	○文章や統計資料を読み取り、自分の意見を書く (書くこと) (話すこと・聞くこと)		期末考査	原稿内容 発表 期末考査	観察 振り返り
3	1	〈自己PRと面接〉 ○自分をみつめる (書くこと) (話すこと・聞くこと)	・自分の今までの人生を振り返り、経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを明確にし、将来を考える。 ・自己PRができるようになる。 ・手紙、葉書、電話、接客など相手や目的や場面に応じた言葉や文の使い分けを理解する。	学年末考査	原稿内容 発表 学年末考査	観察 振り返り
	2	〈メディアを駆使する〉 〈会話・議論・発表〉				
	3	○通信文を書き分ける (書くこと) ○相手や場面に応じた会話 (話すこと・聞くこと)		学年末考査	原稿内容 発表 学年末考査	観察 振り返り

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

学んだことがその時限りにならないように積み重ねていくことが大切です。文章を書く、発表をする、人の話を聞き取る、など個々の学びだけでなく人と学び合う機会を多く設けています。積極的に学習に向かい実践していきましょう。

考査結果だけでなく、日頃の授業態度、期日を守って提出物が出せること、発表などを総合的に評価します。

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
文学国語	3	総合学科	2	T Tまたは分割

1. 学習の目標

- ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 使用教材

教科書	「新編 文学国語」(大修館書店)
副教材	「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」(大修館書店) 「常用漢字ダブルクリア 四訂版」(尚文出版)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		出席状況、定期考査、パフォーマンス課題（スピーチ、プレゼンテーション等）、レポート、振り返り内容で評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 ・我が国の言語文化の特徴について理解を深めている。	・文学作品を共感的に読む中で想像したことや、独自に考えたこと等を伝えることができる。 ・他者との共感的な関わりの中で、自己の思いや考えを広げ深めることができる。	・我が国の言語文化について思ったこと、文学作品を読んで想像したこと、また独自に考えたことなどを振り返ることで学習に生かそうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	他者と自分の考えを比べ、考えを深めよう 「少なくとも最後まで歩かなかった」 「そとみとなかみ」	・文章を読んで内容や話の構造を理解するとともに、共感したことや自分で考えたことについてまとめたり、他者と交流することで考えを深める。	中間考查 中間考查	中間考查 中間考查 レポート	振り返り 観察 振り返り 観察
	5	「一言で心をつかもう」	・共感を集めるキャッチコピーを考え、その意図をまとめることで、創造的に考える力を養う。		課題作文	
	6	話の面白さを言葉で表現しよう 「ナイン」 「魅力を言葉で表そう」 「晴れた空の下で」	・場面の設定を正確に捉えることで、文章を読解するとともに、情景描写の効果などについて独自で考え、深めることができる。 ・自己の好きなものの魅力が、読み手に効果的に伝わるように書くことで、伝える力を養う。	期末考查	期末考查 レポート	振り返り 観察
	7	「星取り」	・描写に注目して文章を読み取る。 ・話のおもしろさを捉え、我が国の言語文化の魅力について理解を深める。	課題考查 課題考查	プレゼン	振り返り 観察
2	9	登場人物の思いや考えを共感的に捉えよう 「山月記」 「かぐや姫の昇天」	・漢文調の文章の魅力を味わうとともに、登場人物の生き方や考え方について理解を深める。	中間考查	中間考查 レポート	振り返り 観察
	10	「月やあらぬ」	・かぐや姫の心情の変化を読み取るとともに、登場人物の思いについて共感的に捉えることで、理解を深める。	中間考查	中間考查	振り返り 観察
	11	寓意を読み取り、考えを深めよう① 「鞆」	・男の心情の変化を読み取るとともに、登場人物の思いについて共感的に捉えることで、理解を深める。	期末考查	期末考查 課題作文	振り返り 観察
	12	登場人物の魅力を表そう 「桐壺」 「若柴」	・文章に込められた寓意を読み取り、考えを深める。 ・登場人物の設定や描写の仕方を捉え、それぞれの人物の魅力について考えを深め、伝える。	期末考查	期末考查 レポート	振り返り 観察
3	1	寓意を読み取り、考えを深めよう② 「山椒魚」	・文章に込められた教訓について、自分で考え、他者と交流することで、考えを広げ、深める。	学年末考查	学年末考查	振り返り 観察
	2	自分の生き方と登場人物の生き方を結びつけて考えよう	・登場人物の生き方を、自己の生き方と結びつけながら読み、考えを深める。 ・優れた表現に触れ、読み味わう。	学年末考查	学年末考查 レポート	振り返り 観察
	3	「こころ」 ショートショートを作成しよう 「ショートショートを書こう」	・独創的な構成や展開など、独自で工夫して話を創作し、ショートショートを作成する。 ・完成したショートショートを読み合い、考えを広げる。		課題作文	

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ①授業の振り返りが評価に大きく影響します。考查結果だけでなく、授業に取り組む様子によって結果が大きく変化するという事です。また生徒同士で話し合う機会も多くあります。考えを広げ深めるために、他者との関わりを、本授業では大切にしたいと考えています。
- ②スマホの利用、立ち歩き、授業妨害等は大きく減点します。
- ③授業が始まる前に、教科書、副教材、ファイル、を机の上に置いておいてください。

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
基礎国語	2	総合学科	2	選択

1. 学習の目標

実社会で用いられる基本的語彙、常用漢字、文章表現や技法に関する知識・理解を深めるとともに、文章読解のための技能を身に付けるようにする。文章を読んで考えたことや感じたことを意見文として伝えるとともに、他者との関わりの中で、自己の思いや考えを広げ深めることができるようにする。言葉を通じて思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を効果的に使うことができるようにする。

2. 使用教材

主たる教材	ビジュアルカラー国語便覧 改訂版（大修館書店） 自主教材
副教材	論読 現代文 1（浜島書店） 自主教材

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、提出物、授業態度、出席状況などから総合的に判断する。		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 実社会で用いられる基本的語彙、常用漢字、文章表現や技法に関する知識・理解を深めるとともに、文章読解のための技能を身に付けている。	・ 文章を読んで考えたことや感じたことを意見文として伝えることができる。 ・ 他者との関わりの中で、自己の思いや考えを広げ深めることができる。	・ 言葉を通じて思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとするとともに、言葉を効果的に使おうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	評論で使われる語句を学ぶ 1 ココロの止まり木 2 美術の核心	- 文章の基本となる単語や語句の意味を理解する。 - 筆者の「問い」に着目して、評論を読解する力を身に付ける。 「問い」の根拠を捉える力を身に付ける。	中間考査		振り返りシート
				中間考査	意見文 中間考査	意見文
				中間考査	意見文 中間考査	意見文
	5	3 動物と人間の世界認識 4 県庁おもてなし課	- 筆者の言葉の定義をつかむ力を身に付ける。 - 様々な描写から心情を読み取る力を身に付ける。	中間考査	意見文 中間考査	意見文
				中間考査	意見文 中間考査	意見文
	6	小説で使われる語句を学ぶ 5 人間にとって科学とは何か	- 小説で使われる語句を学び、語彙力、漢字力を高める。 - 筆者の言葉の定義をつかみ、その言葉が使われている意図をつかむ力を身に付ける。	期末考査		振り返りシート
				期末考査	意見文 期末考査	意見文
	7	6 妹たちへ 7 悩み老いて最強たれ 8 日本語にとってカタカナとは何か	- 体験と意見を読み分ける力を身に付ける。 - 複数の具体例の共通点から、筆者の主張を読み取る力を身に付ける。 - 具体例が意見の根拠となっている文章を読み解く力を身に付ける。	期末考査	意見文 期末考査	意見文
2	9	ことわざ・故事成語 9 ステップ	- 日常よく用いられることわざ、故事成語を理解する。 - 登場人物の人物像を捉える力を身に付ける。	中間考査		振り返りシート
				中間考査	意見文 中間考査	意見文
	10	10 日本語教のすすめ 11 庭と日本人	- 比喻による例示に着目し、読解する力を身に付ける。 - 対比構造に着目し、読解する力を身に付ける。	中間考査	意見文 中間考査	意見文
				中間考査	意見文 中間考査	意見文
	11	12 学問の力 類義語・対義語	- 対比された事柄のどちらが論の中心か捉え、読解する力を身に付ける。 - 日常よく用いられる類義語、対義語を理解する。	中間考査	意見文 中間考査	意見文
				期末考査		振り返りシート
	12	13 朝顔は闇の底に咲く 14 少女は卒業しない 15 自分探しと楽しさについて 16 もしも利休があなたを招いたら	- 対比から導かれた意見を読み取る力を身に付ける。 - 時間軸に注意し、過去の心情と現在の心情との違いや変化を読み取る力を身に付ける。 - 古今の対比からその変化の理由を読み取る力を身に付ける。 - 論が切り替わる部分に着目し、筆者の意見を読み取る力を身に付ける。	期末考査	意見文 期末考査	意見文
				期末考査	意見文 期末考査	意見文
3	1	熟語・慣用句 17 なぜ日本人はとりあえず謝るのか	- 日常よく用いられる熟語、慣用句を理解する。 - 接続語に着目して、中心的な段落とそれを支える段落とを読み取る力を身に付ける。	学年末考査		振り返りシート
				学年末考査	意見文 学年末考査	意見文
	2	18 俳句脳 19 芋粥	- 端的に述べられた主張を、例を通して読み取る力を身に付ける。 - 心象表現を読み取る力を身に付ける。	学年末考査	意見文 学年末考査	意見文
	3	20 怯えの時代	段落それぞれの働きを理解し、整理しながら読み解く力を身に付ける。	学年末考査	意見文 学年末考査	意見文

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

一人で取り組む時間とグループワークや発表などの協力して取り組む時間を区別し、メリハリをつけた学習を心がけましょう。
しっかりと文章を読解した上で、自分の意見を述べられるように、集中して取り組みましょう。

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
論理国語	4	総合学科	3	一斉

1. 学習の目標

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようになる。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。

2. 使用教材

主たる教材	「新論理国語」 （三省堂）
副教材	「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」 （大修館書店）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、課題、提出物、授業態度、振り返り内容などから総合的に判断する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・ 「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら、自分の思いや考えを広げ、深めることができる。	・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を身につけようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	●論点を明確にする 「若者に友達プレッシャー」 「他者を理解する」	●情報を整理し200字程度で要約を行う ・情報を整理・分析してまとめる。 ・内容や構成・論理の展開を捉えることで要旨をつかむ。	小テスト	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度
	5	●正しく推論するために 「一人で爆笑」 「カタカナ語は享受すべきか」	●書いた文章を批判的にと捉え、より伝わるように書き直す。 ・主張を支える根拠を捉え、整理することで、書き手の意図を捉える。	小テスト	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度
	6				定期考査	
2	7	●事例の意味を探るために 「多様な視点から考える」	●根拠を明確にした意見文を書く。 ・事例の役割と意味を捉え、その効果を批評する。	小テスト 課題考査	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度
	9	●構成を吟味し説得力を高めるために 「ホンモノのおカネの作り方」 「「展示」が伝えるもの」	●情報が整理され、伝えたいことが明確なレポートを書く。 ・事例や表記、書き手の意図を捉える。 ・写真の効果を検証し、内容の解釈を深める。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度
	10	●信頼性を吟味するために 「なぜ私たちは労働するのか」 「「すべり台社会」と「溜め」」	●書いた投書を批評し合う。 ・根拠や事例の適切さを確かめる。 ・論理の構成を明確にし、説得力を高める表現を理解する。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度
	11				定期考査	
3	12	●隠れた前提を探す 「スポーツとナショナリズム」	●お互いのレビューを評価する。 ・結論を導く論拠を批判的に検討する。	小テスト 課題考査	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度
	1	●具体と抽象の関係を理解するために 「この十年をどう生きるか」	●様々な反論を踏まえて、より説得力のある文書を書く。 ・書き手の思考過程を批判的に検討し、多様な論点を結びつける。	小テスト 課題考査	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度
		●批評するために 「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 「言語ゲームと哲学的態度」	●あるテーマについての報告文を書く。 ・具体例の特徴や違いから論じ方を批評する。 ・事例の順序の妥当性や効果を検討する。	小テスト 課題考査	パフォーマンス課題 活動の様子	振り返り 授業態度

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

「論理国語」は授業がすべて

活動への取り組み具合とパフォーマンス課題が、評価の大部分を占めます。構成や趣旨を捉える力、論理的に思考・批評・分析する力、自他の主張を元に考えを深める力、考えを効果的に伝える力…これらは授業でこそ涵養・評価されるべきもので従来のペーパーテストだけで計れるはずありません。ちなみに上記の評価は授業への積極的な参加が大前提です。しっかり活動に取り組んでください。

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
教養国語	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

国語の基礎的・基本的な知識を身につける。

就職や進学などさまざまな進路実現や社会生活に対応するために、基本的な国語力や文章表現力を身につける。

2. 使用教材

主たる教材	桐原書店編集部編「パスポート国語必携 四訂版」
副教材	大修館書店「ビジュアルカラー国語便覧」

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		授業での取り組み、提出物、小テスト、各定期考査など総合的に判断する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	- 漢字の読み書きの力を高めている。 - 国語の基礎的・基本的な語句を身につけ、語彙を豊かにしている。 - 話し言葉と書き言葉の特徴や目的や場面によって適切な表現があることを理解している。	- 身につけた言葉、表現を適切に使うことができる。 - 目的や場面に応じて他者との交流や相互理解をはかるために言葉や表現を工夫している。 - 自分の思いや考えが伝わるように効果的に言葉や表現を選ぶことができる。	- 目的や場面に応じた言葉、表現があることを理解し、力を伸ばそうと積極的に取り組もうとしている。 - 文章作成や発言において、適切な表現を発出しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	(基本編) 漢字の読み書き ことわざ 同音異義語	・ 基本的な漢字の読み書き、また、四字熟語や同音異義語や同字異訓など漢字を活用できるようにする。	小テスト 定期考査 (中間・期末)	定期考査 (中間・期末) 提出物	取り組み 観察 提出物 振り返り
	5	(発展編) 漢字の読み書き 同字異訓 四字熟語	・ ことわざ、四字熟語などの意味がわかり、適切に使えるように身につける。			
	6	SPI (表現編) 文章の整え方 (話し言葉・書き言葉、文体の統一、一文を短く、主述対応など)	・ 文を書く上での留意点を踏まえ、必要な知識を身につけ、具体的な実践として文章を作成する。			
2	9	(基本編) 漢字の読み書き 慣用読み 対義語	・ 基本的な漢字の読み書き、また、対義語や同訓異字・同字異訓など漢字を活用できるようにする。	小テスト 定期考査 (中間・期末)	定期考査 (中間・期末) 提出物	取り組み 観察 提出物 振り返り
	10	口語文法 慣用表現 (発展編) 漢字の読み書き 同訓異字 同字異訓 敬語 SPI	・ 口語文法を学び、言葉の仕組みについて理解する。 ・ 正しい敬語表現を身につけ、場面にふさわしい表現をできるようにする。			
	12	(表現編) 接続詞 原稿用紙の使い方など	・ SPIの問題にチャレンジし、国語の知識を応用させていく。 ・ 原稿用紙の使い方や今までに身につけた文章の整え方のルールに従って、テーマに即した文章をかけるようにする。			
3	1	(基本編) 漢字の読み書き 四字熟語	・ 基本的な漢字の読み書き、また、四字熟語や故事成語、送り仮名についてことばを活用できるようにする。	小テスト 定期考査	定期考査 提出物	取り組み 観察 提出物 振り返り
	2	故事成語 送り仮名 (発展編)	・ 実生活にもあふれているカタカナ語について意味がわかり、正しく使えるようにする。			
	3	漢字の読み書き カタカナ語 (表現編) 「これからの心構え」	・ 現在の自分を振り返り、今後の心構えを今まで学習した表現方法を踏まえて、文章にまとめる。			

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

普段、目や耳にする多くの言葉や表現について「なんとなく知っている。なんとなく分かる。」ではなく、正しく身につけて実生活・実社会で使えるようになってほしいです。間違った認識のままや何も知らずに社会に出るといったことがないように、一つでも多くの表現を身につけて社会に役に立つ人材になるように努力を重ねてください。そのために、一度聞いたことや覚えたことをどんどん使っていく場面を増やしましょう。

2025年度 国 語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
古典探究	3	総合学科	3	系列一斉

1. 学習の目標

- ・ 古典文学読解のための基礎的な知識を身につけ、日本や中国の伝統文化や生活習慣にも親しむ。
- ・ 古文や漢文の読解を通して昔の人の知恵や思想に触れ、そこから生きる術を学ぶとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。

2. 使用教材

主たる教材	大修館書店「精選古典探究」
副教材	大修館書店「精選古典探究 学習ノート」 「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、課題、提出物、授業態度、振り返り内容などから総合的に判断する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価 観点 の 趣 旨	・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解している。	・ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に的確に捉えている。 ・ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	・ 文章の種類を踏まえて、的確に内容を捉えようとしている。 ・ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	先人のものの見方に触れる・『枕草子』「すさまじきもの」	・古文の内容を的確に捉える。 ・先人のものの見方に触れ、自らの考えを深めるとともに、現代と共通するものの見方も捉え、まとめる。	中間考查	中間考查 レポート	振り返り シート
	5	故事成語の成り立ちとものの見方、考え方を捉える・「知音」 「漱石枕流」	・故事成語の成り立ちについて、理解する。 ・中国のものの見方、考え方について触れ、自らの考えを深める。	中間考查	中間考查 レポート	振り返り シート
	6	文章を比較して作者の意図を考える・『今昔物語集』「安倍晴明」、『陰陽師』	・古文の内容を的確に捉える。 ・現代の作品との比較を行い、相違点や共通点から作者の意図について考える。	期末考查	期末考查 レポート	振り返り シート
	7	漢詩のリズムを味わう ・漢詩—近体詩 (王維、蘇軾、李白、杜甫)	・漢詩を音読し、言葉の響きやリズムを味わう。 ・漢詩に込められた思いを読み取る。	期末考查	期末考查	振り返り シート
2	9	和歌の持つ世界観に触れる・『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』	・和歌の持つ言葉の響きやリズムを味わう。 ・それぞれの時代に読まれた和歌の違いについて考察し、特徴を捉える。	中間考查	レポート	振り返り シート
	10	作品の価値について考察する・『源氏物語』 「光源氏の誕生」	・古典特有の表現に注意して、内容を的確に捉える。 ・書かれた時代の背景を踏まえて、長編小説の一部を読み、話の面白さと壮大な構想を味わう。	中間考查	中間考查	振り返り シート
	11	日記文学の持つ世界観に触れ、その価値について考える・『土佐日記』 「羽根」	・日記文学の特徴を踏まえながら、内容を的確に捉える。 ・後の時代につながる日記文学としての『土佐日記』の価値について考える。	期末考查	期末考查	振り返り シート
3	12	文章の構成や展開を的確に捉える・『史記』 「鴻門の会—沛公項王に見ゆ」「項王の最後—四面皆楚歌す」	・中国の歴史を踏まえ、漢楚の興亡についての概要を知る。 ・それぞれの場面における人物の動きと心理を的確に読み取る。 ・漢文特有の表現を的確に捉え、内容を理解する。	期末考查	期末考查	振り返り シート
	1	人の性質について考えを深める・「不忍人之心」「人之性悪」	・古代中国の思想から、現代に通ずるものの見方・考え方を知る。 ・それぞれの文章を読み比べ、人の性質について考えたことをレポートにまとめて発表する。	レポート	レポート 発表	振り返り シート

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

この授業では古文や漢文の内容を的確に把握することはもちろんですが、様々なものの見方や考え方に触れ、自分の考えを深めてもらうことに重点を置いています。また、古典作品の価値についても考察してもらおうと思っていますので、時代背景や当時の表現の仕方等をしっかりと理解し、自分の考えを持てるように授業に取り組んでください。

2025年度 地理・歴史 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
地理総合	2	総合学科	2	T T

1. 学習の目標

- ・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される態度、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

2. 使用教材

主たる教材	「高校生の地理総合」（帝国書院） 「標準高等地図」（帝国書院）
副教材	「高校生の地理総合ノート」（帝国書院）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、小テスト（単元毎）、パフォーマンス課題（ディベート、レポート等）、ノート（プリント）、振り返りシートで評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それを基に議論したりしている。	・地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法			
				a	b	c	
1	4	1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1章 地図や地理情報システムと現代社会 1節 地球儀と地図	・地球儀や様々な図法の地図から現代世界の姿を読み取り、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解し、それらを活用する技能を身に付ける。	小テスト	レポート	振り返りシート	
	5	2節 地図と地理情報システム	・各種地図の特徴について、多面的・多角的に考察し表現し、目的に応じて主体的に利活用する。				
	6	2章 結びつきを強める現代社会 1節 現代世界の国家と領域 2節 地図から見る日本の位置と領域	・国家の領域の定め方や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を読図から見だし、考察する。	中間調査	レポート ディベート 中間調査	ノート 振り返りシート	
		7	2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の産業と人々の生活 4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 5節 多様な生活文化と地理的環境	・世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解する。世界の生活文化の多様性や相互関係を見いだすための地理的見方・考え方を身に付ける。	期末調査	期末調査	ノート
			9	事例①産業 ＜②結びつき＞ ＜③宗教・歴史＞ ＜④自然環境＞	・地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性についての関心を高める。	小テスト	レポート
	10			・世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて主体的に追究する。	中間調査	ディベート 中間調査	
	2	11	2章 地球的課題と国際協力 序説 複雑に絡み合う地球的課題 1節 人口問題 2節 食料問題 3節 都市・居住問題 4節 感染症・衛生問題 5節 資源・エネルギー問題 6節 地球環境問題	・地球的課題が生じている場所や要因、課題同士が相互に関係しあっていることを理解し、地理的見方・考え方を身に付ける。	小テスト		ノート 振り返りシート
12		・地球的課題がどこでどのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みが行われているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。	期末調査	期末調査			
3		3部 持続可能な地球づくりと私たち 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波や火山活動による災害と防災 3節 気象災害と防災 4節 自然災害への備え	・自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解し、考察する。	小テスト	ディベート レポート	振り返りシート	
		2	・自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、実生活と結び付けながら主体的に追究する。	小テスト			
		3	2章 生活圏の調査と地域の展望	・生活圏の調査にあたり、仮説の立て方や調査結果の検証方法、発表の仕方を理解し、比較などを通して考察する。	学年末調査	レポート ディベート 学年末調査 スピーチ	ノート 振り返りシート
			・生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくために活動する。				

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・地理に関わる諸事象に対する理解を深めるため、日常的にニュースや地図等に関心を持つこと
- ・授業で学ぶ地理的な課題が、現代の社会や実生活と結びついている意識を持つこと

2025年度 地理・歴史 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
歴史総合	2	総合学科	3	一斉

1. 学習の目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる力を養う。

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2. 使用教材

主たる教材	「歴史総合」 （実教出版）
副教材	「歴史総合 演習ノート」 （実教出版）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（ディベート、レポート等），プリントなどで評価する。		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し，そのために必要な知識や技能を身につけている。	・ 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめる技能を身につけようとしている。	・ 授業に主体的に取り組み，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	歴史の扉	・高等学校の歴史学習の動機付けと、以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につけさせる。 ・日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解する。	小テスト		プリント
	5	1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動				プリント
	6	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・ヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における生産と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。	中間考査	中間考査	プリント
	7	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章 帝国主義の時代				プリント
2	9	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。	小テスト		プリント
	10	第6章 経済危機と第二次世界大戦				プリント
	11	第7章 冷戦と脱植民地化	・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦とアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、日本の独立の回復など、国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・冷戦が各国に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較し、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	中間考査	ディベート 中間考査	プリント
	12	第8章 多極化する世界				プリント
3	1	第9章 グローバル化と現代世界	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、多面的・多角的に考察し、表現する。	小テスト 学年末考査	ディベート 学年末考査	プリント

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

従来の「日本史A」（または「世界史A」）は、近現代世界を理解するための前提として前近代史も扱っていましたが、「歴史総合」では、現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化の理解が中心になります。

2025年度 地理・歴史 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
歴史演習	4	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

信楽や滋賀県の歴史を学ぶとともに、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

信楽や滋賀県の歴史を実地研修などの体験を通して学習し、歴史的諸事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

信楽や滋賀県に関する歴史的諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される地域社会に貢献しようとする資質や能力を育てる。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成プリント
副教材	「はじめて学ぶ世界遺産50」 「はじめて学ぶ世界遺産50ワークブック」(マイナビ出版)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		小テスト、パフォーマンス課題（発表、ディベート、レポート等）、プリント、振り返りシートで評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・ 信楽や滋賀県の歴史を学ぶとともに、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・ 信楽や滋賀県の歴史を実地研修などの体験を通して学習し、歴史的諸事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	・ 信楽や滋賀県に関する歴史的諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	情報の収集と活用	・調べ学習に必要な、インターネットや文献などの活用方法を学ぶ。	小テスト		
		信楽に関する歴史	・紫香楽宮について調べ学習を行い、理解を深める。		レポート	
	5		・朝宮茶について調べ学習を行い、理解を深める。また実地研修の体験を通し地域の方と交流し、製茶方法や茶の歴史について学ぶ。		発表	振り返りシート
			・多羅尾と小川城の歴史についての調べ学習を行い、理解を深める。		ディベート	振り返りシート
			・レポートにまとめた内容をわかりやすく発表し表現する。また他者の発表に対する評価を適切に行う。			
	6 7	世界遺産学習	・世界遺産に関する学習を通して、日本や世界の歴史・地理について理解する。	小テスト		振り返りシート
2			・DVD鑑賞を通し、歴史をより身近なものとする。			
	9	滋賀県に関する歴史	・滋賀県の歴史や歴史上の人物についての調べ学習を行い、理解を深める。	小テスト	レポート	
		信楽に関する歴史	・レポートにまとめた内容をわかりやすく発表し表現する。また他者の発表に対する評価を適切に行う。		ディベート	振り返りシート
	10		・紫香楽宮への実地研修の体験を通し、専門家から説明を受け、出土物などを見学し学ぶ。		発表	振り返りシート
			・多羅尾や信楽への実地研修の体験を通しガイドさんからの説明を受け、代官所や伊賀越えについて学ぶ。		発表	振り返りシート
	11	世界遺産学習	・世界遺産に関する学習を通して、日本や世界の歴史・地理について理解する。	小テスト		振り返りシート
			・DVD鑑賞を通し、歴史をより身近なものとする。			
	12	課題研究	・これまで学習した内容を踏まえて、自らの関心があるテーマについて調べ学習を行い、レポートを作成する。		レポート	
3	1		・レポートにまとめた内容をわかりやすく発表し表現する。また他者の発表に対する評価を適切に行う。		ディベート	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・信楽や滋賀の歴史についての理解を深めるため、実地研修などに積極的に参加する。
- ・信楽や滋賀の歴史についての興味関心を持ち、主体的にレポートなどの作成を行うこと。

2025年度 公 民 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
公共	2	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2. 使用教材

使用教科書	「高等学校 公共 これからの社会について考える」 (数研出版)
副教材	「高等学校 公共 整理ノート」 (数研出版)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		定期考査、小テスト（単元毎）、パフォーマンス課題（ディベート、レポート等）、ノート（プリント）、振り返りシートで評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	公共的な空間をつくる私たち	・公共的な空間における人間としての在り方について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養う。		ディベート	ディベート
	5	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	・社会に参画する際の選択・判断の手がかりとなる概論や理論、公共的な空間における基本的な原理を理解する。	小テスト		ノート
	6	第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	・現代の諸課題について、幸福・正義・公正などに着目しながら、公共的な空間において生じる諸課題について考察を深める。	中間考査	レポート 中間考査	振り返り シート
	7	第2章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務を理解する。 ・個人と社会との関わりにおいて、公平・公正に調整するための基本的原理を考察する。	小テスト 期末考査	ディベート 期末考査	ノート 振り返り シート
2	9	第3章 ルールをつくり守る私たち 第1節 法と契約 第2節 司法参加の意義	・法の適切さを考える視点を身につけ、多様な契約による我々の様々な責任を理解する。 ・法に基づく公正な裁判が保証されていることや、国民の司法参加の意義について理解する。	小テスト	レポート	振り返り シート
	10			小テスト	ディベート	
	11	第4章 政治に参加する私たち 第1節 政治参加と民主政治の課題 第2節 国際政治の動向 第3節 国際政治の課題と日本の役割	・民主政治の根幹である国民主権を、地方自治などの身近な事例を用いて理解し、選挙の意義などを考察し、関心を高める。 ・変化する国際情勢の中で、日本を含む世界の平和維持の取組みを理解する。 ・世界の紛争や人権問題について触れ、持続可能な国際社会を形成するため、日本ができる国際貢献のあり方について考察する。	中間考査	中間考査	ノート 振り返り シート
	12	第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業の変化 第2節 市場経済のしくみと金融	・企業の果たす役割を理解し、経済社会の一員として今後の日本経済への見通しをもつ。 ・各種経済指標を読み解きながら、市場経済のメカニズムについて理解する。また、金融の意義や役割について理解し、今後の経済設計についての関心も高める。	小テスト 期末考査	レポート ディベート 期末考査	ノート 振り返り シート
3	1	第3節 財政と社会保障 第4節 国際経済の動向と課題	・日本の社会保障制度の現状と課題を、財政や租税の役割と関連させながら理解する。 ・世界経済が緊密に結びつき、国際社会における緊密な相互依存関係について理解する。	学年末考査	ディベート	ノート 振り返り シート
	2	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・現代社会での具体的な課題を自ら設定し、複数の資料からの総合的な読み取り・分析を基に課題の解決に向けて協働して考察・構想する。また、それを発表する。		ディベート レポート スピーチ	
	3	課題探究の観点 課題探究の手引き				

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・現代の諸課題に対する理解を深めるため、日常的に新聞やニュースに関心を持つこと
- ・授業で学ぶ内容が、現代の社会や実生活と結びついているという意識を持つこと

2025年度 公民科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
時事問題	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる懸念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成プリント
副教材	「ニュース検定公式テキスト&問題集3・4級」（毎日新聞出版）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		小テスト（単元毎）、パフォーマンス課題（ディベート、レポート等）、プリント、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる懸念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法			
				a	b	c	
1	4	現代の政治	・1年次の公共で学習した内容を踏まえて復習をするとともに、発展的な事項についても理解する。 ・新聞の読み方を学び、複数紙を比較するなど多様な視点で物事を判断する力をつける。 ・様々な統計資料やグラフを正確に読み解く力をつけ、説明する力をつける。 ・現代社会の諸課題に関する調べ学習を行い身近な事例をもとに思考を深める。 ・映像資料を観ながら、現代社会の諸課題やその解決策などについて討議し、理解を深める。	プリント	レポート	振り返りシート	
	5						
	6	現代の経済		小テスト	レポート	振り返りシート	
	7					ディベート	振り返りシート
2	9	現代の暮らしと社会の環境	・進学や就職の際に必要な一般常識や時事的な知識を習得する。 ・1年次の公共で学習した内容を踏まえて復習をするとともに、発展的な事項についても理解する。 ・ニュース検定の受検を通し、学習してきた知識の定着をはかる。 ・現代社会の諸課題に関する調べ学習を行い身近な事例をもとに思考を深める。 ・映像資料を観ながら、現代社会の諸課題やその解決策などについて討議し、理解を深める。	プリント	レポート	振り返りシート	
	10	現代の社会・福祉		小テスト			
	11	ニュース検定		プリント			ディベート
	12						
3	1	現代の国際	・日本国内だけではなく、世界で起こる様々な事象にも関心をもち、歴史的な事項とも関連させながら理解を深める。 ・これまで学習した内容を踏まえて、自らの関心があるテーマについて調べ学習を行い、レポートを作成する。 ・レポートにまとめた内容をわかりやすく発表し表現する。また他者の発表に対する評価を適切に行う。	プリント	レポート	振り返りシート	
				発表			

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・現代の諸課題に対する理解を深めるため、日常的に新聞やニュースに関心をもつこと。
- ・授業で学ぶ内容が、現代の社会や実生活と結びついているという意識を持つこと。

2025年度 数 学 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
数学 I	3	総合学科	1	一括（T T）

1. 学習の目標

数と式、2次関数、三角比およびデータの分析について理解させ、基礎的知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養う。また、数学のよさを再認識させるとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 使用教材

使用教科書	「高校数学 I」（実教）
副教材	「高校数学 I 専用 スタディノート」（実教）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		【知識・技能】プリント、問題集、考查素点 【思考・判断・表現】プリント、問題集、考查素点 【主体的に学習に取り組む態度】プリント、問題集	
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解する。また、事象の数学化、数学的な解釈や表現・処理を行う技能を身に付けるようにする。	・ 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力 ・ 関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力 ・ 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量感の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力 上記の力を養う。	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度 ・ 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度 それらの態度や創造性の基礎を養う。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。		

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	数と式	・整式の加法・減法・乗法の計算を通して、整式の整理ができる。 ・因数分解ができる。 ・平方根の性質について理解ができ、基本的な計算ができる。 ・循環小数が分数で表されること等を通して、実数についての理解を深める。 ・方程式や不等式についての理解を深め、様々な事象を数学的にとらえる。 ・課題学習	プリント 問題集	プリント 問題集	プリント 問題集
	5			中間考査	中間考査	
	6			プリント 問題集	プリント 問題集	プリント 問題集
	7			期末考査	期末考査	
2	9	2次関数	・ICTを活用して関数概念の理解を深める。 ・平方完成を学習し、2次関数のグラフと関数式の関係性について考察する。 ・関数の数量の変化について考察し、最大値、最小値を求める。 ・座標平面上における2次方程式の解についての理解を深め、2次不等式の解についてグラフを活用することの良さを認識する。 ・課題学習	プリント 問題集	プリント 問題集	プリント 問題集
	10			中間考査	中間考査	
	11			プリント 問題集	プリント 問題集	プリント 問題集
	12			期末考査	期末考査	
3	1	三角比	・日常の事象を数学的にとらえ、三角形の角度と辺の長さの比の関係性について考察し、三角比について理解する。 ・鋭角三角形の三平方の定理と三角比を関連付けて、三角比の相互関係を導き出し、図形と計量について多面的に理解する。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義について理解し、三角比の値を求める。 ・三角比の定理や公式について理解を深め、三角形の角度の大きさや辺の長さを求める。	プリント 問題集	プリント 問題集	プリント 問題集
	2	集合と論証	・集合の基本的な概念について理解する。 ・命題を通して論理的思考と技能を定着する。	学年末考査	学年末考査	
	3	データの分析	・データの散らばり具合や傾向を表す数値について考察し、その用い方を理解する。 ・課題学習	プリント	プリント	プリント

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

上記の評価方法にもあるように、P課題が評価に多く含まれています。普段の活動を重視しましょう。P課題はiPadを使用した活動が主となるため、iPadは常に使用できる状態を保つようにしてください。

2025年度 数 学 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
数学Ⅱ	3	総合学科	2	一斉授業

1. 学習の目標

さまざまな数式や関数を扱い、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、その性質を論理的に考察し、事象を数学的に捉え、処理し、問題解決に向けた統合的な思考を身に付ける。
また、自身の活動を振り返って、評価・改善につなげ、学び続けようとする態度を養う。

2. 使用教材

主たる教材	実教出版 高校数学Ⅱ
副教材	高校数学Ⅱ専用 スタディノート

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		【知識・技能】プリント、問題集、考查素点 【思考・判断・表現】プリント、問題集、考查素点 【主体的に学習に取り組む態度】プリント、問題集		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・複素数と方程式、図形と方程式、指数関数・対数関数 ・三角関数及び微分と積分の考えについて基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする力を身に付けている。	・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式の性質について論理的に考察する力、座標平面上の図形について方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局地的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的に考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	・複素数と方程式	- 三次式の乗法公式を通して二項定理についての理解を深める。 - 数を複素数まで拡張する意義を理解し、日常の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用する。 - 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求める。	プリント 問題集 中間考査	プリント 問題集 中間考査	プリント 問題集
	5					
	6	・図形と方程式	- 座標を用いて、平面上の線分を内分・外分する点や二点間の距離を表す。 - 座標平面上の直線や円を方程式で表すこと。また、それらの性質や位置関係について、コンピュータなどの情報機器を用いて表現し、考察する。	プリント 問題集 期末考査	プリント 問題集 期末考査	プリント 問題集
2	7					
	9	・いろいろな関数	- 指数の範囲を有理数へ拡張する意義を理解し指数法則を用いて計算を行う。 - 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 - 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をする。 - 指数と対数を関連付けて考察する。 - 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、考察する。 - 三角関数の基本的な性質や値の変化、グラフの特徴について理解する。 - 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察すること。 - 二つの数量の関係に着目し、日常の事象などを数学的に捉え、考察する。	プリント 問題集 中間考査 期末考査	プリント 問題集 中間考査 期末考査	プリント 問題集
	10					
	11					
3	12	・微分と積分	- 微分係数や導関数の意味について理解し、グラフの概形をかく方法について理解すること。 - 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象などを数学的に捉え、考察する。 - 不定積分及び定積分の意味について理解し直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察する。 - 微積分が日常にどのように関わっているかをその特徴から考察する。	プリント 問題集 学年末考査	プリント 問題集 学年末考査	プリント 問題集
	1					
	2					
3	3	(課題学習)				

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

上記の評価方法にもあるように、P課題が評価に多く含まれています。普段の活動を重視しましょう。P課題はiPadを使用した活動が主となるため、iPadは常に使用できる状態を保つようにしてください。

2025年度 数 学 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
数学A	2	総合学科	2	一括

1. 学習の目標

図形の性質、場合の数と確率などを通して、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数
学化したり、数学的に表現・処理をしたりする技能の習熟を図る。また、粘り強く考え、問題解決の過
程を重視し、その活動の振り返りから自身を評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 使用教材

主たる教材	実教出版 高校数学A
副教材	高校数学A専用 スタディノート

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		【知識・技能】 考查点、課題（問題集やプリント） 【思考・判断・表現】 考查点、パフォーマンス課題（以後、『P課題』） 【主体的に学習に取り組む態度】 P課題（振り返りシートやアンケート）		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	- 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 - 数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数 学化し処理する技能を身に付けている。	図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて、事象の起こりやすさを判断する力に着目し、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見出し、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	場合の数	・ 集合と要素について、基本的な概念や原理や法則について体系的に理解させる。	考查 課題	考查 P 課題	P 課題
	5	順列 組み合わせ	・ 順列の意味を理解し、事象を数学的にとらえ順列として扱えるようにする。 ・ 組み合わせの意味を理解し、事象を数学的にとらえ、組み合わせとして扱えるようにする。	考查 課題	考查 P 課題	P 課題
	6		・ さまざまな事象に取り組み、順列や組み合わせの有用性について考察する。			
	7	確率	・ 事象を数学的にとらえ、数理的に考察し処理する能力を身に付ける。 ・ 確率について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。	考查	課題 考查	P 課題 P 課題
2	9	図形の性質	・ 図形（三角形や円）に関する基本的な知識および技能を身に付ける。	考查 課題	考查 P 課題	P 課題
	10		・ すでに学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見出し、その性質について論理的に考察したり、説明したりする。			
	11					
	12					
3	1	数学と人間の活動	・ 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解する。	考查 課題	考查 P 課題	P 課題
	2		・ 数学史的な話題、数理的なゲームのパズルなどを通して、数学と文化の関わりについて理解を深める。			
	3		・ パズルなどに数学的な要素を見出し、目的に応じて数学を活用して考察する。			

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

上記の4の評価方法にもあるように、P課題が評価に多く含まれています。普段の授業の活動を重視しましょう。

また、P課題はiPadを使用した活動が主となるため、iPadは常に使用できる状態を保つようにしてください。

2025年度 数 学 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
実用数学	4	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

日常や社会における事象に対し課題意識をもち、課題解決に向けて数学的な知識や技能を身につけ、数学的に表現・処理をする能力を養う。

課題解決に向けて取り組む中で、数学のよさを認識し活用しようとする態度や、その過程を振り返って考察を深めたり、自己評価・改善にしようとする取り組み態度を身につけさせる。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成教材（プリント等）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		授業プリントなどの自主作成教材の提出やデジタル課題の提出、定期考査、授業中の活動や取り組み姿勢なども評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・ 数と式、図形と計量、二次関数及び図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原則・法則を体系的に理解するとともに、日常や社会の事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけることができる。	・ 日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につけることができる。	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	振り返り学習	・数と量、比や割合などの数を扱う上での基礎的・基本的な学びを振り返るとともに、複合的な応用問題に取り組む。	課題 中間調査	課題 パフォーマンス課題 中間調査	パフォーマンス課題
	5					
	6					
	7	数と式 関数	・方程式や不等式の有用性を理解し、事象を数学的に表現・処理をする。 ・関数関係に着目し、事象を数学的に表現・処理をする。 ・方程式や不等式を用いた課題を自分自身で設定し、課題解決の過程を振り返り評価・改善に取り組む。	課題 期末調査	課題 パフォーマンス課題 期末調査	パフォーマンス課題
2	9	データの分析	・データの活用方法に対する理解を深め、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 ・社会の事象に対し、課題意識を持ち、自ら課題解決に向けてデータを収集したり、データを分析したりして取り組む。	課題 中間調査 期末調査	課題 パフォーマンス課題 中間調査 期末調査	パフォーマンス課題 中間調査 期末調査
	10					
	11					
	12					
3	1	社会生活における数学	・社会における数量や測量、図形に関する問題を扱い、課題意識を持たせながら解決する方法を探していく。	課題 学年末調査	課題 パフォーマンス課題 学年末調査	パフォーマンス課題 学年末調査
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

自らが日常や社会の中にある課題を設定し、数学的に解決に向けて試行錯誤する科目です。
数学に限らず、幅広い知識や興味・関心をもって取り組みましょう。

2025年度 数 学 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
数学B	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

日常や社会の事象を通して基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できるとともに数学的な表現・処理する技能を身につけること。また、事象や問題を解決しようとする過程や結果から振り返り、考察する力を身につける。

数学的な処理を通して、数学のよさを認識し活用しようとする態度、自身を評価・改善しようとする態度を向上させる。

2. 使用教材

主たる教材	実教出版 高校数学B
副教材	高校数学B専用 スタディノート

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		【知識・技能】 考查点、課題（問題集やプリント） 【思考・判断・表現】 考查点、パフォーマンス課題（以後、『P課題』） 【主体的に学習に取り組む態度】 P課題（振り返りシートやアンケート）		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。 ・ 数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけることができる。	・ 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につけることができる。	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	数列	事象を正確にとらえ、数列の一般項の意味を理解する。	課題	課題	課題
	5		等差数列・等比数列についての考察をし、それらの和の公式について理解を深める。	中間考査	パフォーマンス課題 中間考査	パフォーマンス課題
	6		和を表す記号 Σ について理解し、さまざまな数列の和を求める。 階差数列の意味を理解し、一般項を求める。	課題 期末考査	課題 パフォーマンス課題 期末考査	課題 パフォーマンス課題
	7		漸化式の意味を理解し一般項を求め数学的帰納法にて論理的な思考を深める。			
2	9	統計的な推測	さまざまな事象における確率から、確率分布表を作成し、平均や期待値、分散、標準偏差を求める。	課題 中間考査	課題 パフォーマンス課題 中間考査	課題 パフォーマンス課題
	10		それぞれの値の意味を理解し、そのメリットやデメリットについて考察することができる。			
	11		二項分布を用いて、平均や分散、標準偏差を求める方法を学ぶ。			
	12		さまざまな事象を通して、統計学における重要な役割を果たす正規分布について理解を深める。 二項分布で表される確率を正規分布を利用して求めることができる。 さまざまな標本を活用して母平均についての理解を深め、標本平均を求めることができる。 統計的な推測の意味やよさを理解させる。	課題 期末考査	課題 パフォーマンス課題 期末考査	課題 パフォーマンス課題
3	1	数学と社会生活	さまざまな事象を通して、数理的に考察し、その有用性について理解するとともに問題を解決する方法を学ぶ。	課題 学年末考査	課題 パフォーマンス課題 学年末考査	課題 パフォーマンス課題
	2		日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現する。			
	3		解決過程を振り返り、そこで用いた方法を一般化して、ほかの事象に活用できることを学ぶ。			

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

日常的に数学を活用していくための内容が多く、主体的に学ぶ態度がこれまで以上に重要である。
進学先によっては入試に必要な科目のため、先を見据えて選択してほしい。

2025年度 数 学 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
数学演習	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

1・2年生で学習した内容（数学Ⅰ・A）について・基礎的内容の定着を図るとともに、問題演習を充実させる。また、知識の理解を深め、思考力・判断力・表現力を伸ばし、学習を通じた学びや活動を生かす能力を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成教材（プリント等）
副教材	第一学習社 スタディ数学Ⅰ＋A

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		【知識・技能】プリント、問題集、考查素点 【思考・判断・表現】プリント、問題集、考查素点 【主体的に学習に取り組む態度】プリント、問題集		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・数と式、図形と計量、二次関数及び図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原則・法則を体系的に理解するとともに、それぞれが複合的に絡んだ問題に対応し、数学的な解釈や表現・処理を行う技能を身につけるようにする。	・関数関係に着目し、状況に応じて扱う関数の式を変え、場合分けの問題に対応する力を養う。 ・事象を正確にとらえ、図形の性質や場合の数・確率を用いて表現する力を養う。	・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、課題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善をしたりしようとする態度を身につけようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	数と式	- 展開や因数分解をもとに応用問題（入試問題）に取り組む。 - 平方根や1次方程式、不等式の応用問題に取り組む。	プリント 問題集 中間考査	プリント 問題集 中間考査	プリント 問題集
	5					
	6	2次関数	2次関数について振り返るとともに、場合分けなどを用いた応用問題に取り組む。	プリント 問題集 期末考査	プリント 問題集 期末考査	プリント 問題集
	7					
2	9	三角比	三角比を振り返るとともに、三角比を含む方程式や文章問題などの応用問題に取り組む。	プリント 問題集 中間考査	プリント 問題集 中間考査	プリント 問題集
	10					
	11	場合の数・確率	- 順列や組み合わせを振り返るとともに、様々な状況の文章問題に対応する。 - 確率を振り返りつつ、様々な状況の文章問題に対応する。	プリント 問題集 期末考査	プリント 問題集 期末考査	プリント 問題集
	12					
3	1	図形の性質	図形の性質を振り返りつつ、複合的な応用問題に取り組む。	プリント 問題集 学年末考査	プリント 問題集 学年末考査	プリント 問題集
	2					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

2学期の就職・進学試験に向けて、様々な入試問題レベルで出題する。
 振り返りの問題にも取り組むが、授業内では主に応用問題に取り組むため、自主的な学習活動・振り返りをお願いしたい。

2025年度 理 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
科学と人間生活	2	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

- ・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。
- ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2. 使用教材

使用教科書	「科学と人間生活」 （実教出版）
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法	下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価し、各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み (2)ノートやプリントの記載内容 (3)観察・実験など (4)教科書・問題集の問題 (5)定期考査		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・各教科における個別の知識および技能の修得状況を評価する。 ・既習の知識および技能と関連付けたり活用したりする中で、他の場面でも活用できる程度に概念等として理解したり、技能を修得したりしているかについて評価する。 （工夫例）ペーパーテストにおいて事実的な知識の習得を問う問題と概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。	・各教科等の知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけているかどうかを評価する。 （工夫例） ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・作品の製作や表現等の活動を取り入れる ・それらを集めたポートフォリオを活用する。	・左記の a および b を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しようとしているかどうかを評価する。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	・太陽と月がつくる暦	・地球の自転と公転によって、1日や1年が定義されていることを理解する。	小テスト		
	5	・海水面の変動と潮の満ち干をもたらす力	・潮位の変化が起こる原因について興味をもつ。		パフォ課題	パフォ課題
		・太陽の放射エネルギー	・太陽放射の熱収支について理解する。	中間考査	中間考査	ファイル
	6	・1年を通じた大気の運動と気象災害	・地球の公転と自転軸の傾きによって季節が生じることを理解する。	小テスト		
	7	・移り変わる地球の景観	・プレート境界に海嶺や海溝などができることを理解する。		パフォ課題	パフォ課題
		・火山がつくる景観	・マグマの性質とそれによる火山の姿や噴火の形態について理解する。	小テスト		
				期末考査	期末考査	ファイル
2	9	・視覚とは何か	・眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。		パフォ課題	パフォ課題
	10	・眼の構造とはたらき	・ヒトの眼の構造を理解する。	小テスト		
		・感染症から体を守るしくみ	・抗原抗体反応のしくみと特徴について理解する		パフォ課題	パフォ課題
	11	・免疫のしくみと日常生活	・予防接種の意味を考え、予防接種で感染症を予防するしくみについて理解する。	小テスト		
				中間考査	中間考査	ファイル
	12	・光の進み方とその見え方	・異なる物質の境界面で光が反射、屈折するときの法則を理解する。		パフォ課題	パフォ課題
		・光の波としての性質	・光の分散とスペクトルについて理解する。	小テスト		
		・電磁波の利用	・電磁波という広い概念で、可視光線や赤外線、紫外線、電波、X線などの関係を理解する。	小テスト		
				期末考査	期末考査	ファイル
3	1	・資源の再利用と3R	・循環型社会を目指す必要性と3Rについて理解する。	小テスト		
	2	・金属の性質	・金属に特有の性質について理解する。	小テスト		
		・異なる金属の区別	・金属を区別する方法を考えて実験を計画し、アルミニウム、鉄、銅の性質を調べる。		パフォ課題	パフォ課題
	3	・プラスチックの性質と分類	・プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。	小テスト		
		・プラスチックの再生利用	・プラスチックの再生利用の重要性について考える	小テスト		
				学年末考査	学年末考査	ファイル

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・日常生活の中で起こる自然現象に興味を持ち、その仕組みについて人間生活と関連づけて考える態度を持つこと。
- ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度を持つこと。
- ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

2025年度 理 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
生物基礎	2	総合学科	2	一斉

1. 学習の目標

- ・生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2. 使用教材

主たる教材	高等学校 新生物基礎（第一学習社711）
副教材	新課程版 ネオパルノート生物基礎（第一学習社）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		授業態度、発問評価、定期考査、実験レポート、各種提出物などを下記の観点に照らし合わせ総合的に評価します。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	・自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 ①生物にみられる共通性 観察 1 ささまざまな生物の観察 ②生物の共通性の由来 資料 1 生物の共通性の由来を考えよう	- 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 - 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 - 藻類、菌類、細菌の観察結果から、すべての生物のからだは細胞からなることを見だし、生物が共通にもつ特徴を理解する。 - 脊椎動物の系統樹から、生物に共通してみられる特徴は、進化の過程で共通祖先から受け継がれてきたものであると考察できる。 - 共通の祖先が進化の過程を経て、生物が多様化したことを理解する。	小テスト		
	5	③細胞構造の共通性	- 原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を理解する。また、真核細胞において、核・細胞膜・細胞質基質・ミトコンドリア・葉緑体・液胞・細胞壁の機能の概要を理解する。 - 現生生物の共通祖先について、推測される特徴を理解する。	小テスト	パフォ課題	パフォ課題
	6	2. 生物とエネルギー ①エネルギーと代謝 ②代謝とATP 資料 2 ATPの役割について考えよう ③代謝と酵素 実験 2 カタラーゼの働き ④光合成と呼吸	- 光エネルギーがなければ植物は生育し続けることができないことを示した資料から、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 - 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 - 代謝におけるATPの役割を資料から読み取ることができる。 - 酵素の基本的な特徴について理解する。 - 肝臓片に含まれるカタラーゼを用いて実験を行い、酵素の触媒作用を確認する。 - 光合成は、光エネルギーによってATPをつくり、このエネルギーによって有機物を合成する過程であることを理解する。 - 呼吸は、酵素の働きによって有機物が段階的に分解されてエネルギーが取り出され、ATPがつくられる過程であることを理解する。	中間考査	中間考査	ワーク ファイル
		第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝情報とDNA ①染色体・DNA・遺伝子 実験 3 DNAの抽出 ②DNAの構造	- 遺伝子とDNAと染色体の関係について理解する。 - 身近な材料を用いて、DNAを抽出する。 - DNAの塩基の相補的な結合を示した資料から、DNAの構造の特徴を見だし、DNAの基本的な構造を理解する。	小テスト		

	7	資料3 DNAの塩基どうしの結合にみられる特徴を考えよう ③DNAの複製 資料4 同じ塩基配列のDNAができるしくみを考えよう 演習1 DNA模型を用いた半保存的複製の再現 ④DNAの分配 観察4 細胞周期の観察 2. 遺伝情報とタンパク質の合成 ①タンパク質の構造と働き ②遺伝子の発現とタンパク質合成(1) 資料5 DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列の関係を考えよう ③遺伝子の発現とタンパク質合成(2) 演習2 塩基配列からアミノ酸配列を読み取ろう ④細胞と遺伝子の働き	• DNAの複製の概要を示した資料から、塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることに気づき、半保存的複製を理解する。 • DNAの半保存的複製を、DNA分子モデルを用いて再現できる。 • 多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖していること、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 • 間期の間にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解する。 • 細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。 • タマネギの根端を用いて、細胞分裂の各段階を観察する。また、結果から、細胞周期の各時期にかかる時間を推測できる。 • 生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。 • タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってきたものであることを理解する。 • DNAの塩基配列と、その配列で決定されるアミノ酸配列を示した資料から、この2つの配列の関係について考察し、3つの塩基の並び(コドン)が1つのアミノ酸に対応していることを理解する。 • DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)という流れを理解する。 • 遺伝暗号表をもとに、あるmRNAが指定するアミノ酸配列を考察できる。 • 遺伝子はゲノムの一部であることを理解する。 • 全遺伝子が常に発現しているのではなく、細胞によって発現する遺伝子が異なっていることを理解する。	小テスト	パフオ課題	パフオ課題
				期末考査	期末考査	ワークファイル
2	9 10	第3章 ヒトのからだの調節 1. からだの調節と情報の伝達 ①恒常性と情報の伝達 実験5 運動による心臓の拍動数の変化 ②神経系 ③自律神経系の働き ④ホルモンの働き ⑤血糖濃度の調節 資料6 血糖濃度調節のしくみを考えよう ⑥体温の調節 ⑦からだの調節と血液の働き	• 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 • 運動前後の心拍数の変化を測定する実験から、からだには体内環境の変化を情報として伝達するしくみがあることを見だし、体内における情報の伝達の概要を理解する。 • 脳幹の働きと、脳死がどのような状態であるのかについて理解する。 • 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 • 心臓の拍動数が意思とは無関係に調節されていることを理解する。 • 内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。	小テスト	パフオ課題	パフオ課題

			・ホルモン分泌のフィードバック調節について、チロキシンの分泌調節を例に理解する。 ・健康なヒトとインスリンを正常に分泌できないヒトについて、食事の前後の血糖濃度とインスリン濃度の経時的変化を示す資料から、インスリンの働きを考察し、理解する。 ・内分泌系と自律神経系によって血糖濃度が調節されるしくみについて理解する。 ・糖尿病の原因と症状について理解する。 ・体温調節のしくみについて理解する。 ・血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。 ・皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 ・好中球の存在下における細菌数の減少を示した資料や、好中球が細菌を取り込むようすを撮影した資料から、白血球が体内でどのような働きをしているかに気づき、白血球の役割について理解を深める。 ・免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 ・自然免疫のしくみを理解する。 ・獲得免疫は自然免疫によって誘導されることを理解する。 ・獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・抗体の特徴について理解する。 ・獲得免疫が病原体にのみ反応を起こすしくみを理解する。 ・一次応答と二次応答における抗体生産量の変化を示した資料をもとに、同じ感染症にかかりにくい理由を考察する。 ・二次応答が起こるしくみを理解する。 ・アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 ・拒絶反応や予防接種、血清療法のしくみを理解する。また、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。	中間考査	中間考査	ワーク ファイル
11	2. 免疫 ①病原体からからだを守るしくみ 資料7 資料から白血球の働きを考えよう ②自然免疫 ③獲得免疫のしくみ ④獲得免疫の特徴 資料8 病原体の侵入と抗体をつくる量について考えよう ⑤免疫と疾病 ⑥免疫と医療				パフォ課題	パフォ課題
12	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 ①さまざまな植生 ②植物と環境 ③植生の遷移と環境 資料9 遷移の要因を読み取ろう ④植生の破壊と遷移	・植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 ・森林には階層構造がみられ、階層によって光などの環境が異なることを理解する。 ・光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する。 ・陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 ・森林の土壌の特徴を理解する。 ・植生は不変ではなく、遷移していることを理解する。 ・伊豆大島で行われた、溶岩の噴出年代が異なる地点の植生・環境調査の結果をもとに、遷移の進む要因を考察する。	小テスト		パフォ課題	パフォ課題

			・乾性遷移のモデルについて、土壌の形成や光環境の変化などの環境形成作用に注目して理解する。 ・湿性遷移、二次遷移について理解する。 ・極相林にはさまざまな大きさのギャップが存在しその大きさによってギャップを埋める樹種が変わることがあることを理解する。	期末考査	期末考査	ワーク ファイル
3	1	⑤遷移とバイオーム 資料10 バイオームの分布を決める要因を考えよう(1) 資料11 バイオームの分布を決める要因を考えよう(2) ⑥日本のバイオームと気候	・バイオームの概念を理解し、陸上にはその地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 ・現存するバイオームと、その地域における気温や降水量の分布を対応させた資料から、環境条件によって、遷移の結果として森林や草原、荒原など多様なバイオームがみられることを理解する。 ・地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。 ・日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布を理解し、各バイオームの特徴的な植物種を理解する。 ・生態系の構成について理解する。 ・土壌生態系を構成する生物の観察から、身近な環境でみられる生物の種の多様性に気づく。 ・生態系の種の多様性や個体数は環境と密接に関係していることを理解する。 ・生物は、食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。	小テスト		
	2	2. 生態系とその保全 ①生態系 観察6 土壌生態系を構成する生物の調査 ②生物どうしの関係 ③生物どうしの関係と種の多様性 資料12 上位の栄養段階の生物が種の多様性に与える影響を考えよう ④生態系のバランスと攪乱 資料13 生活排水が流入した河川の生態系の変化を考えよう	・食物連鎖を通じて間接的に他の生物に影響を与えることがあることを理解する。 ・上位の栄養段階の生物を排除したときの、下位の生物の種数や生息密度の変化を示した資料から、捕食－被食の関係が種の多様性に与える影響について考察する。 ・キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。	小テスト		
	3	⑤人間活動による生物の持ち込み 調査7 外来生物が在来種に与える影響について考えよう ⑥生息地の破壊 ⑦生息地の分断化 演習3 ダムが魚類に与える影響について考えよう ⑧生態系の保全とその意義	・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。 ・河川に生活排水が流入した際にみられる自然浄化のようすを示した資料をもとに、生態系では多様な生物と環境が関係しあいながらバランスを保っていることを理解する。 ・生態系には復元力があるが、復元力を超えるような攪乱が起こった場合には、以前とは異なる状態に移行することを理解する。 ・人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。 ・絶滅危惧種と人間活動との関係について理解する。 ・琵琶湖においてオオクチバスが在来種に与える影響を調べ、外来生物が、侵入した生態系に与える影響について考察する。	小テスト	バフオ課題	バフオ課題

			・開発や自然に対する人間の働きかけの縮小が生息地の破壊となり、生態系に影響を与えることがあることについて理解する。 ・ダム建設が、河川に生息する魚類の個体数に与える影響を予想し、開発による生態系への影響と、生息地の分断による影響を軽減する取り組みや、環境アセスメントの必要性について理解する。 ・人間は、生態系からさまざまな恩恵を受けており、それを受け続けるためには生態系を保全する必要があることを理解する。 ・生態系を保全する意義や、生態系の持続可能な利用の重要性について理解する。	学年末 考査	学年末 考査	ワーク ファイル
--	--	--	---	-----------	-----------	-------------

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

・自然の中で生活する生き物やヒトのからだについて興味を持ち、その仕組みについて考える態度を持つこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度を持つこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
--

2025年度 理 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
地学基礎	2	総合学科	3	一斉

1. 学習の目標

地球や地球を取り巻く環境に係わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 - 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解すると共に、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 - 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 - 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する得態度を養う。 - これまで学んできた知識を活用しながら、地球・宇宙・人類の歴史を理解し、人類の活動と地球の未来を考えること目標とする。「私たちはどこから来て、どこへ行くのか」を追求する。
--

2. 使用教材

使用教科書	「地学基礎」 （実教出版）
副教材	ビジュアルプラス 地学基礎ノート（実教出版）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法	下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価し、各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み (2)ノートやプリントの記載内容 (3)観察・実験など (4)教科書・問題集の問題 (5)定期考査		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	- 各教科における個別の知識および技能を修得している。 - 既習の知識および技能と関連付けたり活用したりする中で、他の場面でも活用できる程度に概念等として理解したり、技能を修得したりしている。	各教科等の知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけている。	左記のaおよびbを身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	1 編 私たちの大地	- 地球の真の形と大きさはどのようにしたら求めることができるか推測する。 - 推測した方法で自習を行い、地球の真の形と大きさを確認する。 - エラトステネスの用いた地球の大きさを求める方法を理解し、その原理を用いて地球の大きさを計算する方法を理解する。 - 地球の内部は構成物質や状態の違いから、地殻、マントル、外核、内核に分かれた層構造をしていることを理解する。 - 地震や地殻変動などの原因をプレートの動きで説明できることを理解する。 - マントル内部の対流とプルームの動きについて理解する。	小テスト	パフォ課題	パフォ課題
		1 章 大地とその動き				
		1節 地球の形と大きさ				
		A丸い大地				
		B地球の大きさ				
		C地球の形				
		2節 地球の構造				
		A地球の内部構造の形成				
		3 節 地球内部の動きとプレート				
	5	A地球内部の状態とプレート		小テスト	中間考査	ファイル
		Bプレートテクトニクス				
		Cマントル内部の対流				
		4 節 大地形の形成と地質構造				
		A 3種類の境界と大地形				
		B発散境界(海溝と地溝帯)				
		Cすれ違う境界				
		D収束境界(海溝と大山脈)				
		Eプレートの動きと地質構造				
	6	5 節 変成岩と変成作用		小テスト	パフォ課題	パフォ課題
		A変成作用と変成岩				
		B広域変成作用				
		C接触変成作用				
		1 編 私たちの大地				
		2 章 火山活動と地震				
		1節 火山噴火の多様性				
		A火山噴火のしくみ				
		B火山の噴火と地形				
		C火山の分布		小テスト	パフォ課題	パフォ課題
		2節 火成岩				
		A岩石をつくる鉱物				
		B火成岩の分類				
		C鉱物の特徴からわかる岩石の歴史				
		3節 地震の発生				
		A地震波と地震の揺れ				
		B震源と震源域				
		C断層の種類と地震				
		4節 地震が起こる場所		小テスト	パフォ課題	パフォ課題
		A海溝付近の地震				

	7	Bプレート内部の地震 2編 私たちの空と海 1章 地球の熱収支 1節 地球大気の構造 A大気の組成 B大気圧 2節 地球の大気で起こる現象 A対流圏 B成層圏 C中間圏・熱圏 3節 地球の熱収支 A太陽放射と地球放射 B地球の熱収支 C温室効果 2編 私たちの空と海 2章 大気と海水の運動 1節 大気や海水の運動の原因 A大気の流れと海洋の流れ B降水量と蒸発量の緯度別分布 C大気や海水の熱輸送 節のポイントをまとめよう 2節 大気の大循環A大気の大循環 B季節風	- 地震はプレートの境界付近でよく発生していることに気がつくとともに、その特徴を整理できる。 - 大気の組成を知るとともに、大気圧は大気の重さによる圧力であることを理解する。 - 実習2で作成したグラフから、大気鉛直方向の気圧や温度の変化などから、地球の大気にはどのような特徴があるかを見いだす。 - 大気は鉛直方向にいくつかの層に区分されることを理解する。 - 対流圏での大気対流によってさまざまな現象が起こっていることを理解する。 - 成層圏では上層ほど温度が高くなっていることを理解する。 - 中間圏・熱圏で起こる現象、特徴を理解する。 - 地球の大気現象を引き起こすエネルギーの源は太陽放射であり、その量は太陽定数から求められることを理解する。 - 地球の熱収支は、地球全体でみるとつり合っていることを理解する。 - 図7から温室効果となっているところはどこか考える。また、温室効果がなかった場合、地球表面の温度がどのようなになるか考える。 - 太陽が地表を真上から照らしているとき、地表が単位面積あたりに受け取るエネルギーを1としたとき、太陽高度が60度、30度の場合、エネルギー量がいくらになるかを考える。 - 緯度ごとの放射収支のグラフを描き、グラフからどのようなことが言えるかグループで話し合い発表する。 - 熱の運ばれ方には、顕熱輸送と潜熱輸送があることを理解する。	期末考査	期末考査	ファイル
2	9	3節 海水とその運動 A海水 B海水の温度 C世界の海流 4節 大気と海洋の相互作用 A大気と海洋の相互作用 B深層循環 3編 私たちの宇宙の誕生 1章 宇宙の構造と進化 1節 宇宙の誕生と宇宙の姿 Aビックバンと宇宙の誕生 B銀河と天の川銀河 2節 太陽系の誕生	- 海は深さとともに温度によって、3つの層に分けることができることを理解する。 - 大気の大循環における貿易風と偏西風によって環流が起こっていることを理解する。 - これまで学習した大気と海水の運動を統合して捉え、大気と海洋は、低緯度と高緯度の熱収支のバランスをとるように循環していることを理解する。 - 深層循環が地球規模の気候の安定や変動に影響を与えていることを理解する。 - 宇宙が誕生してからどのような過程を経て現在の状態になったのか整理し理解する。 - 天の川銀河の構造を理解する。 - 太陽と太陽系を構成する惑星は天の川銀河に漂っていた星間物質が集まって誕生したことを理解する。 - 地球型惑星と木星型惑星の特徴を整理すること	小テスト	パフォ課題	パフォ課題
				小テスト	パフォ課題	パフォ課題

10	A太陽系の始まり B惑星の誕生 3節 太陽系の構成 A地球型惑星 B木星型惑星 4節 太陽の特徴 A太陽の素顔 B太陽のエネルギー源 5節 地球の特徴 Aかけがえのない地球 4編 私たちの地球の歴史 1章 地層と化石の観察 1節 地層の形成 (2h) A地層のでき方 B堆積物をつくる粒子 C堆積構造 D堆積する場所と堆積物の種類 E堆積物の固結 2節 地層からわかる情報 A地層や岩体の層序関係 B離れた地層の対比 C化石 D地質年代 4編 私たちの地球の歴史	ができる。 ・太陽の表面の様子や表面で起こっている現象を整理する。 ・太陽のエネルギーは水素核融合反応によって生じていることを理解する。 ・地球の特徴を整理し、なぜ、地球で生命が生まれ、繁栄できたのかを話し合い発表する。 ・地層累重の法則が成り立たない場合には、どのような例があるかを推察する。 ・地層の形成について、地層のでき方や堆積物の形成のしくみを理解する。 ・堆積物の続成作用と主な堆積岩の分類について理解する。 ・路頭を観察(もしくは路頭に関する資料から)し、その路頭からわかる地史を考察する。 ・地層や岩体の層序関係を理解する。 ・地層に見られるかぎ層について理解する。 ・地層に見られる化石からわかることを整理し理解する。 ・地質年代の区分について理解する。 ・地球の形成について理解する。 ・初期の地球のようすについて理解する。 ・先カンブリア時代について、地球環境とその環境下における生物の特徴を整理する。	中間考査	中間考査	ファイル
	11 2章 古生物の変遷と地球環境 1節 地球史の最初期Le A地球の形成 B初期の地球 C最古の岩石 2節 先カンブリア時代 A最古の生物 B光合成の始まりと真核生物 3節 古生代 Aカンブリア紀の世界 まとめてみよう B古生代の海の生物 C海から陸へ Dペルム紀末の大量絶滅 4節 中生代 A生物大量絶滅後の世界 B華やかな海の世界 C恐竜の世界 D白亜紀末の大量絶滅	・ウラン資源が、約30～25億年前の堆積物から採掘される理由を考察する。 ・カンブリア爆発と多様化した生物種の特徴を整理する。 ・古生代の生物の変遷について、自然環境の変化と結びつけて理解する。 ・生物が陸上に進出するために必要な条件を考える。 ・ペルム紀末に生物の大量絶滅があったことを知る。 ・三畳紀の生物について、モノチスが繁栄したこと、恐竜類が進化したこと、哺乳類が出現したことを知る。 ・ジュラ紀、白亜紀の海中では、多様な動物が生息したことを理解する。 ・恐竜が大型化したこと、恐竜の1グループから鳥類が進化したことを理解する。白亜紀中期以降に被子植物が繁栄したことが、昆虫類などの爆発的進化に繋がったと考えられることを理解する。 ・白亜紀末に生物の大量絶滅があったこと、その原因について理解する。 ・新生代で哺乳類が繁栄したこと、草原が出現したことを知る。	小テスト	パフォ課題	パフォ課題

12	5 節 新生代 A新生代の陸のようす B新生代の海のようす C第四紀の氷河時代 6 節 人類の進化 A人類の進化 B最古の人類・猿人 C原人から新人へ 7 節 地球環境の変化による生物の変遷 A生物の大量絶滅 B過去のできごとを推定する 5 編 地球に生きる私たち 1 章 日本の自然の恵みと防災 1 節 日本の自然環境の特徴 A日本の地理的特徴 B日本の地形 C降水と気温 2 節 日本の自然の恵み A日本の自然景観 B火山の恵み C海の恵み D日本の水資源 3 節 気象災害と防災 LeA地域の気象災害 B日本の四季と気象災害 4 節 地震による災害と防災 A日本の地震災害 B地震による津波 C地震による土砂災害 D地震による建物の倒壊 E地震による火災 F地震の発生は予測可能か G地震直後の情報伝達 5 節 火山による災害と防災 A火山災害 B噴火予知と防災	・海には、現在と似た多くの二枚貝や巻き貝が生息したこと、カニ類やエビ類、魚類の種類が増加したことを知る。 ・第四期には少なくとも7回の氷期があったこと、縄文海進があったことを知る。 ・化石などに含まれる酸素同位体比を分析することで、その当時の気候の様子がわかることを理解する。 ・人類と類人猿の違いについて理解する。 ・人類の進化の道筋について理解する。 ・人類の進化の特徴を整理して説明する。 ・二酸化炭素濃度の変化と気候の変動に注目し、気がついたことをグループでまとめ発表する。 ・酸素濃度の変化とこれまで学習してきた地球環境や生物の変遷を振り返り、気がついたことをグループでまとめ発表する。 ・これまで地球上で起こった生物の大量絶滅について整理する。 ・日本列島は多様な気候区分があり、垂直方向の温度変化が大きいことを理解する。 ・日本列島はいくつもの時代の付加体が集積してできていること、河川の平均勾配が急であるという特徴があることを理解する。 ・図2から河川の勾配が、川や周辺の地形にどのように影響しているかを考える。 ・示された図から日本列島の年平均降水量や年平均気温の分布の特徴を読み取り、その特徴を季節の変化と結びつけて理解する。 ・日本の自然の恵みについて、自然景観として私たちを楽しませてくれたり、火山がさまざまな恵みをもたらしてくれたりしていることを理解する。 ・日本列島は暖流と寒流が出合う場所に位置し、水産資源が豊富であることを理解する。 ・日本は一人当たりの水資源量は世界平均の半分であるが、安全な水を豊富に利用できるという特徴があることを理解する。 ・自分が住んでいる地域で過去に気象災害が起こったことはないか調べる。 ・地域のハザードマップを入手し、自然災害が起こったときの事前行動計画をつくり、自分たちがどのように行動すればよいか整理して発表する。 ・日本の四季の特徴と季節ごとの気象災害を理解する。	期末考査	期末考査	ファイル
----	--	---	------	------	------

3	1	5編 地球に生きる私たち 終1章 地球環境の考え方 1節 地球環境の考え方 A自然現象と時間・空間スケール B地球システム C炭素の循環システム Dフィードバックのしくみ	・自然現象は「時間スケール」と「空間スケール」で見ることができることを理解する。 ・地球は1つのシステム「地球システム」として見ることができ、大気圏、水圏、雪氷圏、固体圏、生物圏などのサブシステムによって構成され、自然現象には複数のサブシステムが関与していることを理解する。 ・炭素の循環について、時間スケールの取り方で見方が変わることを理解する。 ・地球システムには、多くのフィードバックが存在することを理解する。 ・自然環境の変化は、外的要因と内的要因、人間活動によるものがあり、それらは時間スケールが異なることを理解する			
	2	終2章 自然環境の変動 1節 自然環境の変化 A自然環境の変化と時間スケール B自然環境に影響を与える要因 C大気—海洋相互作用	・大気と海洋の相互作用の例として、エルニーニョ現象とラニーニャ現象について理解する。 ・人間活動が自然環境に変化を与えた例として、オゾン層の破壊について理解する。 ・様々な観測データをもとに地球の気候変動について、その特徴や要因についてグループで考え発表する。 ・地球温暖化問題について理解する。 ・気候変動に関する様々な世界の取り組みについて整理し理解する。	小テスト		
	3	5編 地球に生きる私たち 終3章 これからの地球環境 1節 世界の取り組み A気候変動に関する政府間パネル B気候変動に関する国際連合枠組条約 C緩和策と適応策 2節 代替エネルギー A再生可能エネルギー B代替エネルギー	・自然現象に対する緩和策と適応策の違いを身近な例で考える。 ・化石燃料に代わるエネルギーとして、再生可能エネルギーや代替エネルギーとして水素エネルギーなどがあることを理解する。 ・地球環境を考えるとときに「持続可能性」という視点があることを理解する。 ・「持続可能性」どのように推進していくか、私たちにできることを考える。	小テスト 学年末考查	学年末考查	ファイル

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・日常生活の中で起こる自然現象に興味を持ち、その仕組みについて人間生活と関連づけて考える態度を持つこと。
- ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度を持つこと。
- ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

2025年度 理 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
物理基礎	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解すると共に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
- ・私たちが毎日の生活の中で経験したり、利用したりしている「電気」・「光」・「エネルギー」・「音」・「運動」などの現象について、法則性を学び論理的に追求する。

2. 使用教材

使用教科書	新編 物理基礎（東京書籍）
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価し、各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。		
		(1)授業への取り組み	(2)ノートやプリントの記載内容	
		(3)観察・実験など	(4)教科書・問題集の問題	
		(5)定期考査		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・各教科における個別の知識および技能を修得している。 ・既習の知識および技能と関連付けたり活用したりする中で、他の場面でも活用できる程度に概念等として理解したり、技能を修得したりしている。	・各教科等の知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけている。	・左記のaおよびbを身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法					
				a	b	c			
1	4	1 編 物体の運動とエネルギー 1章 運動の表し方 1節 運動の表し方 A 運動の表し方 B 変位と速度	・速さには瞬間の速さと平均の速さがあることを理解する。 ・物体の運動の向きと移動距離を合わせた量である変位について理解し、移動距離と変位の違いを知る。 ・物体の運動の向きと速さを合わせた量である速度について理解し、速さと速度の違いを知る。	小テスト					
	5	2節 等速直線運動 A 等速直線運動	・一直線上を運動する物体の速度は、正・負で表すことができることを理解する。 ・等速で一直線上を動く運動を等速直線運動ということを理解する。						
		3節 合成速度と相対速度 A 速度の合成 B 相対速度	・合成速度とその求め方について理解する。 ・相対速度とその求め方について理解する。						
		4節 直線運動の加速度 A 斜面上を運動する物体 〈実験1〉斜面上を下る力学台車 ・等加速度直線運動を表す式 ・負の加速度	・平面上での合成速度や相対速度についての考え方を知る。 ・加速度が一定である直線運動を等加速度直線運動ということを理解し、等加速度直線運動のv-tグラフやx-tグラフの特徴について理解する。 ・斜面を上がる運動のように、加速度が負になる場合の運動の特徴について理解する。						
		5節 落体の運動 A 自由落下 B 鉛直投射 ・鉛直投げ下ろし ・鉛直投げ上げ C 水平投射	・自由落下とはどのような運動か理解する。 ・物体が自由落下するときの加速度（重力加速度）について理解する。 ・投げ下した物体の運動のようすを式やグラフで表す方法について理解する。 ・投げ上げた物体の運動のようすを式やグラフで表す方法について理解する。						
	6	1編 物体の運動とエネルギー 2章 さまざまな力とそのはたらき 1節 力とつり合い A 力のはたらきと表し方 B 2力のつり合い C さまざまな力 D 力の合成と分解 E 3力のつり合い	・力の3要素について理解する。 ・力の矢印の書き方について理解する。 ・2力のつり合いについて理解する。 ・力の分解のしかたと成分について理解する。 ・力を分解するときには、任意の方向に分解できることを理解する。 ・斜面上に置かれている物体を例に、抗力について理解する。	中間考査	中間考査	ファイル			
		7	2節 運動の法則 A 慣性の法則 B 運動の法則 〈実験2〉力と加速度の関係 〈実験3〉質量と加速度の関係				・ガリレオの思考実験をもとに、摩擦や空気抵抗がない場合の物体の運動について考える。 ・身近な例をもとに、慣性の法則について理解する。 ・身のまわりにあるものを利用して、慣性を実感する。 ・物体にはたらく力と物体に生じる加速度の関係が具体的な数値としてどのような関係にあるかを調べるための実験計画を立てる。		

		C 作用・反作用の法則 D ニュートンの運動の3法則 3節 さまざまな運動とはたらく力 A 落体の運動とはたらく力 B 滑らかな面上を運動する物体とはたらく力 C 粗い面上を運動する物体とはたらく力 D 空気中や水中を運動する物体	・作用・反作用の法則について理解する。 ・力学台車の衝突をもとに，作用・反作用の法則について調べる。 ・運動方程式を適用する例を，さまざまな物体の運動をもとに演習を行いながら理解する。 ・動摩擦力の性質について理解する。 ・静止摩擦力について知る。 ・静止摩擦係数と動摩擦係数の大小関係について理解する。 ・大気圧や水圧について知る。 ・水深と水圧の関係，大気圧について理解する。 ・水中の物体にはたらく浮力の大きさと向きについて理解する。 ・アルキメデスの原理について知る。	期末考査	期末考査	ファイル
2	9	1編 物体の運動とエネルギー 3章 力学的エネルギー 1節 エネルギーと仕事 A 仕事 B 仕事率 2節 運動エネルギーと位置エネルギー A 運動エネルギー B 位置エネルギー 3節 力学的エネルギーの保存 A 運動エネルギーと位置エネルギーが同時に変化する運動 〈実験4〉運動エネルギーと位置エネルギーが同時に変化する運動 B 重力のみが仕事をする運動 C 弾性力のみが仕事をする運動 D 保存力 4節 力学的エネルギーが保存されない場合 A 保存力以外の力が仕事をする運動	・日常生活の中で使用するエネルギーに着目してその例を挙げ，エネルギーについて考える。 ・やってみようの，道具を使用する場合としない場合のデータをもとに，物理における仕事の表し方と仕事の原理について理解する。 ・力の向きと仕事の関係について理解する。 ・力の向きと移動の向きが任意のときの仕事の表し方について理解する。 ・ボウリングのピンの飛び方が異なる写真を見て，運動エネルギーに関係する物理量について考える。 ・運動エネルギーの変化と仕事の関係について理解する。 ・重力による位置エネルギーを定量的に表す方法を理解する。 ・重力による位置エネルギーは基準の取り方によってその量が異なることを知る。 ・弾性力による位置エネルギーを定量的に表す方法を理解する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーが移り変わる運動にどのようなものがあるか知る。 ・運動エネルギーと位置エネルギーが移り変わる運動について定量的な実験を行い，運動エネルギー，位置エネルギー，力学的エネルギーの関係について理解する。 ・重力のみが仕事をする運動について，物体の運動エネルギー，位置エネルギーを考え，力学的エネルギーが保存されることを理解する。 ・弾性力のみが仕事をする運動でも力学的エネルギーが保存されることを理解する。	小テスト	パフォ課題	パフォ課題
	10	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱 1節 温度と熱 A 温度 B 熱膨張 C 熱平衡	・エネルギー保存の法則について理解する。 ・必要に応じ，演習を通して，力学的エネルギー保存の法則について理解を深める。	中間考査	中間考査	ファイル

		D 熱 E 物質の三態 F 潜熱 2節 熱の移動と保存 A 熱量の保存 B 熱容量と比熱容量 3節 熱と仕事 A 内部エネルギー B 熱力学第1法則 11 4節 熱効率と不可逆変化 A 熱機関 B 可逆変化と不可逆変化 2編 さまざまな物理現象とエネルギー 2章 波 1節 波を表す A 波とは B 波をグラフで表す 2節 波の重ね合わせ A 波の重ね合わせ B 定在波（定常波） C 自由端や固定端での反射 3節 音の性質 A 音とは B 音の三要素 C うなり 12 4節 弦の固有振動 A 物体固有の振動 B 弦の固有振動 〈実験6〉弦の固有振動 5節 気柱の固有振動 A 気柱の固有振動 〈実験7〉気柱の共鳴	・温度計の例をもとに、温度をどのように測っているのか考える。 ・ブラウン運動を観察し、熱運動について理解を深める。 ・温度が熱運動の激しさを表すことを理解する。 ・絶対温度とセルシウス温度の関係について理解する。 ・熱膨張について知る。 ・熱運動は温度の高い物体から低い物体へ伝わることを理解し、熱平衡について理解する。 ・熱がエネルギーであることについて理解する。 ・水に熱を加えたときの温度変化と状態変化について理解する。 ・物質の三態と物質の分子の状態を関連付けて理解する。 ・原子・分子の熱運動と潜熱について関連付けて理解する。 ・音や地震、水面の波などをもとに、波に共通する点は何か考える。 ・つる巻きばねを使って、波は媒質が移動することではないことを観察から知る。 ・振動が伝わっていく現象を波ということを理解し、波源や媒質について理解する。 ・波には、横波と縦波（疎密波）があることを理解する。 ・波が波源の振動のエネルギーや情報を伝える現象であることを知る。 ・波の速さ、波長、周期、振動数の関係を理解する。 ・媒質の変位と媒質の速さの関係を知る。 ・正弦波と単振動の関係を知る。 ・媒質の1点の振動をy-tグラフで表せることを理解し、y-xグラフとy-tグラフの関係について理解する。 ・位相について理解し、同位相や逆位相を理解する。 ・いろいろな楽器の音を例に、同じ音の高さでも楽器によって聞こえ方が異なることに気づき、その理由を考える。 ・音が縦波であることを理解し、空気中での音の速さについて理解する。 ・媒質による音の速さの違いについて知る。 ・音の性質の1つとして、音の反射について理解する。 ・音の三要素について理解する。 ・管楽器で音階をどのように決めているか考える。 ・管の内部の空気を気柱ということを知り、気柱が共鳴することで特定の音が出ることを知る。	小テスト 小テスト 期末考查	パフォ課題 パフォ課題 期末考查	パフォ課題 パフォ課題 ファイル
--	--	---	--	----------------------	------------------------	------------------------

3	1	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 3章 電気と磁気 1節 電流と電圧 A 静電気 B 電流 C 電圧 2節 電気抵抗 A 電気抵抗 B 物質による電気抵抗の違い 〈実験8〉抵抗値の形状による変化 3節 抵抗の接続 A 抵抗の接続 4節 電気とエネルギー A 電気とエネルギー 5節 直流と交流 A 直流と交流 B 交流の発生 C 変圧器 D 電力の輸送 E 日常生活で利用する電気 6節 電磁波 A 電磁波の性質 B 電磁波の利用	・冬に起こりやすいドアを開けるときのビリッという現象を思い出し、静電気の影響に気付く。 ・静電気や静電気力について理解する。 ・原子の構成について理解し、電気素量や静電気が生じる原因について理解する。 ・電流の正体を理解し、電流の表し方と、電流の向きと電子の移動の向きの関係を理解する。 ・白熱電球を例に、同じ電圧を加えても電球の明るさが異なる理由について考える。 ・オームの法則について理解する。 ・同じ材質でも形状が異なると抵抗値がどのようになるか、仮説を立て、検証方法を考え、実際に準備をして実験を行う。 ・電流を流す物質の長さや太さと抵抗値の関係を実験結果から見いだして理解する。 ・同じ材質でつくられた抵抗の抵抗値について、長さと断面積との関係を理解する。 ・直流と交流の違いについて理解し、交流の表し方について理解する。 ・電力輸送の流れを知り、送電による電力損失について考えることで、送電に高電圧を用いる理由を理解する。 ・交流を直流に変換する方法や、日常生活での電気の利用についての方法や工夫を知る。 ・電磁波が身のまわりでどのように利用されているか考える。 ・電磁波とは何かを理解する。	小テスト		
		2編 さまざまな物理現象とエネルギー 4章 エネルギーとその利用 1節 エネルギーの変換と保存 A エネルギーとは何か B さまざまなエネルギー C エネルギーの変換と保存 2節 原子核のエネルギー① A 原子の構造 B 放射線と核（原子力）エネルギーの発見 C 放射能の強さと半減期 D 放射線の種類と利用 E 放射線の人体への	・電磁波は波長（振動数）によってさまざまな種類に分類され、その性質に応じて利用されていることを理解する。 ・エネルギーの量について考える。 ・エネルギーとは何かについて理解する。 ・エネルギーという概念がどのように生まれたか、語源とともに知る。 ・エネルギーはさまざまに形を変えることと、エネルギー保存の法則について理解する。 ・胸部X線検査を例に、X線が人体にどの程度影響を及ぼすか考える。 ・放射能の強さを表す量を知り、半減期について理解する。 ・放射線には、α線、β線、γ線などがあることを理解し、その性質に応じてさまざまな分野で利用されていることを知る。 ・放射線の人体への影響について、その表し方とともに理解する。 ・外部被ばくを低減するための3原則について知る。 ・核エネルギーを利用する方法として、原子炉と太陽の内部でそれぞれどのようなことが起こっ	小テスト	パフォ課題	パフォ課題

	影響 3節 原子核のエネルギー② 核分裂と核融合 A 核分裂 B 核融合 4節 エネルギーの利用と課題 A 生命の営みとエネルギー B 人間生活とエネルギー C 使いやすいエネルギーの形 D 持続可能な社会の実現に向けて	ているのかを考える。 - 原子力発電における長所と短所について知り、原子力発電や放射線について考える。 - 太陽で起こっている核融合について理解し、研究が進められている核融合発電について知る。 - 電気エネルギーがさまざまなところで利用されていることに気付くとともに、どのようなエネルギーに変換して利用しているか考える。 - 生命のエネルギーの源が体様からもたらされる光エネルギーであることを理解する。 - 電気エネルギーが幅広く使われていることをその理由とともに理解する。 - さまざまな発電方式のしくみや特徴などについて調べる。 - 持続可能な社会に向けて、どのような取り組みが行われているか理解する。	学年末考查	学年末考查	ファイル
--	--	--	-------	-------	------

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- 日常生活の中で起こる自然現象に興味を持ち、その仕組みについて人間生活と関連づけて考える態度を持つこと。
- 疑問に思ったことを確かめてみようという態度を持つこと。
- 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

2025年度 理 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
理科一般	4	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

・物理、化学、生物、地学に偏らず、今話題となっている科学情報の理解を図ることを目標とする。また理科に係わる各種検定への取組も行う。

2. 使用教材

使用教科書	自主製作教材
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価し、各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み (2)ノートやプリントの記載内容 (3)観察・実験など		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価 観点 の 趣 旨	・各教科における個別の知識および技能を修得している。 ・既習の知識および技能と関連付けたり活用したりする中で、他の場面でも活用できる程度に概念等として理解したり、技能を修得したりしている。	・各教科等の知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけている。	・左記の a および b を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	物理、化学、生物、地学、科学情報分野の横断的学習	・理科に関するクロスワード ・ビデオ視聴と視聴プリント ・SDGSや生物の生態を考えるボードゲーム ・理科に関する新聞記事を読み解く学習 ・生物分類技能検定に向けた学習 ・定期的な星空案内プラネタリウム体験 ・自然体験学習プログラムの実施 ・特定の生物に関する調べ学習と発表 ・その他	小テスト	小テスト	製作物 ファイル
	5					
	6			小テスト	小テスト	
2	7	物理、化学、生物、地学、科学情報分野の横断的学習	・理科に関するクロスワード ・ビデオ視聴と視聴プリント ・SDGSや生物の生態を考えるボードゲーム ・理科に関する新聞記事を読み解く学習 ・生物分類技能検定に向けた学習 ・定期的な星空案内プラネタリウム体験 ・自然体験学習プログラムの実施 ・特定の生物に関する調べ学習と発表 ・その他			製作物 ファイル
	9			小テスト	小テスト	
	10			小テスト	小テスト	
3	11	物理、化学、生物、地学、科学情報分野の横断的学習	・理科に関するクロスワード ・ビデオ視聴と視聴プリント ・SDGSや生物の生態を考えるボードゲーム ・理科に関する新聞記事を読み解く学習 ・生物分類技能検定に向けた学習 ・定期的な星空案内プラネタリウム体験 ・自然体験学習プログラムの実施 ・特定の生物に関する調べ学習と発表 ・その他			製作物 ファイル
	12			小テスト	小テスト	
	1			小テスト	小テスト	

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・日常生活の中で起こる自然現象に興味を持ち、その仕組みについて人間生活と関連づけて考える態度を持つこと。
- ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度を持つこと。
- ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

2025年度 保健体育 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
体育	3	総合学科	1	T Tまたは分割

1. 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身につける。

2. 使用教材

使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		スキルテスト、各記録、学習プリント、活動観察による		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを尊重しようとするとともに、健康・安全を確保している。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【体育理論】	(ア) スポーツの歴史的発展と多様な変化	学習プリント	学習プリント パフォ課題	振り返りシート
	5	【体づくり運動】 (体ほぐしの運動)	・ラジオ体操の習得を通じて、自身の心身の調子を感じるとともに、グループで教え合ったり学び合ったりする。	学習プリント テスト	学習プリント パフォ課題	振り返りシート 観察
	6	〔選択Ⅰ〕 【陸上競技】 (短距離走・ルー) 【ダンス】 創作ダンス・現代的なリズムのダンス	・自己の能力を知ることにより自己目標を設定し、課題解決を目指して意欲的に取り組む。 ・合理的な方法を理解し、安全に留意して取り組む。	学習プリント 各記録	学習プリント パフォ課題	振り返りシート 観察
	7	【体育理論】	(イ) 現代のスポーツの意義や価値 (ウ) スポーツの経済的効果と高潔さ	学習プリント	学習プリント パフォ課題	振り返りシート
	9	〔選択Ⅱ〕 【球技】 卓球・テニス 【武道】柔道	・基本技術を学び習得する。各種目の特性を理解し、安全に運動を行う。 ・ルールを守ることを大切にしたり、仲間と協力、協調したりする姿勢を身につける。	学習プリント スキルテスト	学習プリント パフォ課題	振り返りシート 観察
2	10	〔選択Ⅲ〕 【球技】 バスケットボール・ソフトボール・ハンドボール	・勝敗を競ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。			
	11	【体づくり運動】 (実生活に生かす運動の計画)	・自己の目標と課題を設定し、達成・解決を目指して計画的に取り組む。	各記録 観察	学習プリント パフォ課題	振り返りシート 観察
	12	【体育理論】	(エ) スポーツが環境や社会にもたらす影響	学習プリント	学習プリント パフォ課題	振り返りシート
3	1	〔選択Ⅳ〕 【球技】 バドミントン	・基本技術を学び習得する。各種目の特性を理解し、安全に運動を行う。 ・ルールを守ることを大切にしたり、協力、協調する姿勢を身につけ、勝敗を争う楽しさを味わったりする。	学習プリント スキルテスト	学習プリント パフォ課題	振り返りシート 観察
	2	【器械運動】マット運動	・身体操作を学び、自己の能力に応じた技を習得する。			
	3		・音楽やリズムに合わせてダンスを習得する。			

*球技の選択では、2つ以上の型を選択すること

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

運動技能だけでなく、活動の要点の理解、学習プリントの内容、取り組む姿勢や態度なども重要である。ケガや体調不良等により見学を要する場合は、見学レポート等を課し、評価に充てる。

2025年度 保健体育 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
体育	2	総合学科	2	TTまたは分割

1. 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身につける。

2. 使用教材

主たる教材	現代高等保健体育(大修館書店)
副教材	無し

3. 評 価(評価法と評価観点の趣旨)

評価法		スキルテスト、各記録、学習プリント、活動観察による		
観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを尊重しようとするとともに、健康・安全を確保している。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【体育理論】	(ア) 運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害	学習プリント	学習プリント パフォ課題	振り返り シート
		【体づくり運動】 (体ほぐしの運動)	・器具を使った運動を自分たちで考えるとともに、グループで教え合ったり学び合ったりする。 ・合理的な方法を理解し、安全に留意して取り組む。	学習プリント テスト	学習プリント パフォ課題	振り返り シート 観察
	5					
	6	[選択Ⅰ] 【陸上競技】 (短距離走・リレー) 【器械運動】 (マット運動)	・自己の能力を知ることにより自己目標を設定し、課題解決を目指して意欲的に取り組む。 ・合理的な方法を理解し、安全に留意して取り組む。	学習プリント 各記録	学習プリント パフォ課題	振り返り シート 観察
	7	【体育理論】	(イ) スポーツの技術と技能及びその変化 (ウ) 運動やスポーツの技能の上達過程	学習プリント	学習プリント パフォ課題	振り返り シート
2	9	[選択Ⅱ] 【球技】バレーボール・ソフトテニス	・基本技術を学び習得する。各種目の特性を理解し、安全に運動を行う。 ・ルールを守ることが大切にしたり、仲間と協力、協調したりする姿勢を身につける。	学習プリント スキルテスト	学習プリント パフォ課題	振り返り シート 観察
	10	[選択Ⅲ] 【球技】バスケットボール・ソフトボール	・勝敗を競ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。			
	11	【体づくり運動】 (実生活に生かす運動の計画)	・自己の体力を知り、目標と課題を設定して、達成・解決できるように計画的に取り組む。	各記録 観察	学習プリント パフォ課題	振り返り シート 観察
	12	【体育理論】	(エ) 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方	学習プリント	学習プリント パフォ課題	振り返り シート
3	1	[選択Ⅳ] 【球技】バドミントン 【ダンス】現代的なリズムのダンス	・基礎技術を活用し、効果的な攻防について学び習得する。各種目の特性を理解し、安全に運動を行う。 ・ルールを守ることが大切にしたり、協力、協調する姿勢を身につけ、勝敗を争う楽しさを味わったりする。	学習プリント スキルテスト	学習プリント パフォ課題	振り返り シート 観察
	2					
	3		・ペアやグループで協調し、音楽やリズムに合わせてダンスを習得する。			

5. 担当者からのメッセージ(学習方法など)

運動技能だけでなく、活動の要点の理解、学習プリントの内容、取り組む姿勢や態度なども重要である。ケガや体調不良等により見学を要する場合は、見学レポート等を課し、評価に充てる。

2025年度 保健体育 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
体育	2	総合学科	3	一斉

1. 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身につける。
--

2. 使用教材

主たる教材	現代高等保健体育（大修館書店）
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		スキルテスト、各記録、振り返りレポート、活動観察による		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを尊重しようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【体育理論】	(ア) ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方	振り返りレポート	振り返りレポート	振り返りレポート
		【体づくり運動】 (実生活に生かす運動の計画)	・自己の能力を知ることにより自己目標を設定し、課題解決を目指して意欲的に取り組む。 ・合理的な方法を理解し、安全に留意して取り組む。	振り返りレポート 観察	振り返りレポート パフォ課題	振り返りレポート 観察
		〔選択Ⅰ〕 【陸上競技】 (短距離走・リレー) 【器械運動】 (マット運動)	・自己の能力を知ることにより自己目標を設定し、課題解決を目指して意欲的に取り組む。 ・合理的な方法を理解し、安全に留意して取り組む。	学習プリント 各記録	学習プリント パフォ課題	振り返りシート 観察
	7	【体育理論】	(イ) ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方 (ウ) スポーツ推進のための施策と諸条件	振り返りレポート	振り返りレポート パフォ課題	振り返りレポート
2	9	〔選択Ⅱ〕 【球技】バスケットボール・バレーボール・バドミントン・卓球	・基本技術を活かした活動を通して、各種目の楽しさを味わう。 ・施設や用具の適切な使い方を理解し、安全を確保して活動する。ルールを守ることを大切にしたり、仲間と協力、協調したりする姿勢を身につける。	振り返りレポート スキルテスト	振り返りレポート パフォ課題	振り返りレポート 観察
		〔選択Ⅲ〕 【球技】サッカー・ソフトボール・ソフトテニス	・勝敗を競ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。			
	11	【体づくり運動】 (実生活に生かす運動の計画)	・自己の体力を知り、目標と課題を設定して、達成・解決できるように計画的に取り組む。	各記録 観察	振り返りレポート パフォ課題	振り返りレポート 観察
	12	【体育理論】	(エ) 豊かなスポーツライフが広がる未来の社会	振り返りレポート	振り返りレポート パフォ課題	振り返りレポート
3	1	〔選択Ⅳ〕 【球技】バスケットボール・バレーボール・バドミントン・卓球	・各種目の特性を理解し、安全に運動を行う。 ・施設や用具の適切な使い方を理解し、安全を確保して活動する。スペースや用具の共有など、他者と協力、協調する姿勢を身につける。	振り返りレポート	振り返りレポート	振り返りレポート 観察

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

運動技能だけでなく、活動の要点の理解や振り返りレポートの内容、取り組む姿勢や態度なども授業を受ける上で大切です。ケガや体調不良等により見学を要する場合は、見学レポート等を課し、評価に充てます。

2025年度 保健体育 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
保健	1	総合学科	1	一括

1. 学習の目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。

2. 使用教材

使用教科書	「現代高等保健体育」 (大修館書店)
副教材	「現代高等保健ノート」 (大修館書店)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		定期考査、小テスト、ノート、プリント等		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、必要な知識や技能を身に付けている。	・ 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	・ 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	1単元 現代社会と健康 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた	・わが国の現在の健康問題について例を挙げて説明できるようにする。	ノート 小テスト 学習プリント	小テスト 学習プリント パフォ課題	ノート 振り返りシート 観察
	5	3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できるようにする。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できるようにする。			
	6	6. 運動と健康 7. 食事と健康	・運動・食事と健康の関係についてそれぞれ説明することができるようにする。	期末考査	期末考査	
	7					
2	9	8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康	・健康と休養の関係および適切な休養のとり方について説明できるようにする。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用による健康問題や個人、社会環境への対策例を挙げることができるようにする。	ノート 小テスト 学習プリント	小テスト 学習プリント パフォ課題	ノート パフォ課題
	10					
	11	12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復	・精神疾患の例を挙げるとともに、その予防や治療について例を挙げて説明できるようにする。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できるようにする。	期末考査	期末考査	
	12					
3	1	15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定と・行動選択 19. 健康に関する環境づくり	・感染症の予防対策について3原則から例を挙げて説明できるようにする。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できるようにする。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例を挙げて説明できるようにする。	ノート 小テスト 学習プリント 観察	小テスト 学習プリント パフォ課題	ノート パフォ課題
	2					
	3			学年末考査	学年末考査	

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

年3回の定期考査の素点、保健ノートの作成状況や提出物の提出状況、小テストや課題の点数、プリント等の内容、授業への参加の様子などから、総合的に評価する。

2025年度 保健体育 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
保健	1	総合学科	2	一括

1. 学習の目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。

2. 使用教材

主たる教材	「現代高等保健体育」 （大修館書店）
副教材	「現代高等保健ノート」 （大修館書店）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、小テスト、ノート、プリント等		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、必要な知識や技能を身に付けている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	2単元 安全な社会生活 1. 事故の原因と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全	・事故の実態と被害の実態を理解し、安全のために必要な個人の行動について考える。	ノート 小テスト 学習プリント	小テスト 学習プリント パフォ課題	ノート 振り返りシート 観察
	5	4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法	・応急手当の意義と日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法を理解し、実際に心肺蘇生法をおこなうことができるようにする。			
	6	3単元 安全な社会生活 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択	・思春期における男女のからだと心の違いについて理解し、それにかかわって起こる問題について理解を深める。妊娠・出産の過程における健康課題について理解し、家族計画の意義と適切な避妊法について説明できるようにする。	期末考査	期末考査	
2	7	4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶				
	9	6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活	・各ライフステージで健康的な生活を送るために必要な考え方や行動を考える。 ・働くことの意義を考え、働き方や労働と健康との関わりについて理解する。	ノート 小テスト 学習プリント	小テスト 学習プリント パフォ課題	ノート 振り返りシート 観察
	10	4単元 健康を支える環境づくり 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動	・自分たちの健康と生活環境とのかかわりについて例を挙げて説明できるようにし、環境課題とどのように向き合っていくべきかを考える。	期末考査	期末考査	
3	1	7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	・保健、医療サービスの役割や内容について理解し、その活用について考える。 ・各機関による保健活動を知り、各自が主体的に参加することの意義について考える。	ノート 小テスト 学習プリント 観察 学年末考査	小テスト 学習プリント パフォ課題 学年末考査	ノート 振り返りシート 観察

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

年3回の定期考査の素点、保健ノートの作成状況や提出物の提出状況、小テストや課題の点数、プリント等の内容、授業への参加の様子などから、総合的に評価する。

2025年度 保健体育 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
生涯スポーツ	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

- ・ 正しい服装で安全に配慮し、時間、授業のルールを守り積極的に授業に参加できる。
- ・ それぞれの運動の特性を学び、協力・責任を果たし、運動に親しむことができる。
- ・ 現代社会におけるスポーツの意義と必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を実践できる能力を身につける。

2. 使用教材

主たる教材	なし
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		ワークシート、パフォーマンス課題、振り返りレポート、活動観察による		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらに関する知識や技能を身に付けている。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを尊重しようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	トレーニングの原理・原則	• トレーニングの原理・原則や体力要素についての基本的な知識を習得する。 • 自己の体力や課題を知り、体力を高める方法を学び実践する。	ワークシート	ワークシート	観察
	5	トレーニング実習				
		スポーツ記事を書こう	• スポーツの試合のビデオを観て、要点、要旨をまとめる力を養う。	ワークシート	ワークシート	ワークシート
2	6	プレゼンテーション実習①	• グループで決めたテーマについて、調べ学習をする。 • 授業内で発表会を開き、まとめる力、伝える力を養う。	パフォ課題	パフォ課題	振り返りレポート
	7					
	9	模擬授業（一人1時間授業）	• 1時間分の授業を担当し、指導案を作成する。 • 授業でのねらいや、留意点等を考え、安全に活動できるようにする。 • 授業を受ける側（生徒役）も、授業者の意図を理解し、協力して授業を進めるようにする。 • 各授業終了後、振り返りカードを記入し、相互に評価をする。	振り返りレポート パフォ課題	振り返りレポート パフォ課題	パフォ課題 観察
3	10					
	11	テーピング実習	• 足首のケガ（内反捻挫）におけるテーピングの仕方について学ぶ。	パフォ課題	パフォ課題	観察
	12	プレゼンテーション実習②	• 自分で決めたテーマに沿って、調べ学習をする。 • 授業内で発表会を開き、まとめる力、伝える力を養う。	パフォ課題	パフォ課題	振り返りレポート
3	1	ニューススポーツ実習	• ニューススポーツに触れ、生涯にわたって運動に親しむことのできる姿勢を養う。	パフォ課題	パフォ課題	観察

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

講義や演習（実習）、発表など様々な形式で授業をします。運動の技能だけでなく、活動の要点の理解、振り返りレポートの内容、取り組む姿勢や態度なども重要です。

2025年度 芸術科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
音楽 I	2	総合学科	1	選択

1. 学習の目標

- ・音楽の幅広い活動を通じて生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。
- ・喜びや楽しさを味わうことによって、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2. 使用教材

使用教科書	「高校生の音楽1」 (教育芸術社)
副教材	無し

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		小テスト(筆記)、歌唱実技、演奏実技、振り返りシート(提出物)		
観 点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・ 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・ 音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・題材等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	歌唱(リズムに乗ってメロディーに乗って)	・歌唱技能の基本や簡単なリズムの作り方を学び、音楽を愛好する心情を養う。	小テスト	歌唱実技	振り返りシート
	5	器楽	・美しい響きに対する関心をもち、曲にふさわしい表現を工夫することで、表現する喜びを味わう。		演奏実技(リコーダー)	振り返りシート
	6	楽典	・基礎的・基本的な知識を身に付ける。		歌唱実技	振り返りシート
	6	歌唱・鑑賞(日本の歌)	・我が国の伝統的な歌唱および和楽器について触れ、歌詞の内容と音楽とのかかわりを理解する。 ・美しい響きの発声・発音を身に付ける。			振り返りシート
		創作	・創作の面白さを感じ取り、音楽への関心・意欲を高める。			提出物
	7	合唱	・日本語の歌がもつ音声や音韻の美しさを感じ取り、美に対する感性を高める。		歌唱実技	振り返りシート
2	9	器楽	・ピアノで弾く楽しさや喜びを感じ、音楽表現をするための技術を身に付ける。	小テスト	演奏実技(キーボード)	振り返りシート
	10	ミュージカル	・楽しさを味わい、舞台芸術についての総合的な理解を深める。			提出物
	11	音楽の世界	・世界の音楽の種類や特徴を理解し、その良さを味わう。		演奏実技(ギター)	振り返りシート
	12	劇音楽	・劇や物語と音楽の結びつきを理解し、イメージをもって表現力を高める。			提出物
3	1	アンサンブル	・グループ活動を通じて、主体的な学習態度を身に付ける。	小テスト	演奏実技(楽器)	提出物
	2	合唱	・歌い合わせ喜びを味わいながら響きを聴き取り、歌唱表現の能力を養う。	歌唱実技		振り返りシート
	3	鑑賞	・音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、多様な音楽に関心を持つ。			提出物

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

授業態度、実技テスト、小テスト、提出物、振り返りシートなどを総合して評価する。
音楽を理解するための知識を得ることで、自ら音楽を楽しむ力を養う。

2025年度 芸術科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
美術 I	2	総合学科	1	選択

1. 学習の目標

- ・構図や色彩の効果、形や質感・量感などから、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして表す。
- ・形体や色彩、配置、組み合わせなどの効果、形や質感、重心などの効果を考えながら構想を練ったり、作品の表現の意図や工夫について考えながら鑑賞したりする。
- ・感じ取ったよさや美しさなどを捉えて表す創造活動や、作品のよさや美しさなどを鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。

2. 使用教材

使用教科書	「高校生の美術 1」 （日本文教出版）
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法	課題作品 プリント 小テスト パフォーマンス課題 振り返りシート		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・構図や色彩などが感情にもたらす効果や、形や質感・量感などの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・目的や意図に応じて材料などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	・自己を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成や質感などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えて、見方や感じ方を深め、追求している。	・自己の内面を探り、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に主体的に取り組もうとしている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい作品の特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・題材等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	オリエンテーション 逆さ絵を描く	・美術の特性を理解し、学習の心構えを持つ。 ・視点を変えて形を見ることで固定概念ではなく、形を捉え表現する。 ・水彩絵具の特性を理解し、材料や道具の扱い方を学ぶ。	プリント	プリント	振り返りシート
	5	水彩画 (教科書「屋外の風景を描こう」 P 16・17 参考)	・遠近感を理解して、構図を工夫し、効果的に表す。 ・校内の風景をよく観察し、自分の見付けた場所の魅力を視点や構図、光と陰影、遠近感の表し方を工夫して描く。	課題作品	プリント	振り返りシート
	6	鑑賞 (教科書「エヴォルトへの道」P17参考)	・ホドラーをはじめとする様々な画家の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、表現の特質、美術文化について理解を深める。	プリント	プリント	振り返りシート
	7		・これまでの学習や鑑賞で得た情報・知識を交えながら、色味や質感に着目し、表現を追求していく。	課題作品	パフォーマンス 課題(発表)	振り返りシート
2	9	アニメーション (教科書「アニメーションの手法」P96・97参考)	・アニメーションの原理、手法、知的財産権について基礎知識を学ぶ。	小テスト	ワークシート	振り返りシート
	10		・iPadを用いたデジタルアニメーション制作について基本操作を学ぶ。			
	11		・アニメーションによる表現の特性を生かして主題を生成し、画面の構成と時間の流れや働きについて考え、映像作品の制作をおこなう。			
	12	鑑賞	・制作した作品を相互鑑賞し、作者の思いや作品に込められたメッセージなどから、作品の良さを味わう。	課題作品	パフォーマンス 課題(発表)	
3	1	鑑賞・表現 (教科書「抽象彫刻で表す」P62・63参考)	・彫刻が作品の造形的な魅力だけではなく、置かれる場所の様子やイメージを変化させる働きがある。様々な場所に設置されている彫刻を鑑賞し、作品のどのような造形的な要素が、その場所を変化させているか考える。	課題作品	プリント	振り返りシート
	2	塑像オブジェ (教科書「彫って表す」 P60・61参考)	・きのこをモチーフとしてリアルに表現することを学ぶ。	小テスト	プリント	振り返りシート
			・自然にある流木から見えてくる動物を、紙粘土で表情を補う。流木の素材の持つ魅力を引き出した表現を追求する。		パフォーマンス 課題(発表)	
	3		・制作した作品を相互鑑賞し、作者の思いや作品に込められたメッセージなどから、作品の良さを味わう。			振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

課題作品、授業態度、出席状況などから観点別に判断する。
ICT機器 (iPad) を積極的に活用し課題に取り組む。

2025年度 芸術科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
視覚表現研究	4	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

- ・様々なデザインから視覚を通した情報伝達の方法を学び、その技法や適切な表現方法を身に付ける。
- ・幅広い芸術表現を、五感の中でも特に視覚に注目して学習する。
- ・平面から立体まで、メディアにとらわれず視覚表現の多様性を探る。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品　プリント　パフォーマンス課題　振り返りシート		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・感情に影響を与える構図や色彩、造形的な特徴である形や質感・量感などを考慮し、これらの要素を組み合わせて全体のイメージや作風を構築する方法を理解する。 ・視覚的な情報伝達を強化し、観察者に特定の感情や印象を効果的に伝える方法を理解する。 ・特定の目的や意図に基づき、材料の特性や効果を最大限に生かしつつ、独自の発想で表現方法を工夫し、主題を深く追求している。	・自身の内面を探り、感じたことや思考、夢や想像からテーマを生み出し、表現手法の特性を活かしている。 ・形状、色彩、構成、質感などの要素に対する綿密な考察を通じて、情報を効果的に伝えるための創造的な表現のアイデアを練り上げている。 ・作品の造形的な優れた要素や美しさを捉え、発信者の感情や意図、そして創造的な表現の工夫について考察し、それによって観察者の見方や感じ方を理解している。	・内面を探り、個人的な感情や思考に基づく情報を活用して、表現の創造的な活動に積極的に取り組もうとしている。 ・作品の造形的な魅力や美しさを把握し、作者が表現したい特徴や美点に関する考察を通じて、鑑賞の創造的な活動に積極的に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	オリエンテーション	①視覚表現研究とは	プリント	プリント	振り返りシート
	5	色彩の基礎	①色相環について *	〃	〃	〃
	6		②配色について *	〃	〃	〃
	7		③ファッションデザイン *	課題作品	パフォー マンス課 題(発表)	〃
			*は、講義→制作→鑑賞			
			夏季休暇課題：アクセントカラーを探す	プリント	〃	
2	9	視覚表現の応用	①ロゴデザインについて	プリント	プリント	振り返りシート
			②フォントデザイン *	課題作品	パフォー マンス課 題(発表)	〃
			③ドット絵 *	〃	〃	〃
			④ペットボトルラベルデザイン *	〃	〃	〃
			⑤菓子パッケージデザイン *	〃	〃	〃
			⑥アンビグラム *	〃	〃	〃
			⑦MCエッシャーについて	プリント	プリント	〃
			⑧蛇腹絵 *	課題作品	パフォー マンス課 題(発表)	〃
			*は、講義→制作→鑑賞			
	11	自由課題	①作品制作 *	〃	〃	〃
	12		学んだことを活かして、各自作品制作を行う。			
3	1	作品発表	①プレゼンテーション	プリント	パフォー マンス課 題(発表)	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

講義や作品制作を通じて、視覚による情報伝達について学習します。

2025年度 外国語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
英語コミュニケーションⅠ	3	総合学科	1	習熟度別

1. 学習の目標

中学校で学習した英文法の復習をしつつ、英語の基礎を整理し、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの4技能5領域の基礎的な資質・能力の育成を目指す。普段の生活などの日常的な話題、また環境、人権など地球規模の社会的な話題について多くの支援を活用しながら英語で聞き、話し、読み、書くことが出来るようになることを目標とする。
--

2. 使用教材

使用教科書	「VISTA English CommunicationⅠ」（三省堂）
副教材	「英語のたて×よこドリル BOOK1」（正進社）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、コミュニケーション活動等）、授業プリント及び振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	基本的な外国語の音声や語彙、表現、文法などについて理解を深めている。また、外国語について獲得した知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能の視点から実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、知識及び技能を活用して外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりしている。	獲得した知識及び技能を積極的に活用し、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	Get Ready !	アルファベットの書き方・順番の確認 文法の基礎の復習 動詞(be 動詞・一般動詞)	小テスト		振り返りシート
		Lesson 1		小テスト		
	5	Colors of Spring	*色/春について学び、考えを表現する。			振り返りシート
		Lesson 2	動詞(be 動詞・一般動詞)の過去形	小テスト		
		Dick Bruna	*過去形を用いて自分のことを表現する。	中間考査	中間考査	プリント
	6	Lesson 3	現在進行形・過去進行形	小テスト		振り返りシート
		Interesting Sports	*スポーツや行動について伝えることが出来る。			
2		Enjoy Communication	買い物という場面に適した対話をする。		パフォ課題	パフォ課題
		How about this one?	*質問・断る表現を学び活用する。			
	7	Lesson 4	助動詞・動名詞	小テスト		振り返りシート
		Pictograms	*ピクトグラムについての概要を学ぶ。			
				期末考査	期末考査	プリント
	9	Lesson 5	不定詞	小テスト		振り返りシート
		We Are Part of Nature	*岩合さんのインタビューを聴き、概要を理解して考えを深める。			
3	10	Lesson 6	現在完了形	小テスト		振り返りシート
		Machu Pichu	*マチュピチュについて概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。	中間考査	中間考査	プリント
	11	Lesson 7	受け身の表現	小テスト		振り返りシート
		Artificial Intelligence	*AIについての概要を理解する。			
	12	Enjoy Communication	レストランでの会話表現		パフォ課題	パフォ課題
		Today's Special	*提案・主張の表現を学び活用する。			
		Lesson 8	関係代名詞			振り返りシート
3	1	Lesson 9	名詞を修飾する分詞・関係副詞	小テスト		振り返りシート
		Kids' Guernica	*ゲルニカの絵についての考えを深める。			
	2	Lesson 10	比較表現	小テスト		振り返りシート
3		Ethical Fashion	*エシカルファッションについて学び、理解して考えを深める。			
	3	Enjoy Reading!	仮定法過去		パフォ課題	パフォ課題
			*物語を読み概要をまとめ考えを伝える。	学年末考査	学年末考査	プリント

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

- ・日々の授業を積極的に受け、授業内容や英単語など復習する習慣をつけること。
- ・日頃の授業の中でiPadを用いて英語を聞き、読み、書き、話す活動を行う。

2025年度 外国語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
英語コミュニケーションⅡ	4	総合	2	一斉授業

1. 学習の目標

日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、

- 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
- 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

2. 使用教材

主たる教材	All Aboard! English Communication II (CⅡ701)
副教材	チャンクで英単語 (三省堂)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、コミュニケーション活動等）、授業プリント及び振り返りシートで評価する。	
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評価観点の趣旨	・ 基本的な外国語の音声や語彙、表現、文法などについて理解を深めている。また、外国語について獲得した知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能5領域の視点から実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、知識及び技能を一定の支援を活用して外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあっている。	・ 獲得した知識及び技能を積極的に活用し、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	Lesson 1 A Colorful Island	・ 関係代名詞whatを用いた文 ・ イタリアのブラーノ島の特色について学習する	小テスト		振返シート
	5	Lesson 2 With the Beatles	・ 比較表現〈more〉〈the most〉を用いた文 ・ 世代を超えて人気のあるバンドについて学習する	小テスト		振返シート
		Communication 病院で診察	・ 病院で診察を受ける場面において英語で対話をする	小テスト 定期考査	パフォ課題 定期考査	プリント
	6	Lesson 3 Wild Men	・ itを用いた文の形・意味 ・ 「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える	小テスト		振返シート
2	7	Lesson 4 Little Hero	・ 間接疑問文の形・意味 ・ ハチドリのお話から不断の努力と不屈の心について考える	小テスト		振返シート
		Let's Listen 世界自然遺産	・ 日本にある世界自然遺産についての話を聞き、概要を理解する	小テスト 定期考査	パフォ課題 定期考査	プリント
	9	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	・ to不定詞を含む表現を用いた文 ・ 日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する	小テスト		振返シート
	10	Lesson 6 Seeds for Future Generations	・ 動詞の目的語になるif節を用いた文 ・ 伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える	小テスト		振返シート
3		Reading 1 Mujina	・ 江戸時代を舞台にした怪談を読み、情景や登場人物の心情を読み取る	小テスト 定期考査	パフォ課題 定期考査	プリント
	11	Lesson 7 Over the Wall	・ 関係副詞where、whenを用いた文 ・ 世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する	小テスト		振返シート
	12	Lesson 8 Inspiration from Nature	・ 知覚動詞を用いた文 ・ 自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する	小テスト		振返シート
		Getting the Necessary Information ロンドンの地下鉄	・ ロンドンの地下鉄の路線図を見て、必要な情報を的確に読み取り、目的地への行き方を案内する	小テスト 定期考査	パフォ課題 定期考査	プリント
3	1	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	・ 使役動詞を用いた文 ・ カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する	小テスト		振返シート
	2	Lesson 10 Fighting Angel	・ 分詞構文を用いた文 ・ 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する	小テスト		振返シート
	3	Reading 2 Bear's Pie	・ 登場人物の気持ちを考えながら朗読劇を演じて発表する	小テスト 定期考査	パフォ課題 定期考査	プリント

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・ 授業中の活動に英語を使う際の失敗を恐れずに積極的に取り組むこと。
- ・ 授業内容や英単語など復習する習慣をつけること。

2025年度 外国語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
論理・表現 I	2	総合	2	一斉授業 (TT)

1. 学習の目標

日常的な話題や社会的な話題について、多くの支援を活用し基本的な英語の語句や文を用いて、他者とのやり取りや発表等で自分の考えや気持ちを伝えたり、文章を書いたりすることができるようになる。

2. 使用教材

主たる教材	MY WAY Logic and Expression I
副教材	英文法教室 (1年次で購入済み)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、コミュニケーション活動等）、授業プリント及び振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 基本的な外国語の音声や語彙、表現、文法などについて理解を深めている。また、外国語について獲得した知識を話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの三領域で実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けている。	・ 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う場面や目的、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、論理的で適切な英語で話したり書いたりして情報や考え等を表現したり伝えあったりしている。	・ 獲得した知識及び技能を積極的に活用し、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いたコミュニケーション等の言語活動を行おうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	L1 Let's Talk about Ourselves	・現在形(be 動詞・一般動詞)を使って、自己紹介のスピーチをする	小テスト	スピーチ	振返シート
	5	L2 School Life	・過去形、現在進行形を使って、学校生活についての会話をする	小テスト 定期考査	やり取り 定期考査	振返シート
	6	L3 The Arts	・未来表現を使って週末の予定に関する会話をする	小テスト	スピーチ	振返シート
	7	L4 Food and Culture	・現在完了形を使って、食に関する表現を学びレポートにまとめる	小テスト 定期考査	レポート 定期考査	振返シート
2	9	L5 Welcome to Our Town	・助動詞・受動態を使って、道案内、地域の特徴等について発表する	小テスト	スピーチ	振返シート
	10	L6 Traveling Abroad	・不定詞を使って、海外の文化について触れ会話する	小テスト 定期考査	レポート 定期考査	振返シート
	11	L7 Sports	・動名詞・分詞を使って、スポーツについて話し、特色のある競技を発表する	小テスト	スピーチ	振返シート
	12	L8 Everyday Technology	・比較表現を使って、科学技術製品についてのやり取りをする	小テスト 定期考査	レポート 定期考査	振返シート
3	1	L 9 Take Care	・関係代名詞を使って、病院での会話を学び、健康についての発表を行う	小テスト	スピーチ	振返シート
	2	L 10 SDGs — Take Action!	・関係副詞・仮定法を使って、SDGsについての会話・発表を行う	小テスト 定期考査	レポート 定期考査	振返シート
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

この授業では「英語を使う」ことに焦点を当てて授業を行います。間違いを恐れずに英語を話す、書く活動に取り組んでください。また、各単元ごとの文法の内容に関しては、復習する習慣を身に付けてください。

2025年度 外国語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
英語コミュニケーションⅢ	4	総合学科	3	系列一斉

1. 学習の目標

日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 - 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 - 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 - 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

2. 使用教材

主たる教材	All Aboard! English Communication III (C II 701)
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、コミュニケーション活動等）、授業プリント及び振り返りシートから、以下の3観点で評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	基本的な外国語の音声や語彙や表現、文法などについて理解を深めている。また、外国語について獲得した知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能5領域の視点から実際のコミュニケーションにおいて、目的、場面や状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題についての知識及び技能を一定の支援を活用して外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあっている。	獲得した知識及び技能を積極的に活用し、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	Lesson 1 Gifts to Barcelona	・ガウディが設計した建築物の概念や特徴と、バルセロナにおける、その意味について学習する。	小テスト		振返シート
	5	Lesson 2 <i>Akkamui</i>	[言語材料] to不定詞／動名詞 ・北海道の野生動物観察ツアーガイドの説明を通して、エゾモモンガやアイヌの人々について学習する。 [言語材料] 現在完了形	小テスト 定期考査	 バフォ課題 定期考査	振返シート 授業プリント
	6	Lesson 3 Your True Colors	・衣服の働きと自己表現としてのファッションについて学習する。 [言語材料] 使役動詞	小テスト		振返シート
	7	Lesson 4 Our Future Food?	・コオロギを使用する昆虫食についての対話を通して、食糧問題について学習する。 [言語材料] 受け身	小テスト 定期考査	 バフォ課題 定期考査	振返シート 授業プリント
2	9	Lesson 5 Madagascar	・マダガスカル の自然と人々の生活を通して、地球環境や生態系について考える。 [言語材料] 関係代名詞	小テスト		振返シート
	10	Lesson 6 The Mystery of the Terracotta Warriors	・古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑について学習する。 [言語材料] 関係代名詞 (who, which) の非制限用法	小テスト 定期考査	 バフォ課題 定期考査	振返シート 授業プリント
	11	Lesson 7 Green Challenges	・地球温暖化と再生可能エネルギーについての発表を通して、エネルギー問題とその解決策について学習する。 [言語材料] 比較表現	小テスト		振返シート
	12	Lesson 8 Witnesses of War	・原爆投下により被爆した広島 の路面電車とその運転士だった女子生徒の経験を通して、平和の大切さについて考える。 [言語材料] 名詞を後ろから説明する分詞	小テスト 定期考査	 バフォ課題 定期考査	振返シート 授業プリント
3	1	Lesson 9 The Wonders of Lightning	・海外の高校生に向けたオンラインでの発表を通して、雷の発生のしくみや避難方法、地球温暖化との関係などについて学習する。 [言語材料] 仮定法過去	小テスト		振返シート
	2	Lesson 10 Katherine' s Long Journey	・人種差別の壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者、キャサリン・ジョンソンと差別の問題について学習する。 [言語材料] 関係代名詞whose	小テスト 定期考査	 バフォ課題 定期考査	振返シート 授業プリント

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

- ・読む、聞く、書く、話す力を伸ばしていく活動をしていくため、積極的な取り組みを求めます。
- ・日々の授業の復習を中心に、学習習慣をつけてください。

2025年度 外国語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
実用英語	3	総合学科	3	一斉

1. 学習の目標

日常的な話題や社会的な話題について、支援を活用しながら実際に英語を活用する中で既習の語彙や文構造、文法事項などの学習項目を繰り返し読んだり、聞いたりすることを通して、自分の考えや気持ちを伝える表現を学ぶ。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成教材
副教材	SWの王道 大学入試4技能試験対応基礎力養成コア表現トレーニング（旺文社） Watching Joyful（浜島書店）

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、コミュニケーション活動等）、授業プリント及び振り返りシートで評価する。	
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	基本的な外国語の音声や語彙、表現、文法などについて理解を深めている。また、外国語について獲得した知識を話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの三領域で実際のコミュニケーションで活用できる技能を繰り返しアウトプットすることで身に付けている。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う場面や目的、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、適切な英語で話したり書いたりして情報や自分の考え等を表現したり伝えあったりしている。	獲得した知識及び技能を積極的に活用し、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いたコミュニケーション等の言語活動を行おうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	イラスト描写 ・人の動作 ・行動	・現在進行形や未来表現を用いて、イラストに表す表現を学習する。 ・自己表現活動で理解を深める。	小テスト	パフォ課題	振返シート
				小テスト	パフォ課題	振返シート
	5			定期考査	定期考査	授業プリント
	6	自分のことを述べる ・好きなもの ・趣味	・不定詞や過去形などを用いて、自分のことを述べる表現を学習する。 ・自己表現活動で理解を深める。	小テスト	パフォ課題	振返シート
				小テスト	パフォ課題	振返シート
	7			定期考査	定期考査	授業プリント
2	9	質問・応答する ・相手のこと ・問い合わせる	・助動詞などを用いて、相手に対して質問したり、相手の質問に答えたりする表現を学習する。 ・場面設定の中でのコミュニケーション活動で理解を深める。	小テスト	パフォ課題	振返シート
				小テスト	パフォ課題	振返シート
	10			定期考査	定期考査	授業プリント
	11	意見を述べる ・賛否を表す ・すべきこと	・接続詞や適切な形容詞を用いて、意見を正しく伝えられる表現を学習する。 ・自己表現活動で理解を深める。	小テスト	パフォ課題	振返シート
				小テスト	パフォ課題	振返シート
	12			定期考査	定期考査	授業プリント
3	1	情報を読み取る ・グラフ ・情報の引用 ・人の意見	・グラフや情報を適切に読み取り、説明する際の表現について学習する。 ・自己表現活動で理解を深める。	小テスト	パフォ課題	振返シート
	2			小テスト	パフォ課題	振返シート
	3			定期考査	定期考査	授業プリント

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・これまで学習してきた英語の知識を活用することを目標に授業をします。
- ・積極的に英語を使おうとする姿勢と間違いを恐れずに取り組む姿勢を持ってください。

2025年度 外国語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
カレントイングリッシュ	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

- ・国内外の時事問題、様々な国の文化や風習に関する文章を読んだり、聞いたり、調べたりして異文化を理解する。
- ・また聞いたり読んだり、調べたりした情報を、英語を使い表現できる力をつける。

2. 使用教材

主たる教材	Watching World
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		小テスト、取り組み姿勢、発表及び振り返りシートから、以下の3観点で評価する。		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	基本的な外国語の音声や語彙だけでなく、表現、文法などについて理解を深めている。また、外国語について獲得した知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能5領域の視点から目的に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題についての知識及び技能を一定の支援を活用して外国語で情報や考えなどの概要や要点を的確に理解したり、適切に表現したり伝えている。	獲得した知識及び技能を積極的に活用し、外国語の背景にある文化、習慣に対する理解を深めている。また、主体的、自律的にさまざまな国や自国について調べそれを外国語を用いて表現しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	Food Culture in China	教材を通して、中国の食文化について学習する。学習したことを参考にして、日本や世界中の食文化を調べ英文でまとめ発表する。【言語材料】 受動態	小テスト		振返シート
	5	Multiethnic Singapore	他民族のシンガポールについて学ぶ。シンガポールについて調べて英文でまとめ発表する。【言語材料】 現在完了(継続)	小テスト	バフォ課題	振返シート
	6	Unique Australian English	移民の多いオーストラリアで使用されている英語について学習する。世界中で使用されている言語について調べまとめる。【言語材料】 不定詞(副詞的用法)	定期考査	定期考査	授業プリント
	7	The Ganges	インドのガンジス川を通してインドの一面を学習する。さらに、インドについて調べまとめる。【言語材料】 過去分詞の形容詞的用法	小テスト		振返シート
				小テスト	バフォ課題	振返シート
2	9	Turkish Cuisine	世界3大料理であるトルコ料理について学習する。世界中の料理について調べ発表する。【言語材料】 接続詞if	定期考査	定期考査	授業プリント
	10	Ramadan	イスラム教のラマダンについて学習する。【言語材料】 比較級	小テスト		振返シート
	11	Kenya, Learning Mobile Money Country	モバイルマネーの先進国であるケニアについて学習する。世界のモバイル事情について調べてまとめる。【言語材料】 前置詞	定期考査	定期考査	授業プリント
	12	British Boarding Schools	イギリスの寄宿学校について学習する。世界の学生生活について調べる。【言語材料】 知覚動詞	小テスト		振返シート
				定期考査	バフォ課題	振返シート
3	1	Japanese Immigrants to Brazil	ブラジルの日本人移民について学習する。【言語材料】 不定詞表現	定期考査	定期考査	授業プリント
	2	日本について話す	さまざまな国の文化、宗教、歴史を学習した中でテーマを選び日本について自由に書く。	小テスト		振返シート
	3			定期考査	バフォ課題	振返シート

5. 担当者からのメッセージ (学習方法など)

さまざまな国の文化や習慣を読むことによって異文化を理解し、さらに興味があることについて調べ、まとめます。そして、概要や要点を聞き手にわかりやすく発表する力をつけます。

2025年度 家庭科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
家庭基礎	2	総合学科	2	一括授業

1. 学習の目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な知識、それらに係る技能を身に付ける。

2. 使用教材

主たる教材	東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造
副教材	家庭基礎 学習ノート

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、実技テスト、課題（ワークシート、レポート）、学習ノート、 ふり返しシート、授業中の様子		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・生涯を見通して家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	第1章 生涯を見通す	・ライフステージの特徴と課題を理解する。	定期考査		ふり返しシート
	5	第2章 人生をつくる	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考える。		学習ノート	授業中の様子
	6	第3章 子どもと共に育つ	・子どもが持っている能力や心身の発達、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深める体験を積む。	定期考査 実技テスト	課題	ふり返しシート 授業中の様子
	7	第4章 超高齢社会を共に生きる	・高齢期を支える社会の仕組みや課題を考える。	定期考査		ふり返しシート
2	9 10	第5章 共に生き、共に支える	・多様性の尊重される社会に向けて、学校家庭クラブ活動に取り組む。		課題制作物	授業中の様子
	11	第6章 食生活をつくる	・健康によい、栄養バランスのよい食事について、多面的な視点（食事の役割、5大栄養素、献立等）から理解する。	定期考査	学習ノート	ふり返しシート
	12	第10章 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会の構築に向けて、ホームプロジェクト（大量生産、大量消費型のライフスタイルの改善）に取り組む。		課題	授業中の様子
3	1	第8章 住生活をつくる	・住居の機能やライフステージごとの住要求を知る。 ・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深める。	定期考査		ふり返しシート
		第9章 経済生活を営む	・自立した責任ある消費者として、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について知る。	定期考査	学習ノート	ふり返しシート
	2	第7章 衣生活をつくる	・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身に付ける。	実技テスト		授業中の様子
	3	第11章 これからの生活を創造する	・各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計をする。	定期考査	課題	

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

「自分で考える」、「他者と話し合う」などの学習活動を通して、課題に気づいたり、見直したりして、自分・家庭生活・社会をよりよくしていきましょう。

2025年度 情報科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
情報 I	2	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。

2. 使用教材

使用教科書	「最新情報 I」 (実教出版)
副教材	「最新情報 I 学習ノート」

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		下記の(1)～(4)の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価し、各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み (2)ノートの記載内容 (3)定期考査 (4)実習課題の内容		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	・ 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	・ 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	情報社会 情報社会の法規と権利	・情報社会の現状について理解する。 ・情報の特性について理解する。 ・知的財産権について理解する。 ・他人の著作物を適切に利用したり自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解しそれらを保護する方法を身に付ける。			
	5	情報技術が築く新しい社会	・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。	中間考査	中間考査	ノート
	6	メディアとコミュニケーション	・メディアには種類があることを理解しメディアの発達について知る。 ・メディアの特性について理解し目的に応じたメディアを選択することができる ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。			
	7	情報デザイン	・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。	期末考査	期末考査 パフォ 課題	ノート パフォ 課題
2	9	情報のデジタル化	・コンピューターの仕組みについて理解する。 ・アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・音声、画像、動画のデジタル化の過程を理解する。 ・表計算ソフトを用いて、データの分析方法を理解する。		パフォ 課題	パフォ 課題
	10	問題解決		中間考査	中間考査	ノート
	11	データの活用			パフォ 課題	パフォ 課題
	12	プログラミングの方法	・変数を使用したプログラムを作成する ・関数を使用したプログラムを作成する	期末考査	期末考査	ノート
3	1	情報通信ネットワーク	・ネットワークの仕組みについて理解する。 ・情報に対する安全対策や情報のセキュリティ方法について理解する。 ・プレゼンテーションの方法やスライド資料の作成方法について理解する。		パフォ 課題	
	2	情報セキュリティ				
	3	プレゼンテーション		学年末考査	学年末考査	パフォ 課題 ノート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

毎時間学習に集中して取り組み、実習課題で確実に点数を取る。
毎時間の課題を確実に取り組み、定期考査毎のノート提出を必ず行う。

2025年度 情報 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
情報処理基礎	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

ワードプロセッサソフト、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション用ソフトウェアの操作を習得し、学年末の発表に向けた技術力の向上を目指す。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成教材
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		参加態度、提出作品、発表態度、発表内容、レポート、実技テストなどを総合的に判断し評価する。		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	パソコンの基本操作をはじめ、文書の作成や表、グラフの作り方、プレゼン資料の作成方法などの基本的な操作方法が身についている。	基本操作をもとに、与えられた課題に対して、第三者がわかりやすかつ見やすく自分なりにレイアウト等を調整することができる。 発表等で自分の意見や考えを話すことができる。	学習したものをを用いて、ポスターの作成や、与えられたデータをもとに表やグラフにまとめること、プレゼンテーション発表のためのスライド資料の作成ができる。 生徒間同士で、作品の他者評価をすることができる。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	パソコン入力 ワードプロセッサ ソフトウェア基本	ワードプロセッサソフトウェアを利用したパソコン操作とワードプロセッサソフトウェアの基本操作の習得する	課題 実技テ スト	課題	提出課 題
	5					
	6	ワードプロセッサ ソフトウェア応用	ワードプロセッサソフトウェアの操 作を理解した上で、各自テーマに沿った ポスターを作成する	課題	課題	提出作 品 他者評 価 自己評 価
2	7					
	9	表計算ソフトウェア 基本	表計算ソフトウェアの基本操作と、各 種機能の利用方法を学ぶ	課題 実技テ スト	課題	提出課 題
	10					
2	11	表計算ソフトウェア 応用	表計算ソフトウェアの基本操作を理解 したうえで、与えられたデータを表やグ ラフにまとめる	課題	課題	提出作 品 他者評 価 自己評 価
	12	プレゼンテーション 用ソフトウェア入門	プレゼンテーション用ソフトウェアの 操作手順を学ぶ。	課題	課題	提出課 題
3	1	プレゼンテーション 用ソフトウェア応用	プレゼンテーション用ソフトウェアの 基本操作を理解したうえで、各自考えた テーマをもとに発表用のスライドを作成 する	課題	課題	課題提 出 発表 他者評 価 自己評 価

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

将来、必要なパソコンスキルを学ぶため、基本となるローマ字入力やパソコン操作などは理解したうえで取り組んでもらいたい。また、適宜自らテーマを考え実習を行うので様々な分野に興味・関心を持ってもらいたい。

2025年度 産業社会と人間（セラミック）

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
産業社会と人間	2	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

- ・日本六古窯（信楽・備前・常滑・越前・瀬戸・丹波）の一つでもある信楽焼の伝統・歴史を学ぶ。（制作方法・信楽焼の発展・信楽の産業）を学び、陶芸知識を習得する。
- ・信楽焼を通じて焼き物の歴史を学ぶ。（縄文土器から現在陶芸まで）歴史を知ること、日本における焼き物の価値を知る。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		毎授業時間後半に小テスト実施（知識・技能）プリントを使い、陶磁器のデザイン画制作（思考・判断）振り返りシートで評価する（主体的に学習に取り組む態度）。	
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・信楽焼に関する専門知識（陶磁器の歴史・成形方法・信楽焼の発展・陶磁器に関わる専門知識）を幅広く理解を深めるとともに、観察力・伝統技術の基礎知識を理解するとともに身に付けること。	・信楽焼に関する専門的な知識・技能（陶磁器の歴史・成形方法・信楽焼の発展・陶磁器に関わる専門知識）を総合的に働かせ、感覚を意識し、必要な課題を見いだすとともに創造力を養う。他にはないアイデアを考える知識を身に付けること。	・信楽焼の特性を周知し、工程において、手順を踏まえ丁寧に主体的に取り組もうとしている。 ・振り返りシートを使い、理解を深めて取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	信楽焼について	・他の産地の焼き物と信楽焼きの違いについて理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
		日本六古窯について 陶芸の歴史	・信楽焼の理解を深める。(信楽焼の歴史)			
	5	縄文・弥生時代 奈良・平安時代	・縄文時代の縄文土器について理解する。 ・弥生時代の弥生土器について理解する。 ・中国からの伝来により日本の影響について理解する。			
	6	室町時代について 鎌倉時代について	・炆器について理解する。 ・窯の構築について理解する。 (穴窯・登り窯)			
		安土桃山時代について	・茶道の普及について理解する。			
	7	茶道の作法について	・茶道の作法について道具の名称について理解する。	定期考査		
2	9	茶道体験学習 明治時代について	・信楽の茶人を招いて、体験学習を行う。 ・明治の作家による作品紹介を行う。 ・産業に陶磁器の発展を理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
		大正時代について	・窯の進化、大量生産品について理解する。			
	10	昭和について 現代陶芸について	・展覧会や陶芸家について理解する。 ・現代陶芸の魅力について理解する。			
	11	地元で体験学習	・県立陶芸の森にて、体験学習を行う。			
		釉薬について	・釉薬の基礎知識を学ぶ。 (透明釉)			
	12	窯について	・野焼きから電気窯までの発展を理解する。	定期考査		
3	1	信楽散策路について 地元散策 企業見学	・信楽焼について散策や直接見学を行い、学習する。 ・信楽工業組合（株）企業見学を実施する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
	2	粘土について 企業見学	・粘土が出来上がる工程を理解する。 ・近江化学陶器株式会社企業見学を実施する。			
	3	陶芸成形について	・乾式・湿式製造を理解する。 ・手ひねり・タタラ・ろくろ成形を理解する。			

5. 担当者からのメッセージ(学習方法など)

信楽の魅力とともに陶磁器の基礎知識を学ぶ。
プリント作業を丁寧に工夫して行うこと。

2025年度 産業社会と人間（デザイン）

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
産業社会と人間	2	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

- ・自己の進路実現に資する有効な系列を選択することができるように、本校の各系列について正しく理解する。
- ・その中でもデザイン系列についての理解を深める。特に色彩の理論を学ぶ。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材
副教材	カラーカード

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		プリント（作業ノート）、小テスト（筆記）、実技作業、実技テスト、プレゼンテーション、振り返りシート		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・色彩に関する基礎知識・専門知識について幅広く理解を深めている。 ・学んだ色彩論を作品に生かすために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	・色彩間の色の影響や、表現の意図と創造的な工夫、色彩の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、色彩に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・色彩による表現に関わり、主体的に色彩の効果を使おうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	系列説明	・ 3つの系列について説明を受ける。			振り返りシート
	5	著作権・知的財産権について 色と視覚	・ 著作権や知的財産権、肖像権等について学ぶ。 ・ 光がなければ物は見えない、という光と色の関係を知る。	小テスト	プリント	
	6		・ 目の仕組みを学ぶ。	小テスト	プリント	
		加法混色	・ 光の三原色や加法混色について知る。	小テスト	プリント	
	7	減法混色	・ 色の三原色、印刷技術、減法混色等について知る。	小テスト	プリント 実技作業	
		期末考査		定期考査	定期考査	
2	9	色相環	・ カラーカードを使って色相環を作る。 ・ 色相環から色の仕組みを学ぶ。		プリント 実技作業	
	10	明度と彩度	・ 明度と彩度について知る。 ・ カラーカードを使った演習。	小テスト	プリント 実技作業	
	11	色の心理効果	・ 色の違いによる「重い・軽い」「近い・遠い」等を色の効果について学ぶ。	小テスト	プリント 実技作業	
	12	色の連想	・ コーポレートアイデンティティ等、色の連想について学ぶ。		プリント	プレゼンテーション
		期末考査		定期考査	定期考査	
3	1	色の対比	・ 2色を並べたときの効果について学ぶ。	小テスト	プリント 実技作業	プレゼンテーション
	2	色名	・ 慣用色名、伝統色名等から色名を知る。	小テスト	プリント 実技作業	振り返りシート
	3					
		学年末考査		定期考査	定期考査	

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

色彩の基礎知識を学習する。また、カラーカードを使っての作業を行うので、ハサミ等の道具も忘れないようにすること。毎時間配付するプリントを丁寧に仕上げて毎回しっかりと提出すること。

2025年度 美術科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
素 描	4	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

対象と向き合い立体的に表現する実習をととして、以下の4点を理解し身に付けることを目標とする。

- ①対象の立体的な特徴を描写することができる
- ②それを捉える観察と空間表現ができる
- ③発見した事柄をどのように表現したらいいか思考・整理することができる
- ④新鮮な気持ちで対象と向き合うことができる

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品 プリント パフォーマンス課題 振り返りシート		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 構図や色彩などが感情に及ぼす効果や形や質感・量感などの造形的な特徴に着目し、これらを基に全体のイメージや作風を捉えることを理解している。 ・ 目的や意図に合わせて材料の特性や効果を最大限に生かし、独自の表現方法を工夫している。 ・ 線や形状、影の効果などを通じて主題を深く追求し、デッサンの中で創造的に表現している。	・ 形体や色彩、構成や質感などに対して綿密な考察を行い、これらの要素を組み合わせる創造的なデッサンの構想を練り上げている。 ・ 自身の内面から湧き上がる情報を形にし、独自の表現を創造している。 ・ 造形的な美しさや魅力を感じ取り、作者の心情や意図、そして創造的な表現の工夫について考察し、これらの要素を通じて視覚的な情報伝達を深め、追求している。	・ 自己の内面を探り、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に主体的に取り組もうとしている。 ・ 線の質感や形状、影の使い方などを通じて、デッサンが持つ美的な要素に焦点を当て、造形的な魅力や美しさを感じ取り、作者が表現したい作品の特徴や美点について熟考し、鑑賞の創造活動に自ら積極的に取り組もうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	オリエンテーション	道具および表現材料について 観察の方法、表現へのアプローチ	プリント	プリント	振り返りシート
	5	幾何形体の観察 ①～④ 幾何形体の構築 ①～④ 幾何形体の描写 ①～④	構造の理解と表現材料について（講義） 描写形態制作（立体構成） 立体構成形態の描写（デッサン） ・陰影のとらえ方とその観察の仕方 ・構図のとり方、プロポーションのとり方 ・明暗のバランスと立体感 ・構図の吟味と計画 ・プロポーションの修正 ・光の方向性と明暗のバランス ・細部への書き込みと完成へのアプローチ	プリント 課題作品	プリント	振り返りシート
	6					
	7	人物の観察と描写 ①～④	身体構造の理解と表現材料について（講義） 人物の描写（スケッチ、クロッキー） ・プロポーションのとり方 ・躍動感の捉え方 ・細部への書き込みと完成へのアプローチ	プリント 課題作品	パフォー マンス課 題(レポ ート)	振り返りシート
2	9	鑑賞と模写①	絵画作品の鑑賞 主題および技法について（講義） 模写（鉛筆、水彩など）	プリント	プリント	振り返りシート
	10	幾何形体を含んだ静物デッサン①～④	構造の理解と表現材料について（講義） 描写形態制作（立体構成） 立体構成形態の描写（デッサン） ・陰影のとらえ方とその観察の仕方 ・構図のとり方、プロポーションのとり方 ・明暗のバランスと立体感 ・構図の吟味と計画 ・プロポーションの修正 ・光の方向性と明暗のバランス ・材質感と空間感 ・細部への書き込みと完成へのアプローチ	プリント 課題作品	プリント	振り返りシート
	11	静物画の着彩表現		課題作品	プリント	振り返りシート
	12	作品の合評会			パフォー マンス課 題(発表)	振り返りシート
3	1	イーゼルを立て、 囲みデッサン 作品の合評会	構造の理解と表現材料について（講義） 立体構成形態の描写（デッサン） ・陰影のとらえ方とその観察の仕方 ・構図のとり方、プロポーションのとり方 ・明暗のバランスと立体感 ・構図の吟味と計画 ・プロポーションの修正 ・光の方向性と明暗のバランス ・材質感と空間感 ・細部への書き込みと完成へのアプローチ	プリント 課題作品	プリント パフォー マンス課 題(発表)	振り返りシート 振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

描画用具（鉛筆4B 2B HB 2H）消しゴム カッターナイフ のり、着彩用具を使用してデッサンを中心とした作品制作をします。構図や形、明暗といった作品制作の基礎を学習します。

2025年度 教科 日本語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
実用日本語 I	2	総合学科	2	自由選択者一斉授業

1. 学習の目標

- ・日本で生活していくのに必要な日本語基礎力を身に付ける。また、日常生活だけでなく、高等学校の学習に対しても対応できる日本語の力をつける。
- ・日本語能力試験及び作文や面接、漢字検定にも対応できる力をつける。

2. 使用教材

主たる教材	自主制作プリント
副教材	「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」(大修館書店)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		普段の授業の取り組みや 学期ごとの発表会など総合的に判断する		
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・語句調べをして、語彙を豊かにしている。 ・目標を決めて、漢字の読み書きの力を高めている。 ・高等学校の学習に必要な言葉を理解しようと努めている。	・自分の考えや思いを、学んだ日本語や正しい表現で説明しようとしている。 ・読み手や聞き手に伝わるように工夫している。	・場面に応じた語彙・表現があることを理解し、それぞれの場面にふさわしい日本語の力を伸ばそうと積極的に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	聞き取り	・やさしい日本語のニュースを聞き、語句や表現を学ぶ。漢字や意味が分かるようにする。	小テスト		観察 振り返り
	5	漢字検定	・個々に目標を設定し、漢字検定（10月か2月）に向けて学習を行う。	小テスト		
	6	日本語能力試験	・個々に目標を設定し、日本語能力試験（7月か12月）に向けて学習を行う。	小テスト		
	7	文学 表現	・日本の昔話や有名な文学作品に触れ、音読をする。 ・「自分自身の紹介」ができるようになる。発表を行う。		発表 原稿内容 発表	観察 振り返り
2	9	聞き取り	・やさしい日本語のニュースを聞き、語句や表現を学ぶ。漢字や意味が分かるようにする。	小テスト		観察 振り返り
	10	漢字検定	・個々に目標を設定し、漢字検定（2月か次年度）に向けて学習を行う。	小テスト		
	11	日本語能力試験	・個々に目標を設定し、日本語能力試験（12月）に向けて学習を行う。	小テスト		
	12	文学 表現	・日本の昔話や有名な文学作品に触れ、音読を通して表現や語彙の力を伸ばす。 ・オノマトペの表現を理解し、身近に使えるようになる。 ・母国・母語も大切にするために、テーマを決めて日本（語）と比較し、発表を行う。		発表 原稿内容 発表	観察 振り返り 観察 振り返り 観察 振り返り
3	1	聞き取り	・やさしい日本語のニュースを聞き、語句や表現を学ぶ。漢字や意味が分かるようにする。	小テスト		観察 振り返り
	2	漢字検定	・個々に目標を設定し、漢字検定（2月か次年度）に向けて学習を行う。	小テスト		
	3	日本語能力試験	・個々に目標を設定し、日本語能力試験に向けて学習を行う。最終の目標はN2。	小テスト		
		文学 表現	・日本の昔話や有名な文学作品に触れ、音読を通して表現や語彙の力を伸ばす。 ・オノマトペの表現を理解し、身近に使えるようになる。 ・2学期に行った発表を振り返り、母国・母語についてさらに詳しく発表を行う。	小テスト	発表 原稿内容 発表	観察 振り返り 観察 振り返り 観察 振り返り

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

毎時間「今日は～がわかりました。」で終われるようにしましょう。
検定や発表に積極的にチャレンジして、自信をつけましょう。

2025年度 教科 日本語 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
実用日本語Ⅱ	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

- ・日本で進学、就労、生活していく上で必要な日本語力を身に付ける。また、高等学校の学習に対しても対応できる日本語の力をつける。
- ・情報の把握、意思伝達において日本語でスムーズに行えるように場面を想定しながら力をつける。
- ・日本語能力試験及び作文や面接、漢字検定にも対応できる力をつける。

2. 使用教材

主たる教材	自主制作プリント
副教材	「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」(大修館書店)

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		普段の授業の取り組みや 学期ごとの発表会など総合的に判断する		
観 点	a：知識・技能		b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・語句や表現について調べ、語彙を豊かにし、活用している。 ・個々に目標を決めて、漢字の読み書きの力を高めている。 ・学習に必要な言葉の理解に加えて、社会にあふれている言葉についても理解しようと努めている。		・意思伝達や情報把握において、学んだ日本語や正しい表現で活用している。 ・読み手や聞き手に、より正しく伝わるように工夫している。 (・母国語での表現も併せて考えられる。)	・自分に足りない力や間違っただけのまま使っていた表現などに向き合い、より深く学ぼうとしている。 ・場面に応じた語彙・表現があることを理解し、それぞれの場面にふさわしい日本語の力を伸ばそうと自ら進んで発言したりコミュニケーションを取ろうとしたり積極的な取り組みができる。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	聞き取り	・日本語のニュースを聞き、語句や表現を学ぶ。漢字や意味が分かるようにする。文化や出来事にふれ、理解する。 ・個々に目標を設定し、漢字検定にチャレンジする（7月か10月） ・学校での学習や日常で必須となる漢字の学習に取り組む。 ・個々に目標を設定し、日本語能力試験（7月か12月）に向けて学習を行う。 ・敬語表現を理解し、使えるようにする。就職や進学面接を想定した受け答えの実践を行う。 ・自己アピールや自分を知ってもらうための発表を行う。	小テスト	原稿内容	観察 振り返り
	5	漢字				観察
	6	日本語能力試験		小テスト		観察
	7	表現			発表 原稿内容	観察 振り返り
2	9	聞き取り	・日本語のニュースを聞き、語句や表現を学ぶ。漢字や意味が分かるようにする。文化や出来事にふれ、理解する。 ・個々に目標を設定し、漢字検定にチャレンジする（10月か2月） ・学校での学習や日常で必須となる漢字の学習に取り組む。 ・個々に目標を設定し、日本語能力試験（12月）に向けて学習を行う。 ・敬語表現やオノマトペの表現を理解し、身近に使えるようになる。 ・学習してきたことで興味を持ったことやより深く調べたいことなどテーマを決めて、調べ学習を行い発表を行う。	小テスト	原稿内容	観察 振り返り
	10	漢字				観察
	11	日本語能力試験		小テスト		観察
	12	表現			発表 原稿内容	観察 振り返り
3	1	聞き取り	・日本語のニュースを聞き、語句や表現を学ぶ。漢字や意味が分かるようにする。文化や出来事にふれ、理解する。 ・漢字検定を見据えた学習に加えて、多くの漢字の読み書きに取り組む。 ・社会で求められる日本語の力をより高める。 ・学習してきた日本語の定着をはかるため、テーマに沿った文章を書けるようにする。	小テスト	原稿内容	観察 振り返り
	2	漢字				観察
	3	日本語能力試験				観察
		表現		原稿内容	原稿内容	観察 振り返り

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

毎時間の積み重ねが大切です。「なるほど」と思ったことを実生活にいかしていきましょう。実用日本語Ⅰと同様、検定や発表に積極的に取り組み、自信をつけましょう。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
製図	2	総合学科	2	T・T

1. 学習の目標

図学と製図の基礎的な知識を学び、立体を平面上に表示する力、平面上に表示された図から立体を把握する能力を養う。また、立体を紙模型として表現する際の、展開図の書き方を学ぶ。

2. 使用教材

主たる教材	デザイン製図（工業731）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		確認テストで、学んだ知識を習得できているかをはかり、課題作品の出来栄で技能・表現を評価する。毎時間の振り返りシートおよび課題への取り組み状況により、主体的に学習に取り組む態度を評価する。	
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・ J I Sによる製図の規約を理解している。 ・ 投影図法により、立体を平面上に表示する力、平面上に表示された図から立体を把握する能力を身につけている。 ・ 線を正しくきれいに描ける能力を身につけている。	・ 立体を平面上に表示する力、平面上に表示された図から立体を把握する能力を身に付けている。 ・ 図面を正しく読み取ることができる。	・ 製図について関心を持ち、授業に対して意欲的に取り組もうとしている。また、課題に対して主体的に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	立体図法Ⅰ ・正投影図	投影法の理解	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	5	製図の規約	規約を学びながら、製図の描き方	プリント	作品制作	振り返り
	6	・製図の条件		期末考査		シート
	7	・尺度および線と文字 ・補助となる図法 ・寸法				
2	9	線の練習	線種の書き分け ・実線、破線、一点鎖線、二点鎖線	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	10	立体図法Ⅱ	複雑な形態の正投影図を読み取る	プリント	作品制作	振り返り
	11	・正投影図の応用		作品制作		シート
	12	模写	模写 ・腰掛（部品図）	作品制作	作品制作	振り返り シート
3	1	製図の応用	製図 ・本箱（組立図）	作品制作	作品制作	振り返り シート
	2		・部屋の平面図	作品制作	作品制作	振り返り シート
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

落ち着いて集中して作業をしないと、線が乱れてしまいます。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
課題研究（型おこし）	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

製品の制作。石こう型について学ぶ。箸置き・マグネット陶器などの記念品を大量生産する。企業と自治体と連携し、制作した陶磁器を地域に還元する。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品、学習プリント、パフォーマンス課題、振り返りシート		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	- 型おこし成形において、原型制作の適切な方法を理解している。 - 型おこし成形による効果的な大量生産への手法の技術を身につけている。	陶器などの材料の特性やそれらの道具の使い方について理解を深め、この知識から適切な作業手順や表現方法で表現できている。	粘土の特性を周知し、型おこし成形の工程において、手順を踏まえ丁寧に主体的に取り組もうとしている。機械の安全な取り扱いを理解し、適切に道具を扱い、取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	3D石こう型プリンターを学ぶ 企業見学	・信楽窯業試験場にて3Dプリンターの講習を受ける。 ・くるみ作業所に見学し、型おこし成形を学ぶ。	作品課題	プリント プリント	振り返りシート
	5	3Dプリンターを活用し型成形	・デザインしたマグネットを3Dプリンターで型を制作し、マグネットを大量生産する。	原型課題 作品課題	プリント	振り返りシート
	6	型おこし成形 交通安全マグネット制作	・甲賀市内に交通安全マグネット配布に向けて計画をたてる。	計画書課題	プリント	振り返りシート
	7	施釉 製品梱包	・交通安全マグネット素焼きに釉薬をかける。	施釉作業	プリント	振り返りシート
2	9	交通安全マグネット配布計画	・交通安全マグネット配布について、実施計画を制作する。	計画書課題	プリント	振り返りシート
	10	石こう制作	・石こうについて基礎知識を学ぶ ・オリジナル自画像像を制作、原型を制作する。 ・石こう型の制作。	作品課題	プリント	振り返りシート
	11	型おこし成形 施釉作業	・石こう型から自画像像を型からはずし5体成形する。	作品課題	プリント	振り返りシート
	12	施釉	・素焼した自画像像に釉薬をかける ・プレートを張り付けて完成させる。	施釉課題	プリント	振り返りシート
3	1	総合学科発表会準備	・総合学科発表会でのプレゼンテーションをまとめる。	パフォーマンス課題		

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

信楽町との連携を図り、陶器を通じて人との繋がりを学ぶことができます。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
課題研究（DXものづくり班）	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

- ・DXものづくりに必要な基礎知識やデジタルツール（グラフィックソフト、UVプリンタ、レーザー工機など）の操作技術を習得し、その活用を通して創造的なものづくりに挑戦する。
- ・総合学科発表会に向けて、デジタル技術を活用した制作過程を深く探究し、新たな視点や価値を見出すプレゼンテーションを構築する。
- ・デジタル技術の習得にとどまらず、自身の表現力や発想力を高め、次世代のものづくりに必要な柔軟な思考力と課題解決力を育む。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品 プリント パフォーマンス課題 振り返りシート		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・DXものづくりにおいてグラフィックソフト、デジタル工作機器（UVプリンタ、レーザー加工機等）の基本的な操作方法や設計手法を理解している。 ・デジタルツールを活用した製作工程において、材料や加工方法の特性を踏まえた技術的課題に対応する能力を身につけている。	・製作に必要な設計・加工のプロセスにおいて、学習した知識や技術を適切に活用し、設計意図に応じた判断と選択ができています。 ・使用するツールや材料の特性に応じて、具体的な製作手順を計画し、目的に合った形状や機能を実現するための創造的表現ができています。 ・デジタル技術を活用した制作物において、用途や意図を考慮したデザインやプレゼンテーションを的確に構成できている。	・DXものづくりにおける新たな技術や手法に積極的に関心を持ち、探究心を持って取り組んでいる。 ・仲間と協力しながら問題を解決し、デジタル技術の実践的活用に向けて自ら学びを深めようとする姿勢が見られる。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	導入・基礎学習	- 課題研究の目的やDXものづくりの意義を理解する - DXに関する基礎知識（グラフィックソフト、レーザー加工機等）の導入	プリント	プリント	振り返りシート
	5	デジタル設計の基礎	2D設計ソフト（CorelDRAWなど）の基本操作を習得		プリント	振り返りシート
	6	デジタル加工の基礎	- 簡単なデザイン課題に取り組む - レーザー加工機を用いて小作品を制作する - データ形式、素材の扱い、出力設定などを学ぶ	課題作品		振り返りシート
	7	基本課題	「名札、キーホルダー、スタンプ」など基本作品をテーマに制作する - 目的に応じた設計・加工を行う	プリント 課題作品	パフォーマンス課題(レポート)	振り返りシート
2	9	応用課題	- 複数素材（木材、アクリル、陶器等）の組み合わせによる複合作品の製作に取り組む - 問題点の発見と改善を意識した試作・調整	プリント 課題作品	プリント	振り返りシート
	10	卒業制作（構想・設計）	- 卒業制作に向けてテーマ設定、図面設計、素材選定を行う - 成果発表に向けた準備（発表資料・工程記録等）	プリント 図面・計画書	プリント	振り返りシート
	11	卒業制作（製作）	- 卒業制作本体の製作に取り組む - 展示・発表を見据えて完成度を高める	プリント 課題作品	プリント パフォーマンス課題(レポート)	振り返りシート
	12					
3	1	発表のまとめ	- 卒業制作の成果をスライドやポスターにまとめ、総合学科発表会で発表する - 作品とともに制作過程や工夫点を表現する	プリント	プリント パフォーマンス課題(発表)	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

デジタル技術を活用して、レーザー加工機や設計ソフトを用いた作品制作に取り組めます。同時に、DXものづくりに関する知識やデザイン・機能面での工夫についても学習します。総合学科発表会では、1年間の成果をプレゼンテーションしてもらいます。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
課題研究（ろくろ班）	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

- ・ 2年次に習得したろくろ成形技術を丁寧に復習し、その基盤を強化して、より複雑で独創的な作品の制作に取り組む。
- ・ 総合学科発表会に向けて、これまでの学びや制作過程を深く掘り下げ、新たな視点からのプレゼンテーションを構築する。
- ・ 単なる技術の継承だけでなく、自身の表現力や発想力を拡大させる。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品 プリント パフォーマンス課題 振り返りシート		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ろくろ成形において、粘土の性質や成形道具の取り扱い方、および電動ろくろを使用して器を成形する知識を理解している。 ・ろくろを使用した成形プロセスにおいて、粘土の特性や器形による成形への影響を考慮し、課題を解決する技術を身につけている。	・ろくろを使った成形プロセスにおいて、学習した知識や技術を的確に適用できている。 ・材料の特性や道具の使い方についての理解から、具体的な作業手順や成形方法を適切に判断できている。 ・作品のデザインや仕上げにおいて、感性や美的センスおよび用途に合った意匠が的確に表現されている。	・ろくろ成形において、粘土の性質や加工過程に関連する様々な事項に積極的に学び取り、これらの知識をろくろ成形の実践に主体的かつ協働的に活用しようと努めている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	基本技能の復習	- 粘土の調整・水挽き・削りなど、2年生での学習内容を復習する。 - 汲みだし・湯飲み・花器・皿などの基本形態の習得を目指す。	プリント	プリント	振り返りシート
	5			課題作品		
	6	基本課題		プリント	プリント	
	7			課題作品	パフォーマンス課題(レポート)	振り返りシート
2	9	応用課題	- 基本課題で取り組んだ形態の中から、2つを選び制作する。寸法・形・装飾を各自が考え、図面を作図してから制作を行う。 - テーマを各自で設定し、卒業制作を行う。習作展での展示、総合学科発表会を考慮した作品作りを意識する。 - テーマを各自で設定し、卒業制作を行う。習作展での展示、総合学科発表会を考慮した作品作りを意識する。	プリント	プリント	振り返りシート
	10	応用課題		課題作品		
	11	卒業制作		プリント	プリント	振り返りシート
	12			課題作品	パフォーマンス課題(レポート)	
3	1	発表のまとめ	本校の総合学科発表会でのプレゼンテーションをまとめる。	プリント	プリント	パフォーマンス課題(発表)

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

ろくろ成形を用いて食器などを制作します。同時に、ろくろ技術に関する知識や作品のデザインや意匠についても学習します。総合学科発表において1年間の学習の成果をプレゼンテーションしてもらいます。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
課題研究 (生活デザイン班)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

これまでに学んできた造形的表現の基本をふまえて、専門的な制作に取り組む。表現分野を生活デザイン・立体造形・コンピュータの3分野に分け、それぞれの表現特有の考え方や技法を身に付ける。また個々に課題目標を定め表現活動を提示する力（プレゼンテーション力）を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		プリント、課題作品、レポート、振り返りシートで評価する。	
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・生活で使用する製品の素材（紙、木材、布、陶器等）の特性を理解し、使用用途、デザインに合わせて使い分けることができる。	・素材の特性を理解した上で、その素材で制作できうるものを考え、個性を活かして創造的な表現の構想を練っている。	・より良い作品の完成を目指して、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	マグネット制作	・冷蔵庫に使うことをイメージし、図案をデザインする。	課題作品	プリント	振り返りシート
	5	原型制作	・デザインしたものを粘土で成形する。	課題作品	プリント	振り返りシート
	6	量産	・量産するために、石膏で型を取る。 ・粘土で量産する。			
	7	小物雑貨制作①	・古布をリメイクして雑貨を制作する。			
2	9	小物雑貨制作②	①とは異なるデザインでリメイク雑貨を制作する。	課題作品	プリント	振り返りシート
	10	卒業制作 (衣装等)	・総合学科発表会に向けて卒業制作する。 ・これまでの制作過程を活かし、生活に関わるものを各自考察し、制作する。	課題作品	プリント レポート	振り返りシート
	11					
	12					
3	1	卒業制作まとめ	・これまでの制作過程等をまとめ発表に向けてPowerPointを使ってスライドを制作する。	課題作品	プリント レポート	振り返りシート
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

実際に使えるものを制作します。生活を豊かにするための作品作りを心がけましょう。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
課題研究 (立体造形班)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

これまでに学んできた造形的表現の基本をふまえて、専門的な制作に取り組む。表現分野を生活デザイン・立体造形・コンピュータの3分野に分け、それぞれの表現特有の考え方や技法を身に付ける。また個々に課題目標を定め表現活動を提示する力（プレゼンテーション力）を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		プリント、課題作品、レポート、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 立体造形で使用する素材（紙、木材等）の特性を理解し、使用用途、デザインに合わせて使い分けることができる。 ・ 3Dプリンタを操作し、出力することができる。	・ 素材の特性を理解した上で、その素材で制作できうるものを考え、個性を活かして創造的な表現の構想を練っている。	・ より良い作品の完成を目指して、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	素材を知る	・紙、木材について学ぶ。			
		・紙加工	・紙で動物を作り（ペーパークラフト）紙素材の特性を知る。	課題作品	プリント	振り返りシート
		・木材加工	・木材加工を行い、木材の特性を知る。木目のないMDF材も扱う。	課題作品	プリント	振り返りシート
	5	3Dプリンタ作業	・名札を作り、3Dプリンタの扱い方について知る。	課題作品	プリント	振り返りシート
	6					
	7	・チェス駒の制作	・同じ形状のものを大量に制作できる3Dプリンタの特性を活かしてチェスの駒をデザインする。	プリント	レポート	振り返りシート
2	9	・チェス駒の出力	・パソコンでチェス駒のデザインを仕上げ、3Dプリンタで出力する。	課題作品	プリント	振り返りシート
	10	・チェス盤の制作	・駒のイメージに合わせたチェス盤をデザインし、MDF材で制作する。	課題作品	プリント	振り返りシート
	11	・卒業制作 オリジナルボード ゲームのデザイン	・1、2学期で学んだことを活かしてオリジナルボードゲームをデザインする。駒やボード上の小物作り等は3Dプリンタを利用する。	課題作品	レポート	振り返りシート
	12					
3	1	卒業制作の続き	・効果的に各素材を使いこなし、作品の完成度を上げる。	課題作品	レポート	振り返りシート
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

3Dプリンタの特性を学び、3Dプリンタを楽しく利用してください。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
課題研究 (コンピュータ班)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

これまでに学んできた造形的表現の基本をふまえて、専門的な制作に取り組む。表現分野を生活デザイン・立体造形・コンピュータの3分野に分け、それぞれの表現特有の考え方や技法を身に付ける。また個々に課題目標を定め表現活動を提示する力（プレゼンテーション力）を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		アイデアスケッチ、課題作品、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・コンピュータやアプリケーションの使用方法を習得し、課題を作成する上でのスキルを身に付けている。 また、自分の作品をどのように捉え紹介するのかわきを見て評価している。	・CGソフトの活用方法を理解したうえで、表現方法を適切に判断し、個性を生かして創造的な表現を練っている。	・より良い作品の完成を目指して、主体的に学習活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	◎「生活の中で使われるグラフィックデザイン」	○身の周りにあるグラフィックデザインを教材にグラフィックデザインの基本を学ぶ。 ・目的、機能、効果など ・サインの種類について	課題作品	課題作品	出席状況 振り返り シート
	5	◎CGソフトの使用 1. ロゴのトレース	○Adobe Illustratorの使用法を学ぶ。 ・ビットマップ画像とベクトル画像の概念 ・ペンツールの使い方（アンカーポイント、ハンドル） ・レイヤーの使い方	課題作品	課題作品	出席状況 振り返り シート
	6	2. ロゴ制作 （シンボルマークと ロゴタイプ）	・カラーモードについて（RGBとCMYK） ・トレースの方法 ・文字入力の方法 ・アウトライン化の方法 ・グラデーションの使い方 等		アイデア スケッチ	
	7	3. 学校で役立つサイン の制作	○素材の特性について学ぶ。 ・紙の特性 ・インクの特性			
2		4. 印刷物（案内状・チ ラシ等）の制作	○制作に取り掛かるための、取材方法や 課題、問題点の整理方法			
	9	5. パッケージのデザイ ン	○売り場での見え方を考え、パッケージ をデザイン、制作する。 ・店舗での商品の見え方 ・展開図など	課題作品	アイデア スケッチ 課題作品	出席状況 振り返り シート
	10	◎自由制作	○学んだ技術を生かし、GC作品を制作す る。	課題作品	アイデア スケッチ 課題作品	出席状況 振り返り シート
	11	◎制作作品のプレゼ ンテーション準備 （総合学科発表会の 準備）	○PowerPointの使用法を学ぶ。 ・見やすいスライドの作り方	発表スラ イド	発表スラ イド	出席状況 振り返り シート
3	12					
	1	◎制作作品のプレゼ ンテーション （総合学科発表会）	○作品紹介	発表スラ イド	発表スラ イド	出席状況
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

コンピュータグラフィックスに興味を持ち、操作スキルを身に付けましょう。生活の中にあるデザインを注意深く見てください。また制作の為の取材や人前で発表できるよう、日々の生活の中で人と話す機会を多く持ってください。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック基礎実習	2	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

- ・信楽焼きの伝統技術（手ひねり成形・タタラ成形・型おこし成形）を学び、陶芸知識・技術を習得する。
- ・陶芸作品の制作を通じて、観察力・想像力・立体感覚・造形技術の基礎知識を養い、ものづくりの楽しさを味わう。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		焼き上がり作品（陶磁器）、パフォーマンス課題（作品意図発表・作品講評）、プリント・振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・陶芸に関する専門知識技術（手ひねり成形・タタラ成形・型おこし成形）を幅広く理解を深めるとともに、観察力・立体感覚・造形技術の基礎知識を理解するとともに身に付けている。	・陶芸に関する専門的な知識・技能を総合的に働かせ、想像力や作品に対する工夫・立体感覚を意識し、必要な課題を見いだすとともに創造力を養う。他にはないアイデアを考える知識を身に付けている。	・粘土の特性を周知し、制作工程において、手順を踏まえ丁寧に主体的に取り組もうとしている。機械の安全な取り扱いを理解し、適切に道具を扱い、取り組もうと理解している。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	陶器完成に至るまで 小物入れ制作	・作品完成までの工程表を理解する。 ・小物入れ制作	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	5	信楽焼について 狛犬制作	・信楽焼の伝統技術について理解する。 ・タタラ成形での狛犬制作	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	6	釉薬について 小物入れ・狛犬仕上げ、施釉	・釉薬についての知識を身につける。 ・釉薬かけ（ドブつけ）窯詰め（電気 炉）	プリント 作品制作	施釉	振り返り シート
	7	日本六古窯について 作品完成	・信楽焼以外の陶芸産地を理解する。 ・完成した作品意図発表・作品講評	プリント	パフォーマンス 課題	振り返り シート
2	9	信楽焼き伝統成形 円筒制作	・手ひねり成形について理解する。 ・円筒制作（手ひねり成形）練習 1 回	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	10	円筒仕上げ 書体・字体について	・ヤスリがけ仕上げにより作品を整え る。 ・表札（タタラ成形）のデザイン画制作	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	11	タタラ成形について 装飾技法について 表札制作（浮彫り）	・タタラ成形の知識を学ぶ。 ・装飾技法を理解（浮彫・線彫など） ・表札制作（タタラ成形）	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	12	絵付けについて 円筒下絵付 作品施釉	・絵付けについて理解する。 ・呉須を使い円筒への下絵付け ・円筒作品施釉	プリント 作品制作 施釉	作品制作	振り返り シート
3	1	表札仕上げ ステンドグラス乗せ	・文字を整え、ステンドグラス 3 色（水 色・青色・緑色）を表札に乗せ構成す る。	作品制作	作品制作	振り返り シート
	2	ケータイスタンド制 作	・人体の部分を理解し目・鼻・耳・口・ 指を原寸大で成形し、形を理解する ・人体の部分イメージし、ケータイス タンドを制作する。	プリント プリント	パフォーマンス 課題	振り返り シート
	3	作品完成	・完成した作品意図発表・作品講評を行 う。	作品制作	作品制作	振り返り シート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

制作するイメージをしっかりと持つ。
イメージを大切に、授業を取り組み、ものづくりの楽しさを理解する。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック実習A (タタラ成形・手ひねり成形・ろくろ成形)	3	総合学科	2	分割

1. 学習の目標

- ・信楽焼きの技術（タタラ成形・手ひねり成形・ろくろ成形）を学び、陶芸知識・技術を習得する。
- ・陶芸作品の制作を通じて、観察力・想像力・立体感覚・造形技術の基礎知識を養い、ものづくりの楽しさを味わう。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		焼き上がり作品（陶磁器）、パフォーマンス課題（作品意図発表・作品講評）、プリント・振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・陶芸に関する専門知識技術（タタラ成形・手ひねり成形・ろくろ成形）の理解を深め、観察力・立体感覚・造形技術の基礎知識を理解するとともに身に付けている。	・陶芸に関する専門的な知識・技能を総合的に働かせ、想像力や作品に対する工夫・立体感覚を意識し、必要な課題を見いだすとともに創造力を養う。他にはないアイデアを考える知識を身に付けている。	・粘土の特性を周知し、制作の工程において、手順を踏まえ丁寧に主体的に取り組もうとしている。機械の安全な取り扱いを理解し適切に道具を扱い、取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【手ひねり成形】 基本手ひねり成形 円筒制作	- 粘土の基本的扱いについて理解する。 - 積み重ねの技術を理解する	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	5	花瓶制作	- 作品中央から制作し、さまざまな制作方 - 法を理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	6	菓子鉢制作 茶碗制作	手回しろくろを使いこなし、回転を利用して制作することを理解する	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	7	施釉・焼成	- 釉薬についての知識を理解する。 - 釉薬かけ（ドブつけ）窯詰め（電気炉）	プリント	施釉 パフォーマンス課題	振り返り シート
2	9	【ろくろ成形】 粘土の調整	荒練り・菊練りによる粘土の調整方法を学び、粘土の性質を理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	10	土殺し	粘土の延べ上げ・延べ下げによる、芯だしや粒子の調整の必要性を理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	11	ろくろ成形	玉取り・杯挽き・立ち上げ・伸ばし・張らし・なめし・しびき等の各行程を学び、飯茶碗の制作を理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	12	高台削り	水挽き後の作品の仕上げとして、高台の削り出しの削り方を理解する。	プリント 作品制作	作品制作 施釉	振り返り シート
	12	施釉	- 釉薬についての知識を理解する。 - 釉薬かけ（ドブつけ）窯詰め（電気炉）		パフォーマンス課題	
3	1	【タタラ成形】 表札制作	タタラ成形の基本を学び、板状の粘土を用いて文字を印字し表札を制作することを理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	2	マグカップ制作	板状の粘土使い、型紙を用いて粘土を切り取り立体に組み立てることを理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	2	花器の制作	型紙を用いて粘土を切り取り立体に組み立てる。乾燥する前に折り紙を活用した模様を施し表面を削り加飾を理解する	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	3	施釉 焼成について	- 釉薬についての知識を理解する。 - 釉薬かけ（ドブつけ）窯詰め（電気炉）	プリント 作品制作	作品制作 施釉 パフォーマンス課題	振り返り シート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

制作するイメージをしっかりと持つ。
そのイメージを大切に授業に取り組み、ものづくりの楽しさを理解する。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック実習B (釉薬・ろくろ成形・型おこし成形)	3	総合学科	2	分割

1. 学習の目標

- ・信楽焼きの技術（ろくろ成形・型おこし成形）を学び、陶芸知識（釉薬）・造形技術を習得する。
- ・陶芸作品の制作を通じて、観察力・想像力・立体感覚・造形技術の基礎知識を養い、ものづくりの楽しさを味わう

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		焼き上がり作品（陶磁器）、パフォーマンス課題（作品意図発表・作品講評）、プリント・振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 陶芸に関する専門知識技術（釉薬・造形（型おこし成形）ろくろ成形）の理解を深め、観察力・立体感覚・造形技術の基礎知識を理解するとともに身に付けている。	・ 陶芸に関する専門的な知識・技能を総合的に働かせ、想像力や作品に対する工夫・立体感覚を意識し、必要な課題を見いだすとともに創造力を養う。他にはないアイデアを考える知識を身に付けている。	・ 粘土の特性を周知し、制作の工程において、手順を踏まえ丁寧に主体的に取り組もうとしている。機械の安全な取り扱いを理解し、適切に道具を扱い、取り組もうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【釉薬】 釉薬について	・釉薬の発生から伝来、素地の焼成課程など陶磁器の基礎知識を理解する。 ・テストピースは粘土を用いて素地の取り扱い方法や性質などを理解する。 ・釉薬の成分の伝達手段として化学式があるそれはゼーゲル式と呼ばれる物であり、その使い方を理解する。	プリント	作品制作	振り返りシート
	5	テストピースの作成			作品制作	
	6	ゼーゲル式に基づいての釉薬調査		プリント	作品制作	振り返りシート
	7	色釉の試験		プリント	施釉	振り返りシート
	7	総評・鑑賞	・出来上がったテストピースより、釉薬の傾向について理解する。	プリント	パフォーマンス課題	振り返りシート
2	9	【ろくろ成形】 粘土の調整	・荒練り・菊練りによる粘土の調整方法を学び、粘土の性質を理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	10	土殺し	・粘土の延べ上げ・延べ下げによる、芯だしや粒子の調整の必要性を理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	11	ろくろ成形	・玉取り・杯挽き・立ち上げ・伸ばし・張らし・なめし・しっぴき、等の各行程を学び、飯茶碗の制作を理解する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	12	高台削り	・水挽き後の作品の仕上げとして、高台の削り出しの削り方を理解する。	プリント 作品制作	作品制作 施釉	振り返りシート
	12	施釉	・釉薬についての知識を理解する。 ・釉薬かけ（ドブつけ）窯詰め（電気炉）		パフォーマンス課題	
3	1	【型おこし成形】 造形について	・オリジナルお面制作について、制作方法を理解する。ICTを活用して作品をデザインする。	プリント 作品制作		振り返りシート
	2	面造形	・粘土の可塑性を理解し、浮彫り装飾技法を理解する。	プリント 作品制作		振り返りシート
	3	施釉・焼成	・釉薬についての知識を理解する。 ・釉薬かけ（筆塗）窯詰め（電気炉）		施釉	振り返りシート
		講評・まとめ	・作品を講評し、他者の作品を評価し理解する。		パフォーマンス課題	

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

粘土の特性を知り、制作するイメージをしっかりと持つ。
そのイメージを大切に、授業を取り組み、ものづくりの楽しさを理解する。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック実習C (工芸・型おこし・絵付け)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

- ・信楽焼きの技術を学び、陶芸知識・造形技術を習得する。
- ・陶磁器の制作を通じて、観察力・想像力・立体感覚・造形技術の応用知識を養い、食器の利便性について学び、手づくりによる成形法を習得する。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		焼き上がり作品（陶磁器）、パフォーマンス課題（作品発表）、プリント・振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 陶芸に関する専門知識技術 釉薬・造形の理解を深め、 観察力・立体感覚・造形技術の基礎知識を理解するとともに身に付けている。	・ 陶芸に関する専門的な知識・ 技能を総合的に働かせ、想像 力や作品に対する工夫・立体 感覚を意識し、必要な課題を 見いだすとともに創造力を養 う。他にはないアイデアを考 える知識を身に付けている。	・ 粘土の特性を周知し、試験の 工程において、手順を踏まえ 丁寧に主体的に取り組もうと している。機械の安全な取り 扱いを理解し、適切に道具を 扱い、取り組もうとしてい る。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【工芸】 加飾技法を知る デザイン画制作	- 粘土、加飾技法、焼成について学ぶ。 - タイル、花器のデザインを制作。		プリント	振り返りシート
	5	原型の作成 (手ひねり成形)	- タイル、花器を作成する - 造形性を重視し、オリジナルのデザインで作成する。	作品課題	プリント	振り返りシート
	6	道具の使用法の理解	- 削り道具の種類や使い方を学習する。 - 制作手順について理解する。	作品課題	プリント	振り返りシート
	7	加飾	- 自身のデザインの転写 - デザインに沿って彫る - 素焼き工程を経て色化粧土にて加飾	作品課題	プリント	振り返りシート
		施釉	- スプレーをはじめ、釉薬のかけ方を学習する。 - スプレー吹きにて施釉する。 - まとめを完成させる。	パフォーマンス課題	プリント	振り返りシート
2	9	【型おこし】 原型の制作	- 石膏型おこしの基礎を習得する。 - アイデアしたデザインのミニチュアを粘土で制作する。 - 粘土で原型を制作し、石膏型を作る。 - タタラ粘土で制作する。	原型課題 作品課題	プリント	振り返りシート
	10	型おこし成形	- 石膏型制作と型おこし技法を展開させ、技法を習得する。 - たたら成形により同じ厚みに準備した粘土で石膏の原型を忠実に写し取り、成形技法を習得する。 - 赤土、白土の2種類の粘土で量産する。 - 日常食器としての使いやすさ、目的にあった形や厚みなど、商品として実用化を意識した制作する。 - 素焼きし、釉薬を掛ける。	釉薬課題	プリント	振り返りシート
	11					
	12					
		レポート完成	作品の制作意図をまとめる。	パフォーマンス課題	プリント	振り返りシート
3	1	【絵付け】 直線・市松模様	- 手本を見ながら直線を紙に墨汁で描く。 - 素焼きの生地に絵付けをする。	プリント課題作品	プリント	振り返りシート
	2	七宝・青海波など	- 手本を見ながら七宝模様や青海波模様を墨汁で描く。 - 素焼きの生地に絵付けをする。	プリント課題作品	プリント	振り返りシート
	3	業平・巴模様 巴・亀甲模様 唐草・花模様	- 手本を見ながら模様を墨汁で描く。 - 素焼きの生地に絵付けをする。	プリント課題作品	プリント	振り返りシート
		創作模様	- 学習してきた模様と創作した模様を組み合わせて大皿制作に取り組む。 - 素焼きの皿に絵付けし、本焼き後上絵を施す。	プリント課題作品	プリント パフォーマンス課題	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

（食器）実用性のある作品を制作することができます。
（型おこし）日常生活で使える製品を大量生産する技術を習得することができます。
（絵付け）墨汁を使って伝統模様の練習をした後、素焼きの素地に呉須を使用して下絵付けします。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック実習D (釉薬・タタラ・工芸)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

- ・信楽焼きの技術を学び、陶芸知識（型おこし）・生産技術を習得する。
- ・釉薬（亜鉛結晶釉）の制作を通じて、観察力・想像力・立体感覚・造形技術の応用知識を養い、釉薬の色合いの楽しさを味わう。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品、パフォーマンス課題、プリント、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・陶芸に関する専門知識技術 釉薬・造形の理解を深め、 観察力・立体感覚・造形技 術の基礎知識を理解すると ともに身に付けている。	・陶芸に関する専門的な知識・ 技能を総合的に働かせ、想像 力や作品に対する工夫・立体 感覚を意識し、必要な課題を 見いだすとともに創造力を養 う。他にはないアイデアを考 える知識を身に付けている。	・釉薬の特性を周知し、試験の 工程において、手順を踏まえ 丁寧に主体的に取り組もうと している。機械の安全な取り 扱いを理解し、適切に道具を 扱い、取り組もうとしてい る。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階） および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの 3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【釉薬】 テストピースの準備	・釉薬の種類、歴史、由来など、調合する。 ・釉薬の基礎知識を学習し理解する。 ・テストピース制作。		プリント	振り返りシート
	5	亜鉛結晶について (ゼーゲル式)	・亜鉛結晶釉実験をゼーゲル式により調合し理解する。	作品課題	プリント	振り返りシート
		釉薬の調合	・実亜鉛結晶釉の試験と調合（ゼーゲル式）により量産を理解する。	釉薬課題	プリント	振り返りシート
	6	レポート完成	・釉着したテストピースをまとめ、テストピースの結果の観察と考察を考え、まとめを完成させる。	パフォーマンス課題	プリント	振り返りシート
2	9	【タタラ】 タタラ成形の板作り	・タタラ板の制作、真空土練機から出た素地をセラローラーで平らにする。手分けして作業を分業し、タタラ板を制作する。	工程課題	プリント	振り返りシート
	10	採寸決め	・各自で形を決めてデザイン画を制作する。寸法を決め、型紙を作る。型紙に沿って素地を整える。	作品課題	プリント	振り返りシート
	11	組み立て作業	・作品の組み立て、寸法にあわせて作品を立体化する。組み方については細心の注意を計る。	作品課題	プリント	振り返りシート
	12	装飾技法 焼成と釉薬がけ	・成形完成の作品に装飾を考え施す。 ・表面に合うデザインを考え作成する。 ・乾燥し仕上げをして素焼きをする。 ・色を決めて、釉薬がけののちに本焼成をする。	作品課題	プリント	振り返りシート
3	1	【工芸】 デザイン画制作	・オリジナル狸デザイン制作。	デザイン課題	プリント	振り返りシート
	2	手ひねり成形 狸制作	・手ひねり成形を使い、下半身を成形。 ・基礎となる胴体を完成。 ・腕を取り付け、顔の表情を考え作成。 ・デザイン装飾品を取り付ける。 ・全体の形を整え、仕上げる。	作品課題	プリント	振り返りシート
	3	色分け施釉作業	・乾燥・素焼きを経て、色を分けて施釉する。 ・本焼き後、完成した狸の仕上げ。	作品課題	プリント	振り返りシート
		レポート完成	出来上がった狸の制作意図をまとめる。	パフォーマンス課題	プリント	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

（釉薬）計算量が多いですが、計算機の使用を可能としています。
（タタラ）実用性のある物を成形し、装飾技法を学ぶことができます。
（工芸）手ひねり成形の応用を学ぶことができ、造形の可能性を知ることができます。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック工業	2	総合学科	2	セラミック系列選択生一括授業

1. 学習の目標

セラミック工業について、原料や製造、製品に関する基礎的な知識を理解するとともに、関連する技術を習得する。また、セラミックス製造に関する様々な課題を発見し、解決するための応用力を養う。製造技術の向上を目指す主体的な態度と能力を養う。

2. 使用教材

主たる教材	セラミック工業（文部科学省・実教出版）、ワークシート
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		定期考査、小テスト（以下「小T」と表記）、授業プリント（以下「授業P」と表記）提出物、パフォーマンス課題（以下「P課題」と表記）、振り返りシート（以下「振返P」と表記）から総合的に評価する。	
観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評価観点の趣旨	- セラミックス製品全般についての基本的な知識や技能を理解している。 - 陶磁器の歴史について体系的な知識を身につけている。 - 陶磁器製造における技能や材料に関わる専門的な知識を理解している。	- セラミックス製造に関する諸課題を発見し、解決のための方策について自分なりの考えを見つけ出すことができる。 - 陶磁器の歴史、生産地の地理的状況などを関連付け、陶磁器産業が発展してきた理由を見つけ出すことができる。	- セラミックスの製造に関わる知識や技能を主体的に学び取ろうとしている。 - セラミックス製品に関する諸課題について関心を持ち、解決のために必要な知識や技能を主体的に学び取ろうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	セラミック工業の概要	・ 科学技術との関係を理解し、現代における材料の重要性を考える。 ・ 定義、用途や分類、製造法、性質や構造からセラミックとは何かを考える。	小テスト	ワークシート	ワークシート
	5	陶磁器の概要	・ 縄文時代から現代までの陶磁器の歴史を学び、人間生活における陶磁器の変移を概観する。 ・ 性質や用途による陶磁器の分類方法を理解する。 ・ 原料の精製から成形、焼成を経て製品となる陶磁器の製造工程を理解する。	中間 考查	ワークシート	ワークシート
	6				ワークシート 課題	振返シート
	7			期末 考查		
2	9	原料	・ 粘土の生成に着目し可塑性原料の性質用途、種類を理解する。 ・ 原料における非可塑性原料の役割を理解する。 ・ 媒溶原料の種類や働きから、その用途や使用する理由を理解する。	小テスト	ワークシート	ワークシート
	10	原料処理と坏土の調整	・ 粘土質原料における水簾の方法を知り原料調整の重要性を理解する。 ・ 石質原料の粉碎方法や使用する機械の特性を理解する。 ・ 坏土の調整方法や使用される機械の特徴を知り、調整の意義を理解する。	中間 考查	ワークシート 課題	振返シート
	11				ワークシート 課題	振返シート
	12	成形	・ 機械ろくろ、ローラマシン、押し出し器を使用した練土による成形法の特徴を理解する。 ・ 排泥鑄込み成形や固形鑄込み成形の特徴を知り、泥しょうによる成形方法の利点を理解する。 ・ 粉末の加圧成形の特徴を理解する。	小テスト	ワークシート	ワークシート
3	1	釉薬	・ 原料の違いによる釉薬の特性の現れ方を理解する。 ・ 釉薬の種類と組成を理解する。 ・ 着色材料の種類や特徴、顔料や色釉の組成について理解する。	小テスト	ワークシート	ワークシート
	2			学年末 考查	ワークシート 課題	振返シート
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

定期考查や小テストを通じ、セラミックス、特に陶磁器における基本的な知識や技能を修得することも大事ですが、ワークシートを使い自分なりの考えや課題を発見することも大事です。毎回の授業を大切に、授業毎の振り返りをしっかりと行いましょう。提出物は必ず出すようにしてください。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミックアート	2	総合学科	2	自由選択者一斉授業

1. 学習の目標

- ・陶磁器の美術的要素を学ぶ。
- ・世界における陶芸史から中国・中東・西洋・日本等、陶芸の発展とともに広がった陶芸の技術等を学ぶ。
- ・制作技術を学び、陶芸知識を習得する。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		毎授業時間後半に小テスト実施（知識・技能）プリントを使い、陶磁器のデザイン画制作（思考・判断）振り返りシートで評価する（主体的に学習に取り組む態度）。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・陶磁器に関する専門知識を幅広く理解を深めるとともに、美術的な観察力・専門技術の基礎知識を理解しようとしている。	・陶磁器に関する専門的な知識 ・技能を総合的に働かせ、感覚を意識し、必要な課題を見いだすとともに創造力を養う。 ・器やタイル等のデザインを考える知識を身に付け、それを表現できる力を身に付けようとしている。	・陶磁器の特性を周知し、工程において、手順を踏まえ丁寧に主体的に取り組もうとしている。 ・振り返りシートを使い、理解を深めて取り組もうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	世界の陶磁器について	・陶磁器の発展過程から世界にどのように技術が広がったかを知る。		プリント作業	振り返りシート
	5		・中国の陶磁器等の歴史を知る。 ・様々な焼き物（兵馬俑など）も理解する。	小テスト	プリント作業 作品制作	振り返りシート
	6		・芙蓉手などの絵付けを知り、オリジナルのデザインを考える。	小テスト	プリント作業 作品制作	振り返りシート
	7		・ロイロノートでお互いのデザインを共有し、より良いデザインを考察する。	定期考査		
2	9	世界の陶磁器について	○中東 ・タイルを中心にデザインを学ぶ。		プリント作業	振り返りシート
	10	タイル制作	・チューブレリーフをイメージして、石膏に模様を彫り、タイルのデザインとする。	小テスト	プリント作業	振り返りシート
	11		・粘土を使ってオリジナルのタイルを成形する。			
	12	磁器のデザイン	○西洋 ・磁器の発展について学ぶ。	定期考査	プリント作業 作業体験	振り返りシート
3	1	陶磁器について 粘土 成形方法	・粘土・成形・釉薬など基本的な作業工程を理解する。	小テスト	プリント作業	振り返りシート
	2	釉薬 焼成	・粘土の性質、さまざまな成形方法、釉薬の種類を理解する。 ・窯の性質を理解する。		プリント作業	振り返りシート
	3	まとめ制作	・豆皿のデザインを考える。 ・土型による器の制作	定期考査	プリント 作品制作	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

陶磁器の歴史から美術的な要素や知識を学ぶ。
 様々な陶磁器のデザインを考え、生活を豊かにするものを考える。
 調べ学習、プリント作業を丁寧に工夫して行うこと。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック技術	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

- ・セラミックスの製造技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。
- ・セラミックの製造過程における単位操作について理解させるとともに、環境、安全、資源に対する正しい認識を持たせ、実際の生産現場において活用できる能力と態度を育てる

2. 使用教材

主たる教材	なし
副教材	セラミック技術 (社) 日本セラミックス協会

3. 評 価 (評価法と評価観点の趣旨)

評価法		毎授業時間後半に小テスト実施（知識・技能）プリントを使い、陶磁器のデザイン画制作（思考・判断）振り返りシートで評価する（主体的に学習に取り組む態度）。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・セラミックスに関する専門知識（陶磁器・ガラス・セメント・ファインセラミック）成形方法・セラミックの性質を幅広く理解を深めるとともに、観察力・専門技術の基礎知識を理解するとともに身に付けている。	・セラミックスに関する専門的な知識・技能（（陶磁器・ガラス・セメント・ファインセラミック）・成形方法・感覚を意識し、必要な課題を見いだすとともに創造力を養う。他にはないアイデアを考える知識を身に付けている。	・セラミックスの特性を周知し、工程において、手順を踏まえ丁寧に主体的に取り組もうとしている。 ・振り返りシートを使い、理解を深めて取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	セラミックスについて 陶磁器	・陶磁器・ガラス・セメント・ファインセラミックの特徴と性質を理解する。 ・陶磁器の素材や特徴の知識を理解し、陶磁器工程について理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
	5	ガラス	・ガラス素材や材料の知識を理解し、ガラス素材の用途を理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
	6	セメント	・コンクリート製造や建造物利用する方法を理解する。原料を混合し、コンクリートを製造し理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
	7	ファインセラミック	・ファインセラミックの素材や製造工程を理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
	7	素地試験について	・陶磁器の素材（粘土）の実験を行い、性質を理解する。			振り返り シート
2	9	セメント試験について	・セメント施工について理解する。		プリント 作業	振り返り シート
	10	ガラス溶融について	・ガスバーナー使用によるガラス溶融を理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート
	11	練り込み陶器制作 豆皿制作 施釉	・赤土・白土の性質を理解する。 ・練り込みの知識・技術を理解する。 ・タタラ成形の技術の方法を理解する。 ・型おこし成形を理解する。 ・施釉（流し掛け）方法を理解する。	実技 テスト	実技制作 プリント 作業	振り返り シート
	12	練り込み陶器制作 湯呑制作 施釉	・練り込みの技術を理解する。 ・ろくろ成形技術を理解する。 ・施釉（流し掛け）方法を理解する。	実技 テスト	実技制作 プリント 作業	振り返り シート
3	1	セラミック技術 まとめ	窯・釉薬の専門知識を理解する。	小テスト	プリント 作業	振り返り シート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

セラミックスの専門知識を幅広く学び、土の特性を活かした専門技術を習得することができます。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
セラミック化学	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

- ・セラミック材料に関する化学的な知識と技術を習得し、製品の製造と品質の改良に実際に活用する能力と態度を身に着ける。
- ・高等学校でセラミックスを理解するのに必要な化学の基礎知識を習得する。特に原子の構造、化学結合、固体の構造と物性の単元を重点化して学習する。

2. 使用教材

主たる教材	はじめて学ぶセラミック化学 日本セラミックス協会
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		学習プリント、課題考査、パフォーマンス課題、振り返りシート		
観点	a：知識・技術		b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評価 観点 の 趣 旨	・セラミックス、金属、プラスチックの違いについて理解している。 ・原子、分子、およびイオンに関する学習を通じて、元素の記号やイオン式、分子式や組成式について理解している。 ・一般的に利用されるセラミックス材料について、それらの性質と用途について理解している。		・セラミック化学において、製造プロセスで発生する課題や工程に対処するため、学んだ理論を実践に結びつけ判断している。 ・セラミック材料や加工に使用される工具の特性について理解を深め、この知識から具体的な製造手順や製品の特性を的確に判断できている。	・材料の性質や組成、またセラミックの形状や特性に関する知識を積極的に学び取り、これらの知識をセラミック製品の製造や応用に主体的かつ協働的に活用しようと努めている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	人間生活とセラミックス 身の回りのセラミックス セラミックスの定義その未来	・身近なセラミックスについて、具体例を挙げられる。セラミックスとは何か金属とプラスチックとの違いを理解し、セラミックの材料としての利点からその未来を推測する。	プリント 課題考査	プリント 課題考査	振り返りシート
	5					
	6	原子の構造と化学結合 セラミックスを構成しているもの 物質の構成 原子・分子・イオン	・原子、分子、イオンについて学び、元素記号・イオン式、分子式・組成式について理解する。特に分子式と組成式の違いを理解する。また、原子量を理解し、式量の計算ができるようにする。	プリント 課題考査	プリント 課題考査 パフォーマンス課題（レポート）	振り返りシート
2	9	電子配置 元素の種類 化学結合の種類	・電子配置からその化学結合へと発展的に学び、その結合性からくる物質の特性を理解する。	プリント 課題考査	プリント 課題考査	振り返りシート
	10					
	11	固体構造と物性 結晶とは何か 結晶構造 無機物質の構造 結晶構造と性質	・結晶系についてその構造を学習し、結晶構造からその性質を理解する。 ・立体的に理解し模型等が制作できる。	プリント 課題考査	プリント 課題考査 パフォーマンス課題（レポート）	振り返りシート
3	12					
	1	セラミック材料 酸化物材料 非酸化物材料	・シリカ、アルミナなどよく使われる酸化物材料についてその性質・用途について学ぶ。窒化物などの非酸化物材料について、酸化物材料との特性の違いを学習する。	プリント 課題考査	プリント 課題考査 パフォーマンス課題（レポート）	振り返りシート
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

化学的な観点から「セラミックスとは何なのか」という問いに迫っていきます。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン基礎実習	2	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

- ・デザインの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。
- ・デザインの基礎知識・色彩表現の基礎技術を習得する。
- ・ものづくりを通して、創造力を養い、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材
副教材	無し

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品、パフォーマンス課題（作品意図発表・作品講評）、アイディアスケッチ・下絵プリント、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・デザインに関する基礎的な内容について理解を深めているとともに、表現意図を色彩で表すために必要な技能を身につけている。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、デザインの目的や制約などについて理解するとともに、課題のテーマから発想や構想を練ったり、デザインに対する見方や感じ方を深めたりしている。	・デザインと豊かに関わり主体的に表現および鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	グレースケール	○鉛筆で表現できる濃淡を理解する。 ・運筆や力加減の調節技術の習得	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	5	ネガ・ポジ	○同じ構図で明暗の反転技術を学ぶ。 ・グレースケールの濃淡表現を活用した発展課題	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	6	混色	○原色同士を混色してできる色を理解する。 ・適切な水の量 ・マットに塗り仕上げる技術	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	7					
2	9	味覚「甘い・辛い」	○自分の感覚を形や色で表現し、他者との共通した感覚や違いの発見を体感する。 ・「味覚」を簡単な線の構成と色彩で表現	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	10	立体的な表現 「ブロック」	○平面上で視覚的に凹凸に見える着色表現の学習	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	11					
	12	イメージ表現「水」	○「水」特徴を理解する。 ・形や色の構成を工夫した表現の学習	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
3	1	透明感の表現 「セロファン」	○配色による「透ける」表現を学ぶ。 ・不透明絵具であるポスターカラーを使用した表現方法	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年を通してポスターカラーを使用して課題に取り組む。鉛筆、絵具、筆など課題制作には道具が揃っていることが必須となる。また、数回の実習を通して1つの作品制作に取り組む。作品には必ず記名し、完成するまでの作品の保管にも気を配ることが大切である。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン実習 A	4	総合学科	2	一括でT. T.

1. 学習の目標

- ・ 1 年次に学習した色彩と形態の基礎に具体性を持たせ、情報を正確に伝えるための適切な表現方法を身に付ける。
- ・ 外部依頼デザイン（ポスター原画デザイン等）にも対応し、地域との交流や実践的な学習活動を行う。
- ・ ものづくりを通して、創造力を養い、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成教材
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品、パフォーマンス課題（作品意図発表・作品講評）、アイディアスケッチ・下絵プリント、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・デザインに関する基礎的な内容について理解を深めているとともに、表現意図を色彩で表すために必要な技能を身につけている。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、デザインの目的や制約などについて理解するとともに、課題のテーマから発想や構想を練ったり、デザインに対する見方や感じ方を深めたりしている。	・デザインと豊かに関わり主体的に表現および鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～１０の１０段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	R8全国高校総体の入賞メダルデザイン	・メダル制作の条件を理解し、凹凸を使ったデザインを学習する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	5	色彩の基礎	・『色相・明度・彩度』色の三属性の学習 ・『PCCS トーン』	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	6	形体の基礎	・等角図を使った色彩構成	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	7	色彩と形体の応用Ⅰ	・二点透視を使った構成	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
2	9	色彩と形体の応用Ⅱ	・『はめ絵』二点透視図法を活用したイメージ構成	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	10	甲賀セットのラベルデザイン	・うしかい・甲南高校・信楽高校でコラボ商品として販売するものに使用するラベルデザインに取り組む	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	11	しがらき火まつりポスターデザイン	・しがらき火まつり宣伝ポスターのデザイン	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
3	12	しがらき火まつりポスターデザイン	・しがらき火まつり宣伝ポスターのデザイン	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

一年を通してポスターカラーを使用して課題に取り組む。鉛筆、絵具、筆など課題制作には道具が揃っていることが必須となる。また、地域などの外部から依頼されるポスター制作など、校外で活用されるものに取り組んでいく。課題の制作条件や提出期限など、しっかりと理解し守ることが大切である。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン実習 B	4	総合学科	2	一括でT・T

1. 学習の目標

- ・1年次に学習した色彩と形態の基礎に具体性を持たせ、情報を正確に伝えるための適切な表現方法を身に付ける。
- ・レタリング検定に向けての学習に取り組み、デザインの専門的な技術力を身に付ける。
- ・形態の観察力や拡大模写の技術を身に付ける。
- ・ものづくりを通して、創造力を養い、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成教材
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		課題作品、パフォーマンス課題（作品意図発表・作品講評）、アイディアスケッチ・下絵プリント、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・デザインに関する基礎的な内容について理解を深めているとともに、観察力や表現力など、制作に必要な技能を身につけている。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、デザインの目的や制約などについて理解するとともに、課題のテーマから発想や構想を練ったり、デザインに対する見方や感じ方を深めたりしている。	・デザインと豊かに関わり主体的に表現および鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	レタリング演習Ⅰ	・ 4級検定用実技問題	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	5	レタリング演習Ⅱ	・ レタリング検定模擬試験	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	6	デッサン	・ 3次元のモチーフを2次元の紙上に表現することを学ぶ。形、陰影、質感を鉛筆の濃淡や描くタッチで表現する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	7		①箱ティッシュのデッサン ②トイレトペーパーのデッサン ③縄のデッサン			
2	9	縄の色彩構成①	・ デッサンで学んだ表現力を発展させ、ポスターカラーを使用して、縄の明暗や質感を有彩色で表現する方法を学習する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	10	縄の色彩構成②	・ 縄の色彩構成①を活用し、さらに他の要素と組み合わせた色彩構成に取り組む。奥行のある空間表現についても考察する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	11	セロファンの色彩構成	・ 不透明絵具であるポスターカラーで「透ける」表現について学習する。重なりの手前、奥の空間を計画通りに表現できるように留意する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	12	蝶図鑑雑誌表紙デザイン	・ 蝶図鑑雑誌（仮想の雑誌）の表紙をデザインする。 *レタリングで学んだ書体デザインを活用する。 *蝶の羽模様を美しい形と色のデザインになるよういくつかの案を考える。 *プレゼンテーション、講評。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
3	1	地図のデザイン	・ 道路地図をもとにして色彩構成をする。	プリント 作品制作	作品制作	振り返り シート
	2		*道路や鉄道、住宅街の整備された形、山の等高線などを利用して形の面白さを構成に生かす。美しい色彩になるよう配色を考える。			
	3		*プレゼンテーション・講評。			

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

この実習では、形を注意深く観察して写しとる課題に取り組む。根気よく課題に取り組む姿勢と集中力が必要である。また、自分が作品で表現したいものに適した画材を選択できるように、様々な画材に触れながら、特徴を理解し、使いこなせるよう練習を重ね、3年次につなげていきたい。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン実習C (ビジュアル班)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

これまでに学んできた表現の基本をふまえて、専門的な制作に取り組む。造形的表現をビジュアル・プロダクト・クラフトの3領域に分け、それぞれの表現特有の考え方や技法を身に付ける。また個々の表現活動を提示する力（プレゼンテーション力）を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		プリント、エスキース、課題作品、振り返りシートで評価する。	
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・視覚伝達の効果を理解し、ポスターカラーを主とした絵の具を使用し用途、デザインを考え、社会生活に有益となる作品の制作を目指している。	・課題の目的を理解した上で、そのテーマにあった作品の制作できるものを考え、個々の個性を生かして創造的で独創的な表現の構想を練っている。	・社会や自分の生活に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	◎しりとりにイラスト	・豊かな発想で、イラストを描く。 文字を使った説明が無くてもイラストが示すものが分かるよう、表現や構図を工夫する。	課題作品	資料収集	振り返りシート
	5	キャラクターをデザインする	・キャラクターをデザインするにあたり人物の描き方や背景の描き方を学ぶ。	プリント	資料収集	振り返りシート
	6	1. 主要キャラクターの設定	・人物の性格や趣味、嗜好を設定し表現する。			
	7	2. サブキャラクターの設定 3. 場面設定	・メインキャラクターとかかわるサブキャラクターを描く。 ・いつどこで何をしているかを考え描く。	課題作品	アイデアスケッチ	振り返りシート
2	9	人物模写	・実在の人物をモチーフとして模写する。	プリント	アイデアスケッチ	振り返りシート
	10	◎人物を模写することにより多様な表現方法を学ぶ。		課題作品	下書き	振り返りシート
	11	1, モチーフ選択 2, 表現技法研究				
	12	◎卒業制作	・これまでの実習を通して学んできたことをふまえて個々に作品作りに取り組む。	課題作品	アイデアスケッチ	振り返りシート
3	1	卒業制作続き				
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

多様な視覚伝達の表現・技法を用いてイラストなどを描いてください。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン実習C (プロダクト班)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

これまでに学んできた造形的表現の基本をふまえて、専門的な制作に取り組む。造形的表現をビジュアル・プロダクト・クラフトの3領域に分け、それぞれの表現特有の考え方や技法を身に付ける。また個々の表現活動を提示する力（プレゼンテーション力）を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		プリント、課題作品、レポート、振り返りシートで評価する。		
観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・木材の素材としての性質を理解し、基本的な加工方法を身につけている。 ・その他の素材についても扱い、加工方法を身につけている。	・素材の性質を理解した上で、その素材で制作できうるものを考え、個性を活かして創造的な表現の構想を練っている。	・より良い作品の完成を目指して、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	◎身近な素材である木材について学ぶ	・木を材料として作品作りをする上で、必要な木材の性質を学ぶ。「板」の意味。	プリント	レポート	振り返りシート
	5	1. 木材加工	・アサリのないノコギリを使って木材の精密加工を学ぶ。	課題作品	レポート	振り返りシート
	6	・箱イスの縮小模型化	・教室にある箱イスを計測し、1/10サイズの模型として再現する方法を学ぶ。	課題作品	レポート	振り返りシート
		・ミニチュア家具作り	・テーブル等自由にデザインし、木材の加工方法、組み立てる手順等を学ぶ。	課題作品	レポート	振り返りシート
	7	・店舗デザイン (将来持ちたい店をデザインする)	・「将来持ちたい店」を考え、間取りを設計し、家具や什器のデザイン等を行う。(平面作図作業)	プリント	プリント	振り返りシート
2	9	◎店舗デザイン (卒業制作)	・1学期の実習を通して学んできたことをふまえて個々に店舗デザインに取り組む。			
	10	2. その他、立体素材等の体験	・店舗の表現に必要な、木材以外の素材の扱い方を学ぶ。			
		・紙粘土、布	・紙粘土を使った小物(商品)の制作。 布を使った床や壁の表現を学ぶ。	課題作品	レポート	振り返りシート
	11	・電飾	・LEDの配線やハンダ付け等を学ぶ。	課題作品	レポート	振り返りシート
	12	・3Dプリンタ	・3Dプリンタを使って小物等を出力する。	課題作品	レポート	振り返りシート
3	1 2 3	◎店舗デザイン続き	・効果的に素材を使って作品を完成できるように意識して制作する。	課題作品	レポート	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ(学習方法など)

木材という素材に興味を持ち、特性を活かして加工できるように技術を習得してください。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン実習C (クラフト班)	3	総合学科	3	分割

1. 学習の目標

これまでに学んできた造形的表現の基本をふまえて、専門的な制作に取り組む。造形的表現をビジュアル・プロダクト・クラフトの3領域に分け、それぞれの表現特有の考え方や技法を身に付ける。また個々の表現活動を提示する力（プレゼンテーション力）を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		プリント、エスキース、課題作品、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 木材や陶器を素材としての性質を理解し、使用用途、デザインを考え、自分の生活に有益となる作品の制作を目指している。	・ 素材の性質を理解した上で、その素材で制作できうるものを考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練っている。	・ 社会や自分の生活に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	◎身近な素材である木材について学ぶ	・木を材料として作品作りをする上で、必要な木材の性質を学ぶ。	プリント	エスキース	振り返りシート
	5	1. 針葉樹と広葉樹				
	6	2. 加工材と無垢材				
1	6	3. 林業の現状				
	7	4. 木材加工 ・木製のおもちゃ ・木のカトラリー	・木工作家の技法を模倣し、木工細工の技法を習得する。 ・実際に使うことを考慮して、使いやすさや追求する。	課題作品	エスキース	振り返りシート
2	9	木材加工続き				
	10	◎信楽高校として身近な素材である陶器について学ぶ	・信楽高校として取り扱っている陶器について学び、自身の知見、技術を高める	プリント	レポート	振り返りシート
	11	1. 陶器の種類 2. 陶器製品 3. 陶器制作 ・日用品制作	・粘土から陶器への制作工程等を学ぶ。	課題作品	エスキース	振り返りシート
	12	◎卒業制作	・これまでの実習を通して学んできたことをふまえて個々に作品作りに取り組む。 ・完成作品の発表・展示まで意識して制作する。	課題作品	エスキース	振り返りシート
3	1	卒業制作続き				
	2					
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

木材・陶器など素材に興味を持ち、身の周りでどのように素材が使われているか注意深く観察をしてください。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン実習D	3	総合学科	3	系列一斉

1. 学習の目標

これまでに学んできた表現の基本をふまえて、専門的な制作に取り組む。地域のイベントや地域と連携した外部以来の作品制作に取り組む。

2. 使用教材

主たる教材	自主編成教材（自主作成プリントなど）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		プリント、エスキース、課題作品、振り返りシートで評価する。	
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・ 視覚伝達の効果を理解し、ポスターカラーを主とした絵の具を使用し用途、デザインを考え、社会生活に有益となる作品の制作を目指している。	・ 依頼された内容の意図や目的を確認しどのようなデザインが適しているかをイメージして最適なデザインを考えている。	・ 依頼者の希望を取り入れつつ、目的に向かってより相手に伝わるデザインにするため情報、資料の収集をして制作しようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	◎マラソン大会ポスター制作	・マラソン大会のポスターを制作するにあたりマラソン大会や地域の特徴について調べる。	プリント	資料収集	振り返りシート
	5	1, 特徴的なモチーフを調べる	・イベントに不可欠な特徴的な要因を調べモチーフとしスケッチする。			
	6	2, 全体的な構成をする	・ポスターに必要な構成要素（文字、イラスト）をレイアウトしラフスケッチを描く。			
	7	3, 制作	・ポスターカラーを主とした絵の具を用いて着彩し完成させる。	課題作品	アイデアスケッチ	振り返りシート
2	9	◎コラボ商品のパッケージデザイン	・地域の特産品（米）、農業高校の生産品（卵）のパッケージをデザインする。	プリント	資料収集	振り返りシート
	10	1, 特徴的なモチーフを調べる	・イベントに不可欠な特徴的な要因を調べモチーフとしスケッチする。			
	11	2, 全体的な構成をする	・ポスターに必要な構成要素（文字、イラスト）をレイアウトしラフスケッチを描く。			
	12	3, 制作	・ポスターカラーを主とした絵の具を用いて着彩し完成させる。	課題作品	アイデアスケッチ	振り返りシート
3	1	◎学校機関紙の表紙デザイン	・毎年発行している機関紙の表紙をデザインする。	プリント	資料収集	振り返りシート
	2	1, 学校生活でモチーフとなりえるものを上げスケッチする。	・必要な構成要素（文字、イラスト）をレイアウトしラフスケッチを描く。			
	2	2, 全体的な構成をする。				
	3	3, 制作	・ポスターカラーを主とした絵の具を用いて着彩し完成させる。	課題作品	アイデアスケッチ	振り返りシート

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

依頼者の希望や気持ちに寄り添ったデザインを考え、制作して下さい。

2025年度 工 業 科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン概論	2	総合学科	2	一括

1. 学習の目標

- ・現代につながるデザイン史について知識を深め、『デザインとは何か』について考え、自己のものづくりに結び付ける。
- ・デザインの目的や機能などを考えた発想や構想を練る。
- ・発想や構想したことを基に、個性を生かして創造的に表すことができる。
- ・意見交流から、多様な視点を発見し、デザインに対する興味を深め、協働的に取り組む態度を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主制作教材
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		パフォーマンス課題、プリント、レポート、定期考査、課題作品、振り返りシートで評価する。		
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評 価 観 点 の 趣 旨	・デザインの概念や歴史を理解し、そこから現代のデザインについて考え、自分の生活やものづくりに結び付けることができる。	・デザインの社会的な役割について考察して、個性を生かして創造的な表現の構想を練る。	・デザインについて関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	◎身近なデザインを見つける	*自身の生活で毎日当たり前に目にするものを、『デザイン』の視点で見直してみる。	プリント	レポート	振り返りシート
	5	1. 伝統的な手仕事のデザイン	・昔ながらの手作りの手工芸品や着物の柄など、家にあるものや学校内にあるものなどをipadを使って撮影してきたり、持参して、鑑賞する。機能性や美しさなど、デザインの工夫を発見する。	プリント	レポート	振り返りシート
		2. 大量生産されたデザイン	・1. に続き、大量生産された工業製品について調べ、デザインの工夫を発見する。	プリント	レポート ディベート	振り返りシート
	6	3. 機能性と美しさ	・1と2でどのような相違点があるか、グループワークで意見交流を行う。	プリント	レポート	振り返りシート
	7	4. 標識・看板とロゴ	・『日常で使用する道具』に着目し、デザインの勝利と敗北を探してみる。そこから、機能性や美しさについて考えを深めていく。	プリント	レポート	振り返りシート
			・『発信するデザイン』をテーマに、3と同じくデザインの勝利と敗北を探してみる。見やすさやインパクト（宣伝力）、発信する側の狙いと受信する側の受け取り方など、情報デザインについて考える。			
2	9	◎デザイン史より 1. ウィリアム・モリスに学ぶ	・歴史を知り、現代の社会の中にあるデザインについて知識を深めていく。	プリント	レポート	振り返りシート
	10	2. バウハウスの活動	・「モダンデザインの父」と呼ばれる19世紀のイギリスで活躍したウィリアム・モリスについて調べ、現代のデザインにどのような影響を与えているか、学習する。	プリント	レポート	振り返りシート
			・バウハウスについて調べ、産業の発展とデザインとの関係について学習する。	プリント 中間考査	レポート 中間考査	振り返りシート
	11	◎パッケージデザインⅠ 1. 様々な商品のパッケージを調べる	・身近な商品や製品が入っているパッケージを観察し、中身とパッケージの関係性について学習する。	プリント	レポート	振り返りシート
3	12		・3学期の和菓子のパッケージデザイン制作につながるよう、商品の生産者側と購入者側の視点について考える。			
	1	◎パッケージデザインⅡ 1. 和菓子のパッケージ	・和菓子とそのパッケージをデザインし制作する。	プリント 作品制作	作品制作	振り返りシート
	2		・和菓子の材料や色・形を考え、紙粘土等を使用して制作する。			
	3		・パッケージは、主に紙を使用し、和菓子との調和や魅力をアピールできるよう考案し制作する。			

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・現代のデザインへの理解を深めるため、日常的に身の回りの物の役割や機能性に関心をもつこと。
- ・授業で学ぶ内容が、創作活動や実生活と結びついているという意識を持つこと。
- ・他者との意見交流から、様々な視点や考え方があることを知り、ものづくりの奥深さを楽しんでほしい。

2025年度 工業科

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
デザイン工芸	2	総合学科	3	選択

1. 学習の目標

用途に合わせたデザインを考え、使用する道具や素材の性質について理解を深め、表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。また、主題を生成し、造形的な視点で捉え、新たな表現に挑戦する力や、計画的に制作を進めてく態度を養う。

2. 使用教材

主たる教材	自主作成教材（ワークシートや作品例など）
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		出席状況、ワークシート、課題作品の内容、レポート、振り返りシート、取り組み姿勢等により、総合的に評価する。	
観 点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	- 制作に用いる素材や用具の特性を理解し、目的に応じた使用、使い分けをしている。 - モチーフや色、形の性質を理解し、表現方法にあったデザインの構想を練っている。	- 素材の特性を理解した上で、目指す作品への活用法を考え、造形的な表現の構想を練っている。 - 個性を活かして豊かな発想で、表現方法を工夫している。	- よりよい作品の完成を目指し、主体的に学習活動に取り組もうとしている。 - 各課題に応じて自ら主題を生成し、造形的な見方や考え方を働かせ、計画的に活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	【達磨制作】	・芸術・美術の幅広い分野の中の一つとしての工芸について学ぶ。達磨制作をもとに、根気のいる作業の実践をしていく。			
	5	1, 張り子で下地作り			アイデアスケッチ	取り組み姿勢
	6	2, 針金等で加工 3, ソフト粘土で成形	・風船をベースに張り子の技法で強度が出るまで新聞紙を張り付けた後、針金等でオリジナリティ要素を取り入れていく。	課題作品	ワークシート	振り返りシート レポート
	7	【名前の消しゴムハンコ制作】	・手ぬぐいの隅に押す印をデザインし、自身の名前を消しゴムハンコで作成			
2	9	【手ぬぐい制作】	・綿や手ぬぐいについて学ぶ			
	10	1, モチーフ選択、 2, ステンシルシート制作	・版画の一つとして孔版（ステンシル）について学ぶ		アイデアスケッチ	取り組み姿勢
	11	3, 染め 4, ラベル制作	・手ぬぐい制作を通して「染め」について学ぶ	課題作品		振り返りシート レポート
	12	【絞り染め】	・絞り染め体験を通して伝統技法について学ぶ	課題作品	ワークシート	取り組み姿勢
3	1	【ポップアップカード制作】	・仕掛け絵本や飛び出すカードをもとに、平面から立体に変化する構造を理解し、ポップアップカードを作成する	課題作品	アイデアスケッチ	振り返りシート
	2					
	3					取り組み姿勢

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

収集した情報を分解し、再構築して頂きます。プレゼンテーション等の発表や鑑賞も検討しています。一つ当たりの課題制作期間が長く、根気と集中力、体力のいる内容です。興味のある方は今のうちから以上の三点を養っておいてください。

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
総合的な探究の時間	1	総合学科	1	T T

1. 学習の目標

- ・進路実現に向けたキャリア教育（系列についても詳しく知る）
- ・地域社会と連携した社会貢献活動
- ・各自の進路に合わせて自発的に学習に取り組む姿勢の確立

2. 使用教材

主たる教材	キャリアデザインガイドブック
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		小テスト、ノート、パフォーマンス課題（スピーチ発表、プレゼンテーション、グループ討議）、感想レポート、振り返りシート		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・探究の課程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	・実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	・探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめる。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	進路希望調査 ・高校生活の送り方 ・過去の進路状況	・過去の進路状況の情報から、自らの進路や高校生活を考える。 (進路希望調査用紙への記入)		感想レポート	感想レポート
	5	進路の目標を持つ ・系列選択 ・進路決定までのスケジュール	・系列について学ぶ。 (系列希望調査用紙への記入) ・進路についての情報収集を行う。 (端末の活用)	小テスト	感想レポート	感想レポート
	6	・進学について ・就職について				
	7	人生設計をしよう ・SDGsについて	・SDGsについての情報収集を行う。 (端末の活用)	小テスト		感想レポート
2	9	進路ガイダンス1 ・進学、就職について	・各種学校、企業の説明会に参加する。			感想レポート
	10	地域を知ろう ・信楽町探訪	・SDGsに関わる地域の情報を収集し、町内の探訪や、奉仕活動を行う。	小テスト	プレゼンテーション	ノート 感想レポート
	11	・奉仕活動				
	12	進路ガイダンス2 ・進学、就職について(先輩と語る会)	・卒業生の講話を聞き、自らの進路希望を踏まえて語り合う。			感想レポート
3	1	自分を知ろう ・あなたの考えをまとめよう ・あなたの考えを友人と話そう	・SDGs、進路に関して自分の考えをまとめる。 ・グループ討議を行う。	小テスト	スピーチ	ノート スピーチ
	2	進路ガイダンス3 ・進学、就職について	・各種学校、企業の説明会に参加する。			感想レポート
	3	総合学科発表会に参加して	・感想や次年度(系列)への抱負をまとめる。			感想レポート

5. 担当者からのメッセージ(学習方法など)

「人の話を聞く」「自分の意見をまとめる」活動を大切にする。
毎時間しっかりと参加する。

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
総合的な探究の時間	1	総合学科	2	TT

1. 学習の目標

- ・進路実現に向けたキャリア教育の展開（可能性を探る）
- ・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身につける
- ・各自の進路に合わせ、自発的に学習に取り組む姿勢を身につける

2. 使用教材

主たる教材	キャリアデザインガイドブック
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		小テスト、ノート、パフォーマンス課題（スピーチ発表、プレゼンテーション、グループ討議）、感想レポート、振り返りシート		
観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度	
評価観点の趣旨	・探究の過程において、進路実現のために必要な知識および技能を身に付け、自身のキャリアに関わる観念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	・将来的なキャリアの形成と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	・探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい進路実現のための知識や技能を身につけようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	進路希望調査 ・ 自己の適性と進路選択	・ 進路希望調査用紙を記入する ・ 自己評価	小テスト	感想レポート	振り返りシート
	5	進学について理解する ・ 自由選択科目調査	・ 進学についての手順・校種を理解し情報を収集する ・ 自己評価		感想レポート	振り返りシート
	6	・ 奨学金について理解する	・ 進学のための奨学金について理解し手続きの方法を知るための情報を収集する		感想レポート	振り返りシート
	7	・ 進路ガイダンス 1	・ 外部機関（講師講話）によるガイダンスを受ける			
		職業の種類について調べる ・ 求人票について理解する	・ 個人での情報収集（インターネット検索など） ・ 求人票の見方を学び情報を収集する		スピーチ発表	振り返りシート
2	9	・ コミュニケーション能力を身につける	・ コミュニケーションの取り方を学ぶ ・ グループ討議、発表	小テスト	グループ討議・発表	振り返りシート
	10				感想レポート	振り返りシート
	11	・ クリエイター事業事前学習	・ 企業、大学調べ・経路検索 ・ 自己紹介シート作成 ・ 報告書の書き方・礼状の書き方			
	12	・ クリエイター事業体験	・ インターンシップ、企業見学、大学連携			
		・ クリエイター事業事後学習	・ 礼状作成 ・ 校内発表会に向けて ・ 学年発表会		プレゼンテーション	感想レポート
3	1	これまでの振り返ろう ・ 総合学科発表会に参加して	・ 自己分析 ・ 感想・まとめ	ノート	スピーチ	感想レポート
	2	・ 進路ガイダンス 2	・ 外部機関（各種学校説明会）			振り返りシート
	3	・ 2年次のまとめをしよう ・ 3年次に向けて	・ 自己目標設定			

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・ 自己の適性を知り、自分に合った職業を見つける。
- ・ 高校卒業後の進路について方向性を出す。
- ・ 毎時間しっかりと参加する。

科目名	単位数	学 科	年 次	授業形態
総合的な探求の時間	1	総合学科	3	一斉

1. 学習の目標

- ・進路実現に向けたキャリア教育の展開（可能性を探る）
- ・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身につける
- ・各自の進路に合わせ、自発的に学習に取り組む姿勢を身につける
- ・学習内容をグループでまとめ発表する

2. 使用教材

主たる教材	キャリアデザインガイドブック
副教材	なし

3. 評 価（評価法と評価観点の趣旨）

評価法		パフォーマンス課題（スピーチ発表、プレゼンテーション、グループ討議） ワークシート、レポート、振り返りシート	
観 点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
評 価 観 点 の 趣 旨	・探究の過程において、進路実現のために必要な知識および技能を身に付け、自身のキャリアに関わる観念を形成している。また、学習内容をプレゼンテーションするためのアプリケーションソフトの操作方法を身に付けている。	・将来的なキャリアの形成と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめている。また、よりよい発表となるよう試行錯誤している。	・探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、知識や技能を身につけようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末にはA、B、Cの3段階の評価で総合的にまとめます。			

4. 学習の活動

学期	月	学習項目・単元等	学 習 内 容	評価方法		
				a	b	c
1	4	進路希望調査 ・入試までの流れ ・進路講話 1	・進路希望調査用紙を記入する ・情報の収集と分析 ・解説	レポー ト	レポー ト	振り返 りシー ト
	5	・進路に関わる人権教育 ・進路講話 2	・解説 ・解説			
	6	進学・就職活動	・過去の資料を基に自らのスケジュール を作成する	レポー ト	レポー ト	振り返 りシー ト
	7	・活動を始める前に ・自己の適正分析	・自己評価			
2	9	・面接・作文練習 ・礼状の記入の練習	・ワークシート記入 ・ワークシート記入	ワーク シート	ワーク シート	振り返 りシー ト
	10	社会人としての知識 ・裁判の仕組み・裁判員 制度	・外部講師講話	レポー ト	レポー ト	振り返 りシー ト
	11	・「消費者ネット問題」 ・主権者教育 ・「労働問題について」 ・「国際理解」 ・「税金と社会保障」 ・ライフプラン				
	12	社会人としての心構え ・着こなしセミナー 総合学科発表会準備	・グループ討議	パフォー ーマン ス課題	パフォー ーマン ス課題	振り返 りシー ト
3	1	総合学科発表会準備	・グループ討議 ・スライドショー作成	パフォー ーマン ス課題	パフォー ーマン ス課題	振り返 りシー ト
	2	総合学科発表会	・発表			
	3					

5. 担当者からのメッセージ（学習方法など）

分らないことがあれば食欲に調べましょう。